岩手県文化財調査報告書　第93集

岩手県内遺跡発掘調査報告書
（平成４年度）

平成５年３月

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書　第93集

岩手県内遺跡発掘調査報告書
（平成４年度）

平成５年３月

岩手県教育委員会

序　文

埋蔵文化財は、私たちの先祖より永く培われてきた貴重な歴史資料であります。私たちはそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき保護・活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は、近年の増大する大規模な開発等によりきびしい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかるために、遺跡の性格・所在地・範囲等を正確に示すことが必要であることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、市町村教育委員会のご協力も得て、現在県内で確認されている遺跡数は8,500余ヵ所にものぼります。これらの遺跡の周知徹底を計る必要があると共に、開発事業との調整の中で発掘調査を行なった記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より、年度毎に報告書を作成しております。

本報告書は、平成４年度に実施した県内遺跡の発掘調査・試掘調査・分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。

平成５年３月

岩手県教育委員会

教育長　高　橋　健　之

例　言

1．本書は、岩手県教育委員会が平成4年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。

2．本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。

3．遺跡位置図は、国土地理院発行の1/25,000地図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業所より入手した1/1,000地図を原図に、縮尺1/2を原則として掲載したが、双方とも、調査範囲の広いものについては縮小してある。

4．試掘調査に係る遺跡の推定範囲については、スクリーントーンで示し、試掘溝は実線で示した。

5．遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。

6．本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局文化課の小田野哲憲主任文化財主査、熊谷常正・中村英俊文化財主査が担当した。なお、整理については、下記の方々のご協力をいただいた。

　　津島秀章、八重樫忠郎、松本恵利子、片野良子、恵津森礼子

7．本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目　　次

序　　文

例　　言

Ⅰ　**発掘調査**

1．磐井川流域下水道整備事業関連…… 3

(1)　泉屋遺跡

2．県営ほ場整備事業［飯岡第1地区］関連…… 9

(1)　深渕Ⅰ遺跡

3．県営ほ場整備事業［愛宕南部地区］関連……17

(1)　下惣田遺跡　　(2)　寺田遺跡　　(3)　落合遺跡第2地点

Ⅱ　**試掘調査**

1．県営ほ場整備事業［飯岡第1地区］関連……35

(1)　林崎Ⅱ遺跡　　(2)　藤島遺跡　　(3)　辻屋敷遺跡

2．県営ほ場整備事業［愛宕南部地区］関連……37

(1)　力石・兎Ⅰ遺跡　(2)　落合遺跡第1地点　(3)　鴻之巣館遺跡　(4)　朴の木遺跡

3．県営農村活性化住環境整備事業［大桜地区］関連……45

(1)　目呂木本杉遺跡

4．かんがい排水整備・南都田地区事業関連……46

(1)　清水下遺跡

5．三陸国道山田道路関連調査……47

(1)　大畑Ⅰ遺跡　　(2)　山ノ内Ⅲ遺跡　　(3)　沢田Ⅰ遺跡

6．東北横断自動車道秋田線関連……51

(1)　本内Ⅰ遺跡　　(2)　本内Ⅱ遺跡　　(3)　耳取Ⅰ遺跡

7．交流ネットワーク道路整備事業・主要地方道久慈岩泉線……53

(1)　江川鉄山跡

8．県道下斗米田子線下斗米地区改修事業……54

(1)　寺久保遺跡

9．主要地方道一戸山形線改良事業……56

(1)　小井田Ⅰ遺跡

10．広域農道整備事業・北上地区……56

(1)　鳩岡崎上の台遺跡

11. 農免農道整備事業・江刺家地区……58
(1) 田代遺跡
12. 胆沢ダム建設関連調査……60
(1) 下尿前II遺跡
13. 北本内ダム建設事業……62
(1) 土場遺跡
14. 県立松岡養護学校増築関連調査……63
(1) 松屋敷遺跡
15. その他の試掘調査……64

III 分布調査

1. 県営ほ場整備［赤石第1地区］関連…69
2. 県営ほ場整備［上平沢地区］関連……69
3. 県営ほ場整備［飯岡第1地区］関連…69
4. 低コスト化水田
［宮手・稲藤地区］関連……70
5. 県営ほ場整備［綾織地区］関連……70
6. 農村活性化［北方地区］関連……70
7. 農村活性化住［大桜地区］関連……71
8. 水環境整備［新堰地区］関連……71
9. 広域農道整備［東磐井地区］関連……71
10. 一般農道整備［太田地区］関連……71
11. 県営農免道整備［鳥長根地区］関連…72
12. 県営農免道整備［晴山地区］関連……72
13. 県営農免道整備［上野地区］関連……72
14. 広域農道整備［盛岡西部地区］関連…72
15. 県道上斗米金田一線改良関連…73
16. 県道二戸田子線改良関連……73
17. 国道 283号線改良関連……74
18. 県道川目津志田線改良関連……74
19. 県道永沢水沢線改良関連……74
20. 県道和賀金ヶ崎胆沢線改良関連
……75
21. 県道相去飯豊線新九年橋線改良
関連……75
22. 北上南ＩＣ取付道路建設関連…75
23. 県道長坂東稲前沢線改良建設
関連……75
24. その他の分布調査……76

IV 写真図版

Ⅰ　発掘調査

1．磐井川流域下水道整備事業関連

(1)　泉屋遺跡（第１図参照）

所在地：平泉町平泉字泉屋

調査期日：平成４年11月２～30日

本遺跡は、平泉市街地の南を東流する太田川の北岸に位置し、低位段丘および沖積面にまたがって形成されている。西隣する志羅山遺跡とは国道４号を隔てるのみで、その境界については判然としない。

今回の調査地点は、東北線平泉駅の南約200m、東北線と旧国道に挟まれ、段丘が開析され沢状に沖積面が入り込む部分である。調査地点の標高は約21.2m、周辺の段丘面とは１～1.5mの比高差を測る。

調査面積が少なく、調査対象地区が沖積層で湧水による影響も考えられることから、遺物包含層を層位的に掘り下げる調査方法をとった。

層序は次のとおりである。(第３図)

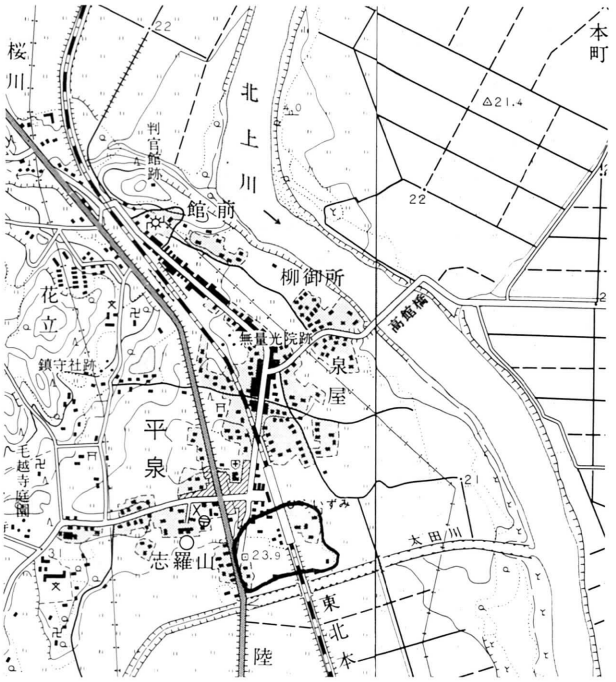
第１層：表土及び現代の耕作土。

第２層：暗褐色土層。しまり強く全体が赤色酸化する。

第３層：暗褐色～黒褐色土層。この層を上下に区分したが、下層に移るにつれ、黒味を増す、シルト層。

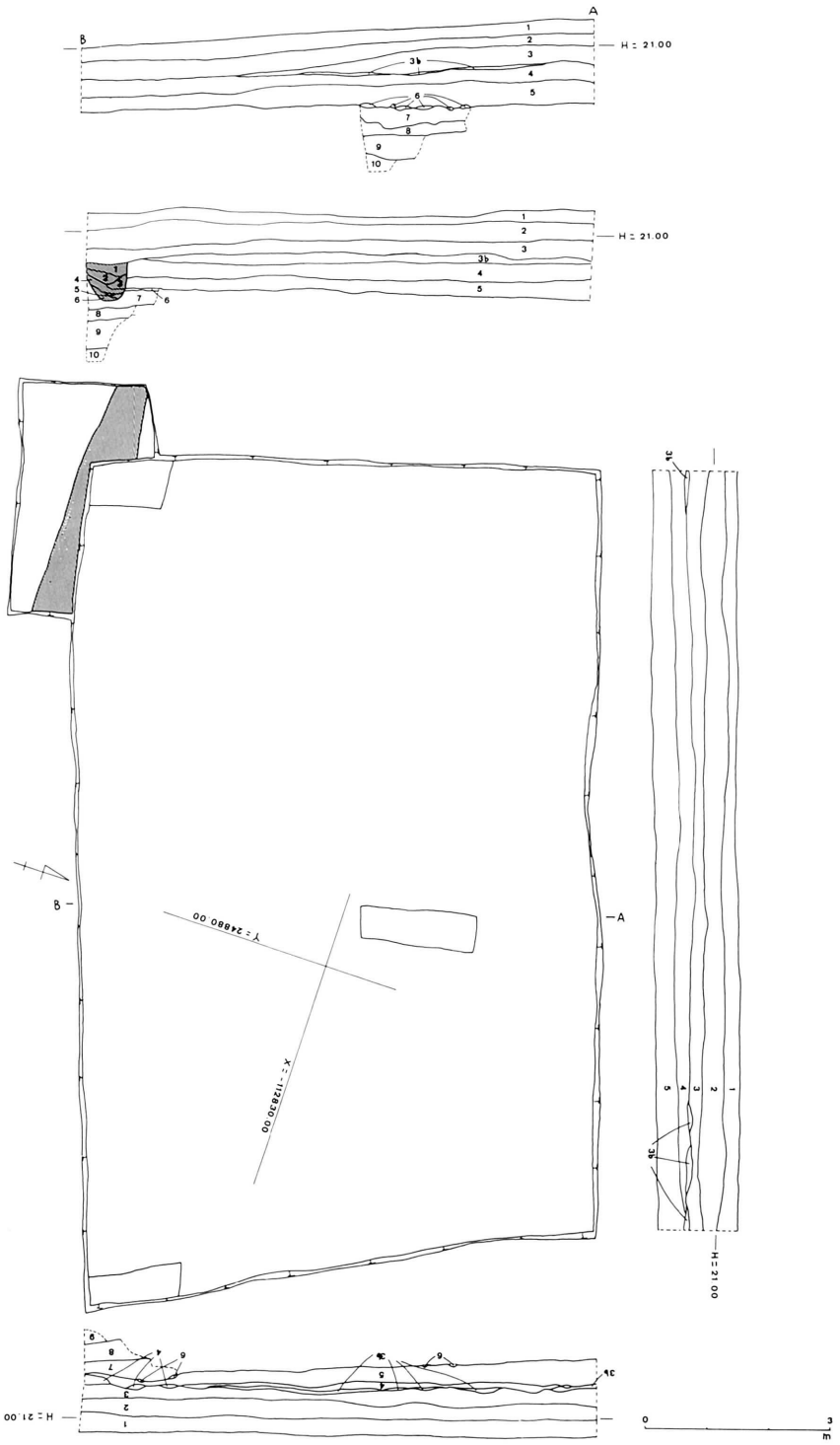
第４層：緑灰色土層。粘土質のシルトで、層上部に砂層が発達する。粘性が強い。

第５層：黒褐色土層。粘土質シルト。粘性強く、自然木細片を含む。



第１図

第２図　泉屋遺跡調査区位置図



第３図　泉屋遺跡グリッド・層序図

第６層：白色火山灰層。発掘区全体に広がるが、層厚は最大でも20～50㎜に過ぎない。今回の調査は、本層を面的に検出することで、作業を終了している。

第７層：暗緑灰色土層、粘土質シルト、白色火山灰が僅かに混じる。

第８層：黒褐色土層、粘土、自然木細片を少量含む。

第９層：暗緑灰色土層、粘土、10層への漸位層。

第10層：緑灰色土層、砂質シルト。

〔**遺構**〕（第３図参照）

調査区南西隅で、４層から掘り込まれた溝状遺構を一条検出している。方位は、ほぼ東西ラインに乗り、幅約80cm、深さ約60cmを測る。東に向うにつれ、幅が増す平面形をとる。

本遺構の埋土を６層に細分した。１層：黒褐色砂質シルト層(10YR3/1)、２層：黒褐色砂質シルト層(10YR2/2)、３層：黒褐色砂質シルト層(10YR2/3)、４層：黒褐色シルト層(10YR2/2)、５層：黒褐色シルト層（10YR3/2)、６層：黒褐色シルト層（10YR2/2)。１～４層には、前記全体層序の第４層起源の土壌がブロック状に入り込み、また炭化物も混じる。遺物は、かわらけが少量出土した。５～６層には、全体層序第６層とした白色火山灰が少量含まれる。遺物は出土していない。

本遺構は、西側の微高地から延びてきたものであろうが、関連する他の遺構は検出されず詳細は不明である。ただし、西隣の志羅山遺跡では、東西方向の溝が数条検出されており、何らかの関係が考えられる。

〔**遺物**〕（第４～６図参照）

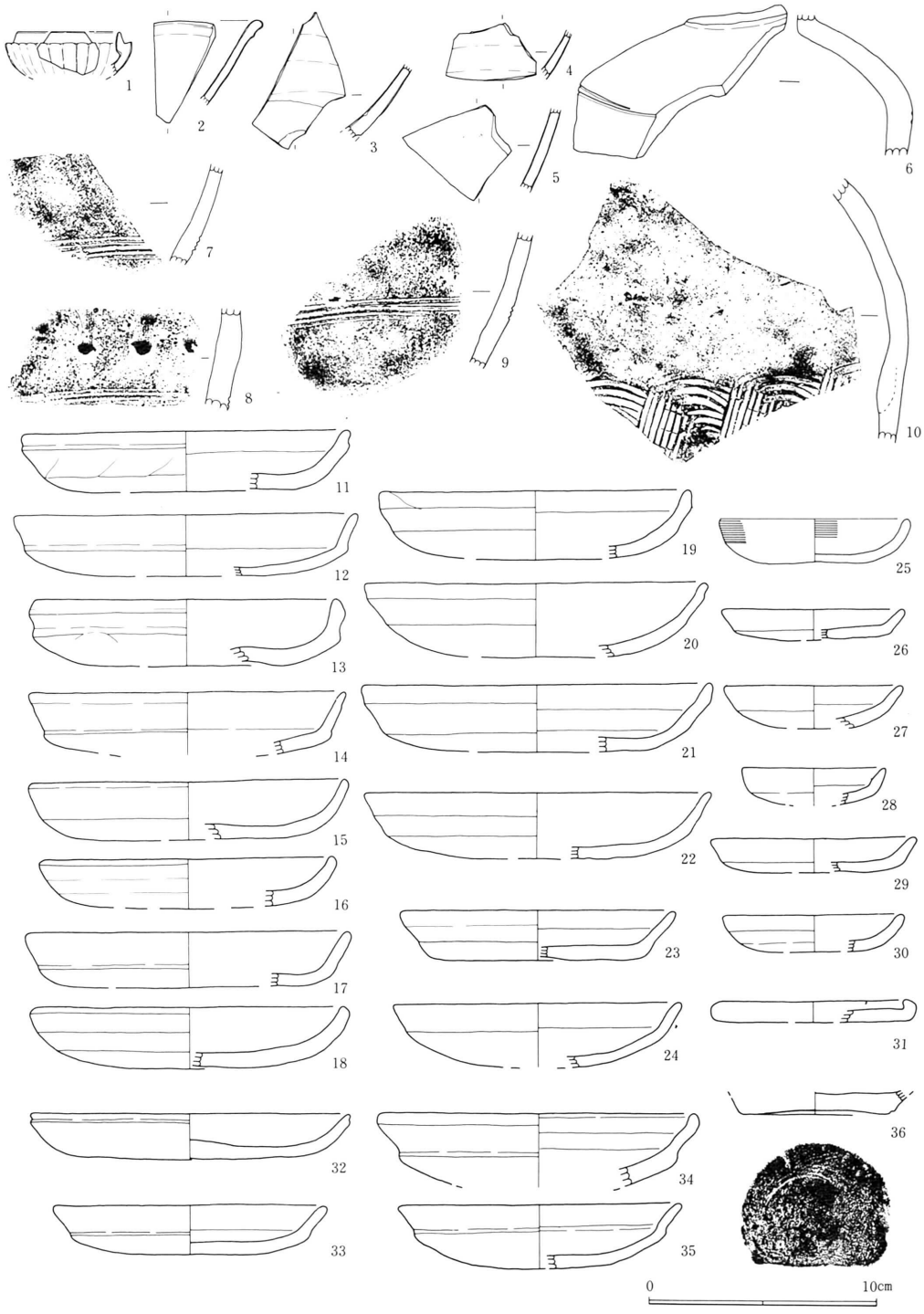
調査面積・検出遺構の少なさに比べ、出土量は比較的多かった。出土資料の大半が破片で、沖積地の低湿地という状況から、近接した地区から流入したものと判断するのが妥当であろうが、大形破片、完形かわらけ（第４図25)・砥石（第６図６）等の出土から、廃棄行為を含む投込みの可能性も捨てきれない。

遺物の層位別出土数は、別表のとおりで、主体を占めるのは、かわらけである。層位的には、３層から５層上面に集中する。

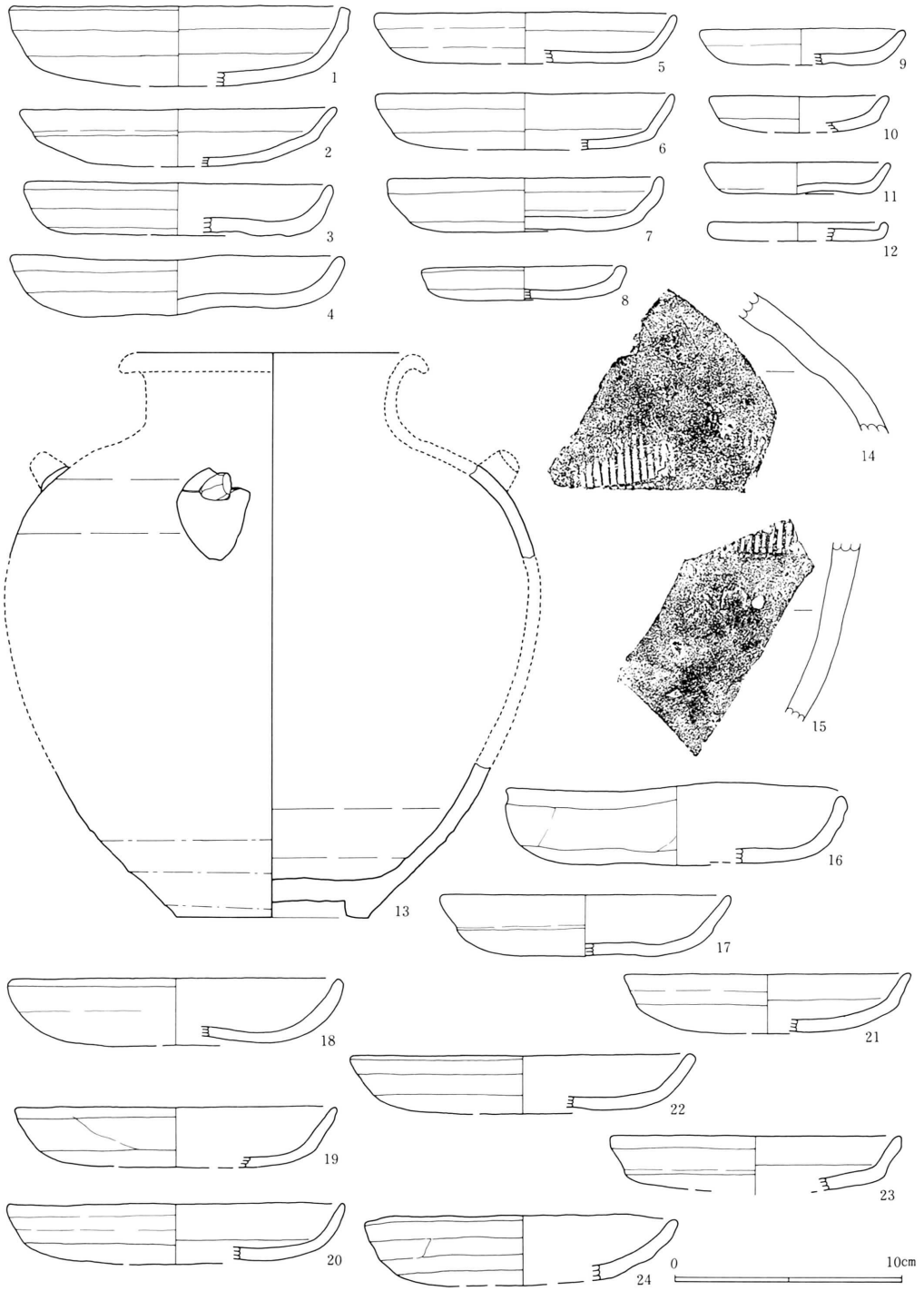
第４図１は、青白磁合子。２～５は中国産白磁碗の破片。３の見込みに沈線がある。６～９は、国産三筋壺。緑色釉がみられる。10は連弧文を持つ甕の肩部付近の破片か。3.3b層出土のかわらけのうち、糸切底は極端に少ない（第４図36)。４・５層では、全て手づく

	かわらけ	国産陶器		中国産陶器		中国産陶器		その他
	重量(g)	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	
1.2層	390	320	5		-	5	青白磁1	
3.3b層	30080	3780	68	-	-	30	白磁4	砥石1点、石器1点 漆器椀片２点
4層上面	1410	-	-	-	-	-		
4層	4600	-	-	20	1	-		
5層上面	5280	1000	13	150	2	70	白磁1	砥石2点
5層	770	120	4	-	-	-		
6層上面	-	-	-	-	-	-		土師器片15点
計	42530	5200	90	170	3	105	6	

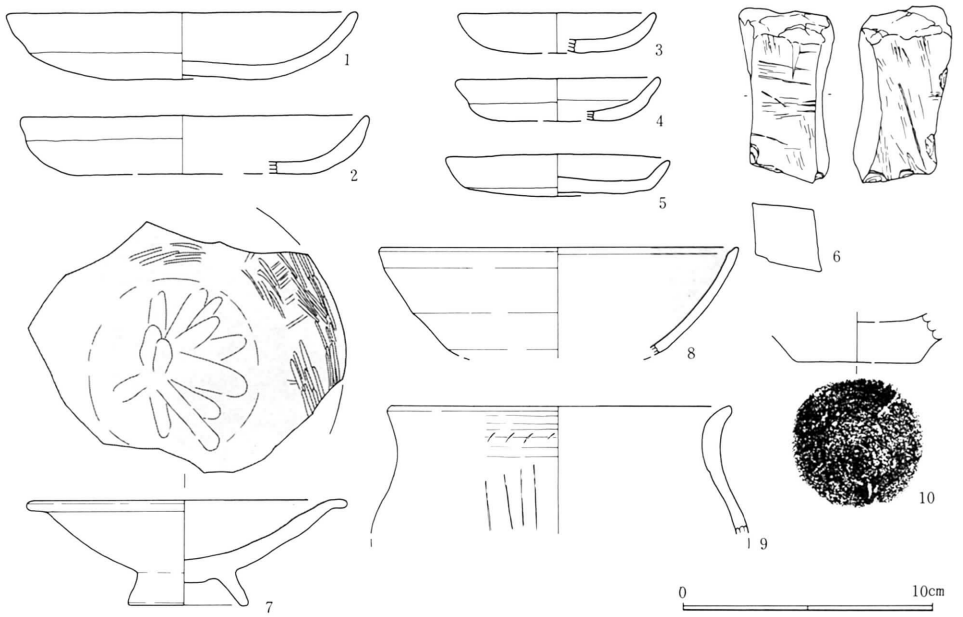
泉屋遺跡　層位別出土遺物



第４図　泉屋遺跡出土遺物(1)（1；1層，２～36；３層）



第５図　泉屋遺跡出土遺物(2)（１～12;４層，13～24;５層）



第６図　泉屋遺跡出土遺物(3)（１～６;５層，７～10;６層）

ねタイプとなる。

第５図13は、中国産陶器、四耳壺で、３片の破片から復原実測したもの。底部はケズリ調整がみられる。図示したもののほか、５層からは中国産白磁壺の底部片が１点出土している。

第６図７～10は、６層とした白色火山灰層上面から出土したもの。７・８は、内面黒色処理を施した坏。特に７は口径12.4cm、高台径4.6cm、高さ4.1cmをはかる。口縁はきつく外反し、坏部は糸切り痕を僅かに残す。器表面は入念なナデ、胎土・焼成とも良好で、特に胎土には白色の細い線状の混和剤が含まれる。器内調整も入念で、見込みは放射状、口縁付近は横位に暗文状のミガキが施される。ただし、７と８は、同一層位であるが、一時期にまとめられるかは疑問である。同一層からは、雑な調整の小形甕、頸部に爪形状の傷が付く。10も、摩耗しているが甕の底部であろう。

以上の遺物から、３～５層に関しては陶磁器から12世紀代に年代観を求められる。ただし、糸切り底のかわらけを伴わない点、口縁の緩やかに広がるタイプの多い点等が特徴的である。また、６層出土資料は、甕の伴出、内黒処理等から土師器の概念で追え、年代的には10世紀末～11世紀始めを想定しておきたい。白色火山灰の年代検討も含め、平泉での藤原氏台頭以前の様相を考える上で重要な資料といえよう。

2．県営ほ場整備事業［飯岡第一地区］関連

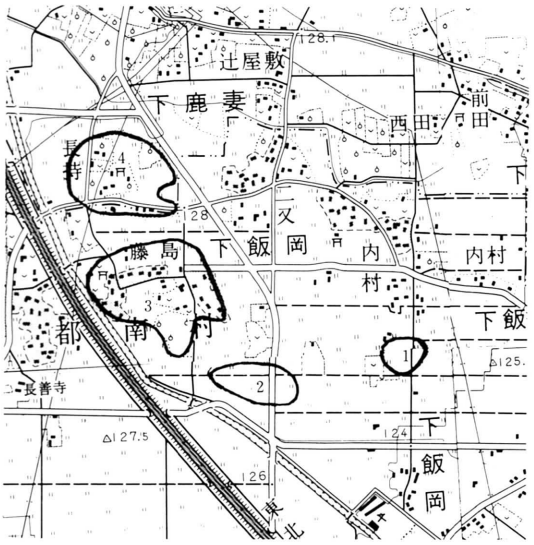
(1) 深渕Ⅰ遺跡（第７図１）

所在地：盛岡市下飯岡深渕

調査期日：平成４年12月２～４、15～18日

本遺跡は、県道盛岡和賀線の東方約500mに位置し、標高約124～125mを計る。

現状は、大半が水田で、微高地が宅地・畑地に利用されている。今回の調査は、ほ場整備関連の水路用地に係る部分を対象に実施したものである。昨年度、本遺跡の東側部分で実施した試掘調査では、円形周溝４基、竪穴住居跡10棟、土壙５基のほか溝状遺構も確認している。

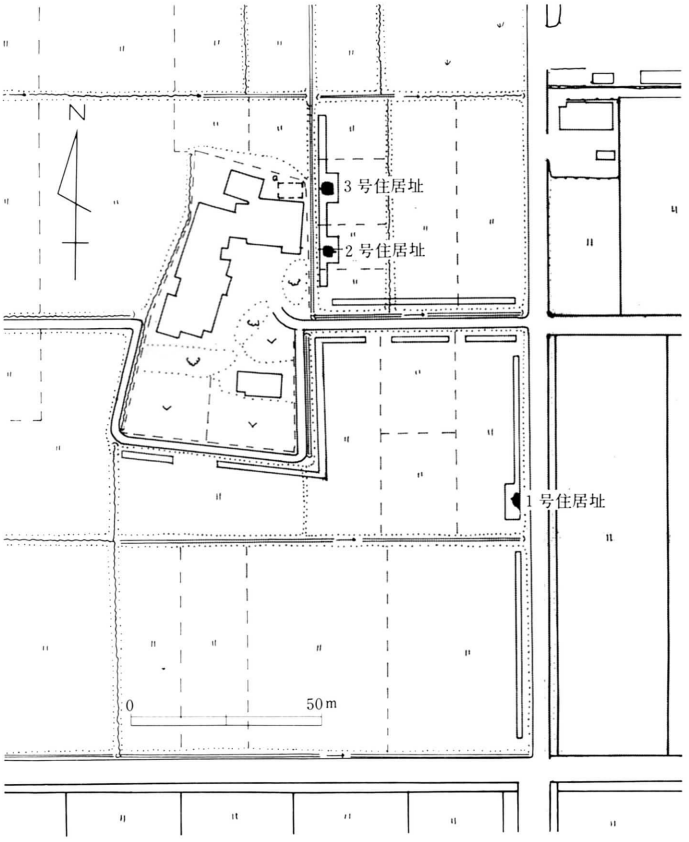


第７図

このようなことから、水田部分については、今年度事業地内にも遺構の存在が確実視されるので、全て盛土し保存することとした。

遺跡西側宅地の南・西及び北側には、グライ化した青灰色シルト層が水田床土直下にみられ、遺構・遺物は検出できなかった。宅地の東側から道路にかけては、暗黄褐色砂層が分布し、道路横で１棟、宅地東側から２棟の住居跡が検出された（第８図）。

なお、確認調査の際、１号住居の北で、竪穴状の落ち込みと焼土を埋土に持つ土坑を各一基検出したが、精査の結果、前者については遺構検出



第８図　深渕Ⅰ遺跡遺構配置図

面での起伏によるもの、また後者については掘り込み面が水田床土直下であるため新しいものと判断した。遺物もここでは出土していない。

①１号住居跡

〔遺構〕（第９図参照）

本住居跡は、4.9×5.1mの規模で、やや均整を欠く方形を呈する。東側３分の１は、現道の下になるため調査できなかった。カマドは、北西壁の中央部に設置されている。主軸方位は、N－45°－Wである。また、南側に現水路が東西に走っていたが、検出面直上までの深さであった。

壁高は30～35cm、埋土の最厚部は約40cmを測る。水田床土の下位のやや酸化し赤化した黄褐色砂質層を掘り込んで構築されているが、床面はその砂質層のため比較的軟弱である。主柱穴と思われるピットが３基検出した。東側の残る１基は道路の下で未調査である。いずれも、径30cm程度、深さは25～30cmであった。

カマドの袖は、粘土を用いている。煙道は地下式で長さ1.5m、煙出し部分には、数箇の円礫が埋められていたが、焼痕・スス付着はなく、住居廃棄後の行為と考えられる。燃焼部付近から、第10図６に示した甑が出土している。

この住居は、焼失住居で、埋土全体に、焼土・炭化物が分布していた。特に炭化材・焼土が集中する部分を第９図平面図にスクリーントーンで示した。材は、カマド煙道方位に直交するように堆積し、桁の痕跡と思われた。

遺物は、これら炭化材・焼土の直上からその直下にかけて出土しているが、いずれも弱いながらも加熱を受けており、焼失により一括廃棄されたものと捉えられる。

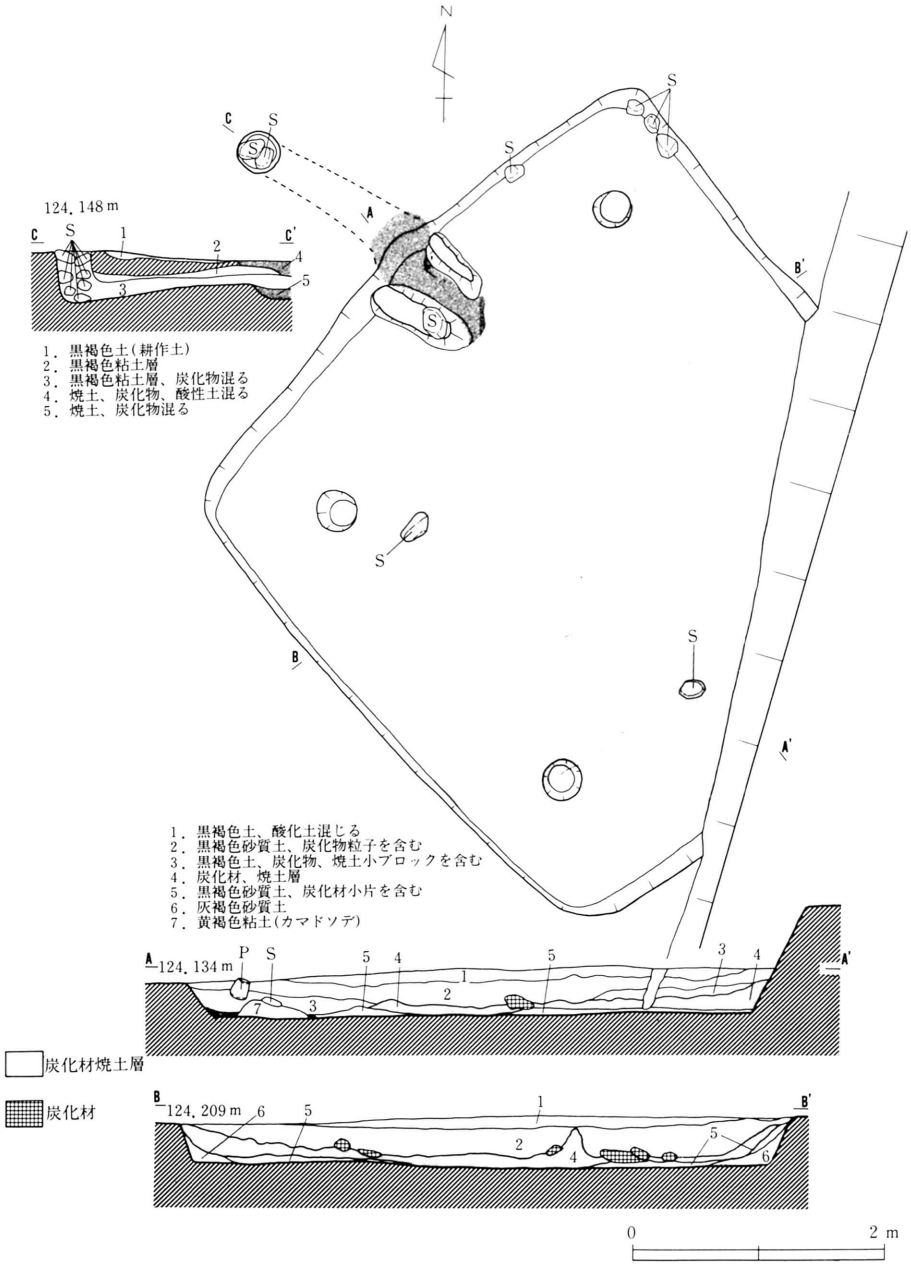
〔遺物〕（第10・11図参照）

坏（１・２）は、比較的少ない。いずれも内面黒色処理で、１には段の痕跡が僅か見られる。口縁部は横位のミガキを基本とし、下位はケズリによる。３・４は坏部内黒の小型高坏。脚部はケズリ調整が施される。４の脚部には、１個の円孔が穿れる。５は、内黒の小型鉢。全面ナデ調整で、口縁の一部が欠損しているため判然としないが、片口の可能性もある。

６は、小型の甑。口縁径13.2cm、底径6.8cmを計る。内面の下方３分の２ほどには、暗茶褐色の付着物が観察できる。底部内面は、調整後に削り取られ、面取りされている。

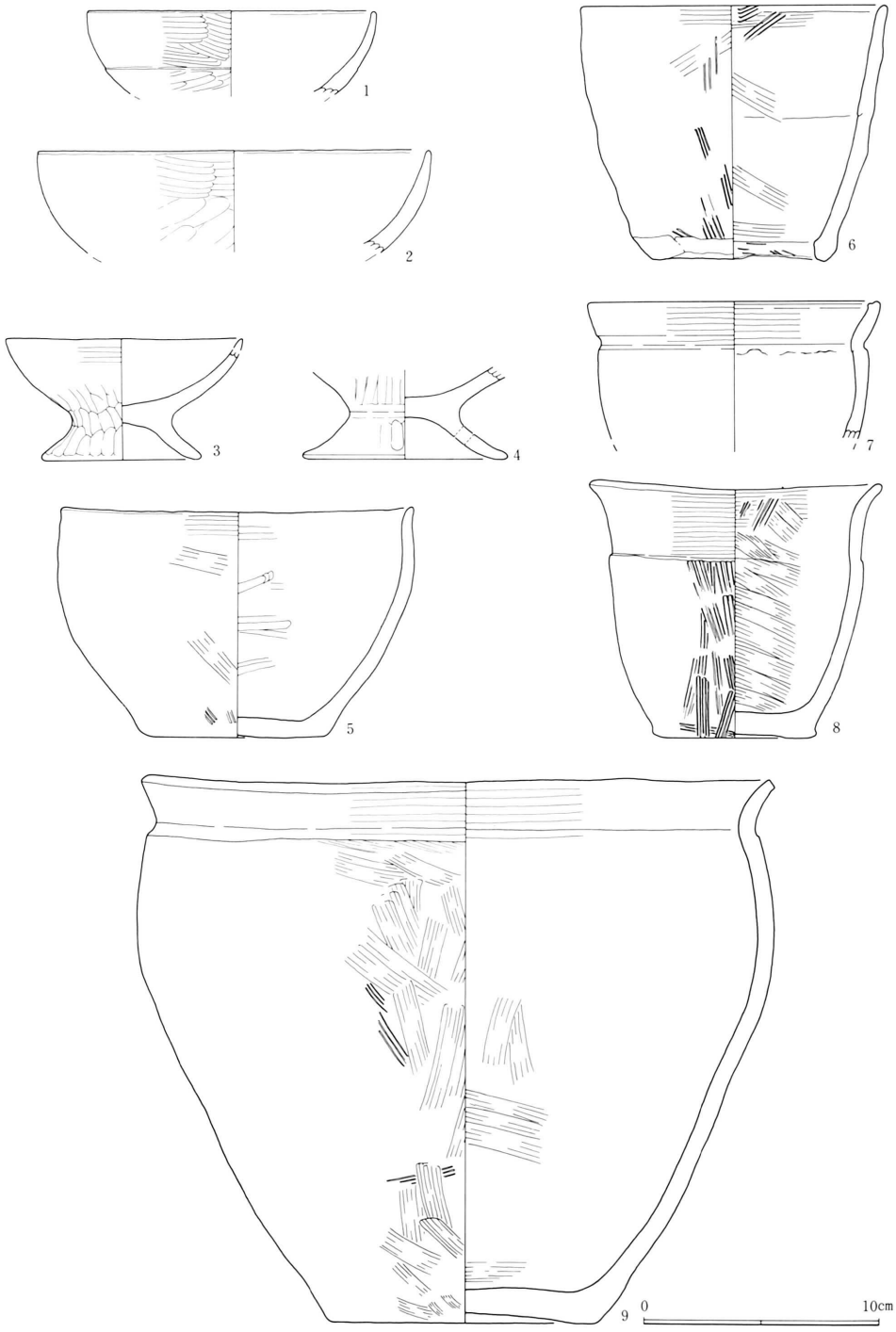
７・８は小型甕、９は、口縁径26.5cm、最大径27.1cm、底径11.3cm、高さ23.1cmを計る鉢。口縁は外反し、口唇断面は角張る。肩部は弱いながらも段を持つ。底部は木葉痕を有する。

10～11は、甕。口縁が外反し、内外面とも横ナデ調整となる。胴部は、器表が縦位、器内が横位を基本とする八ケ目調整が施される。10の口縁部には、ナデ調整後、刷毛状工具を使用した赤色顔料での縦位のペインティングが施されている。その間隔は約５cmで、残存部に５条観察できる。全周するならば、15～18条となることが推定できる。

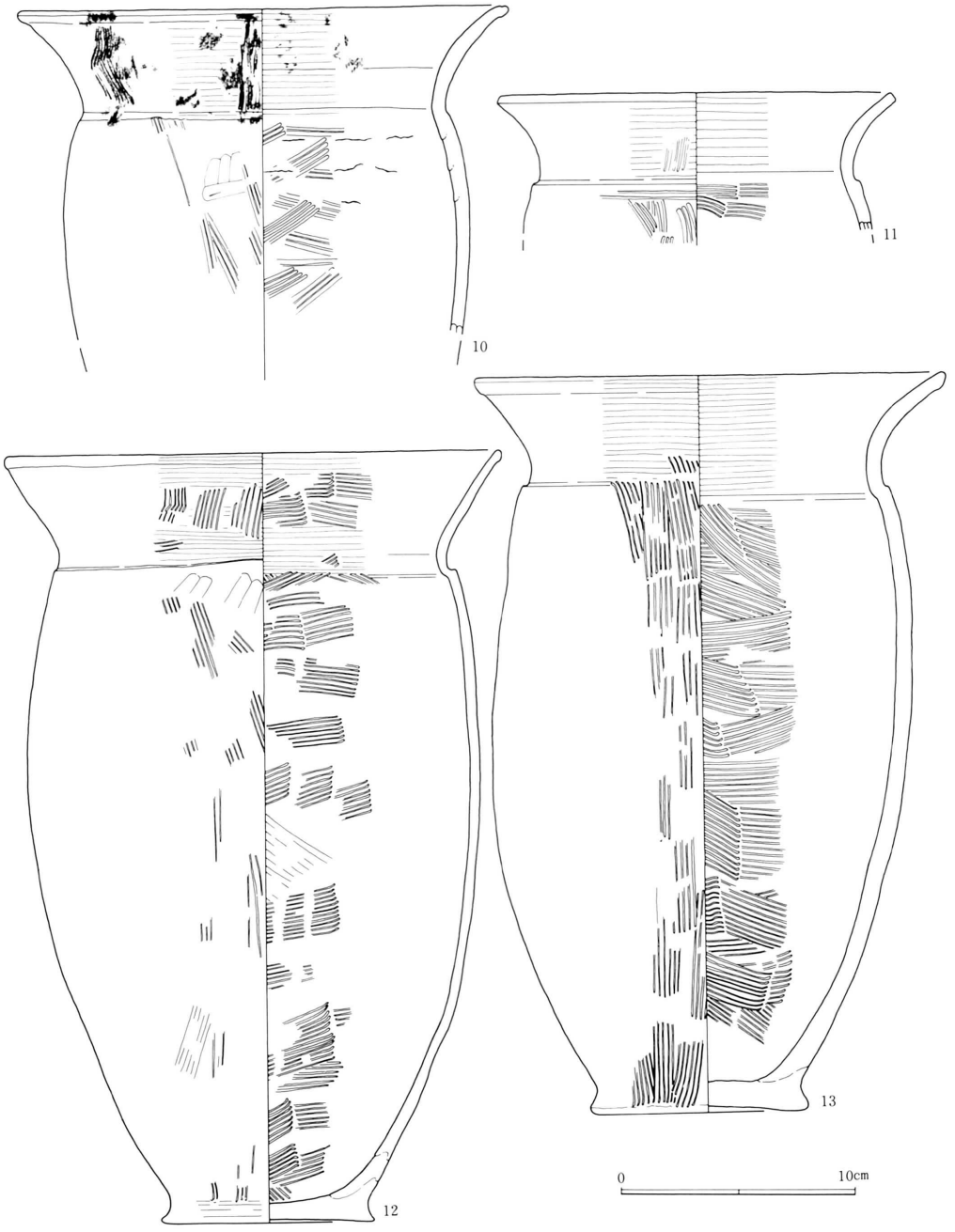


第９図　深渕Ⅰ遺跡第１号住居跡平・断面図

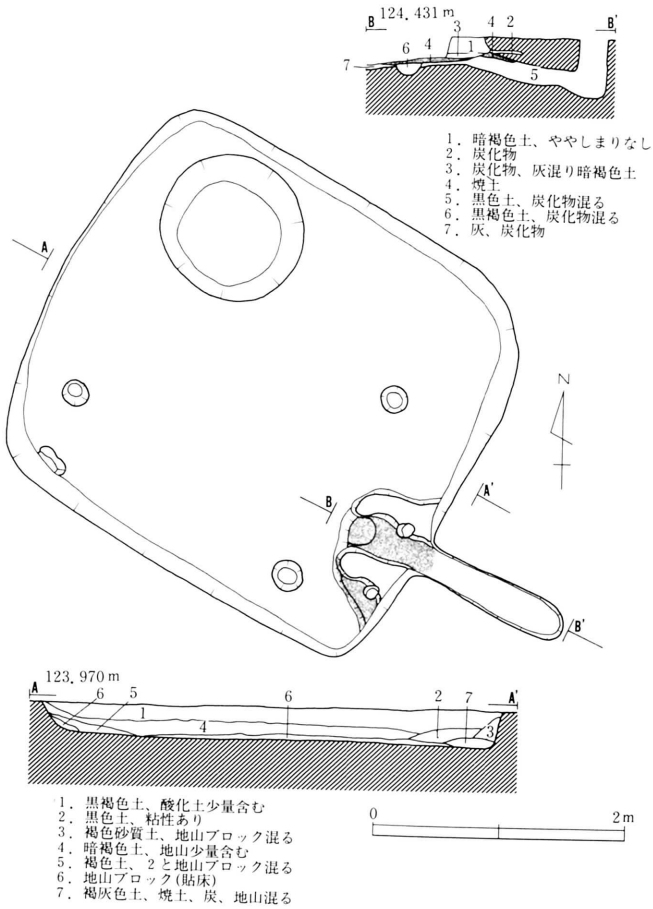
この他、埋土中から、円礫が数点出土しているが、特に使用痕・加撃痕を有するものではなかった。以上のことから、この住居跡は奈良時代に属すると思われる。



第10図　深渕Ⅰ遺跡１号住居跡出土遺物(1)



第11図　深渕Ⅰ遺跡１号住居跡出土遺物(2)



第12図　深渕Ⅰ遺跡第２号住居跡平・断面図

②２号住居跡

〔遺構〕（第12図参照）

本住居跡は一辺約3.5mの方形を呈する。カマドは、東壁やや南寄りに設置され、主軸方位は、N－63°－Wである。

壁高は25～30cm、埋土は自然堆積で、最上層の遺構確認面には、水田床土の酸化土が残存する。床面は軟弱で、一部に砂質粘土を用いた貼床がみられた。柱穴は、三基確認しているが、位置はややいびつで、北側は、床面に土坑が設けられているため、不明であった。

この土坑は、径約110cm、深さ15cm程度のものであった。

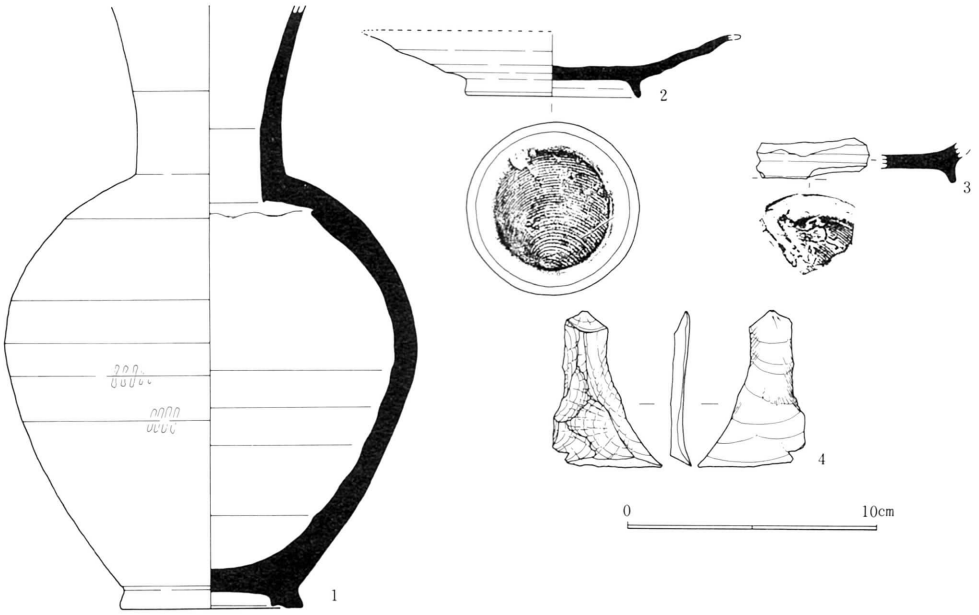
カマドは、燃焼部が浅く掘り凹められ、袖は粘土を用いている。両袖の壁際に10cmほどの円礫がおかれていた。煙道は地下式で、長さ1.2mを計る。

〔遺物〕（第13図参照）

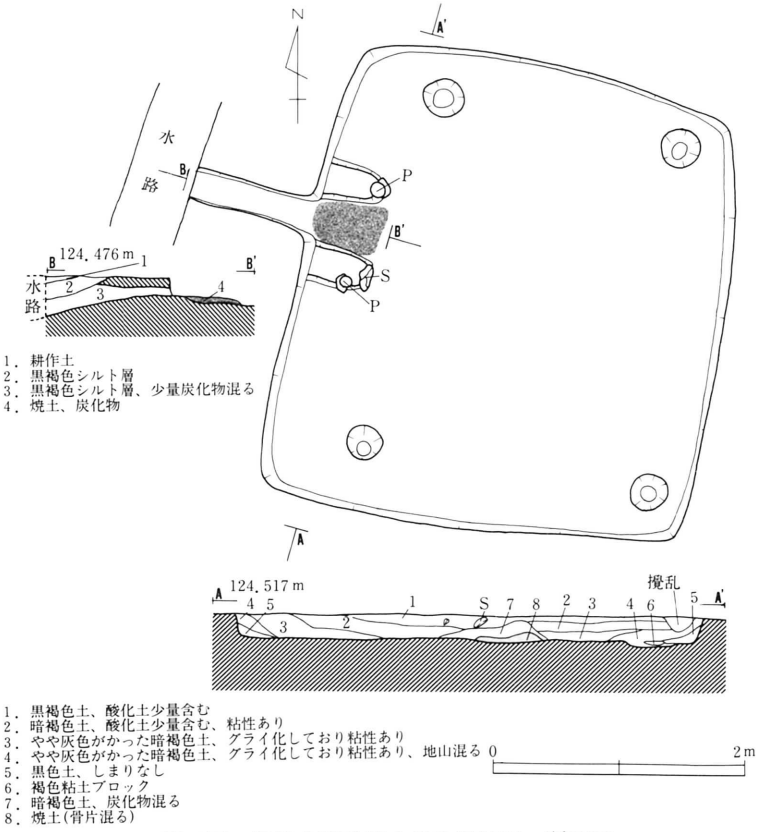
遺物は、比較的少なく、１が北側土坑から出土した以外は、埋土４層からの出土である。１は、須恵器長頸瓶。厚手の身部を持ち、頸部の接合は肩で成される。色調は灰白色、一部に叩き目の痕跡がみられる。口唇部は欠損している。形態・成形技法から東海系窯産の可能性が高い。２・３は、須恵器皿の底部破片、糸切り後高台が付される。

４は、１層から出土した赤色チャートの剝片。末端部に自然面が残る。本遺跡では、西側宅地内の畑から、大木７a式の土器が採集されており、これもそれに関係する遺物であろう。今回の調査では、４以外に縄文時代に関わる遺物・遺構は検出されていない。

以上のことから、本住居跡は、平安時代に属すると捉えられる。より、時期を特定するなら１の長頸瓶から９世紀前半と想定でき、２・３はその後の埋没過程で流れ込んだものと見なしておきたい。



第13図　深渕Ⅰ遺跡２号住居跡出土遺物



第14図　深渕Ⅰ遺跡第３号住居跡平・断面図

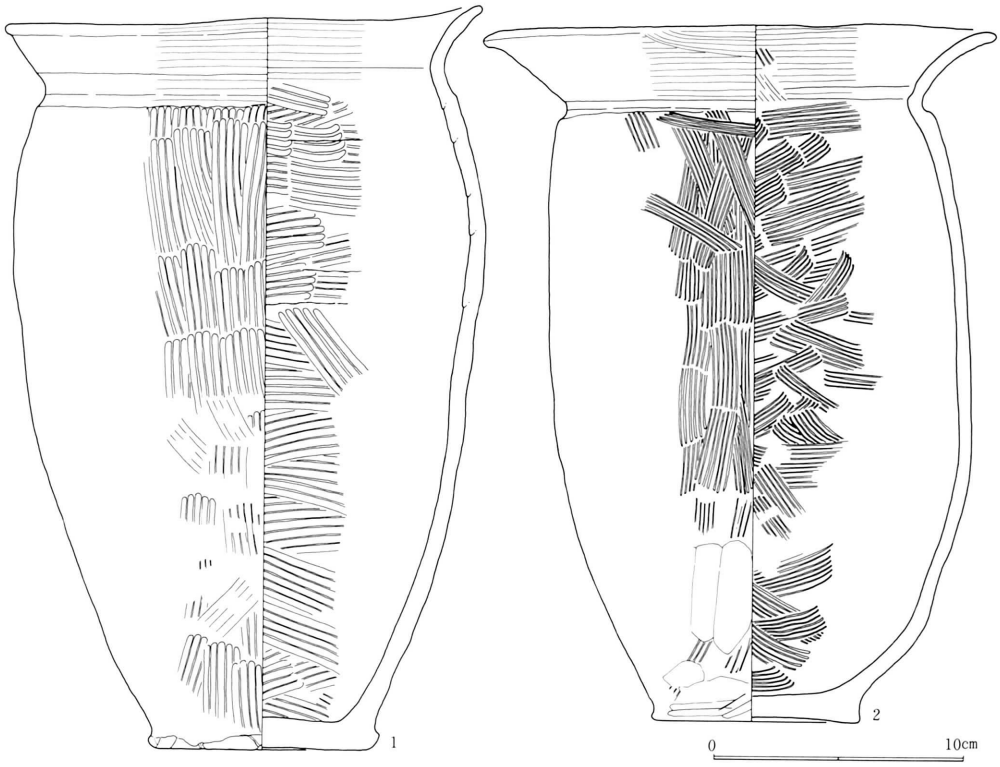
③３号住居跡

〔遺構〕（第14図参照）

本住居跡は、3.5×3.8m、やや歪む方形を呈する。カマドは、西壁中央部に設けられ、主軸方位は、N－80°－Eとなる。壁高は20cm程度で、埋土は自然堆積の状況を示す。

柱穴は４基、床面中央部には、焼けた骨片を含む焼土ブロック、暗褐色土が分布していた。

カマドは、粘土で袖が造られ、その両側から土師器甕（第15図）



第15図　深渕Ⅰ遺跡３号住居跡出土遺物

が倒立した状態で出土した。煙道は地下式、現存長は約１ｍであるが、煙出し部分は、水路により削られていた。

〔遺物〕（第15図）

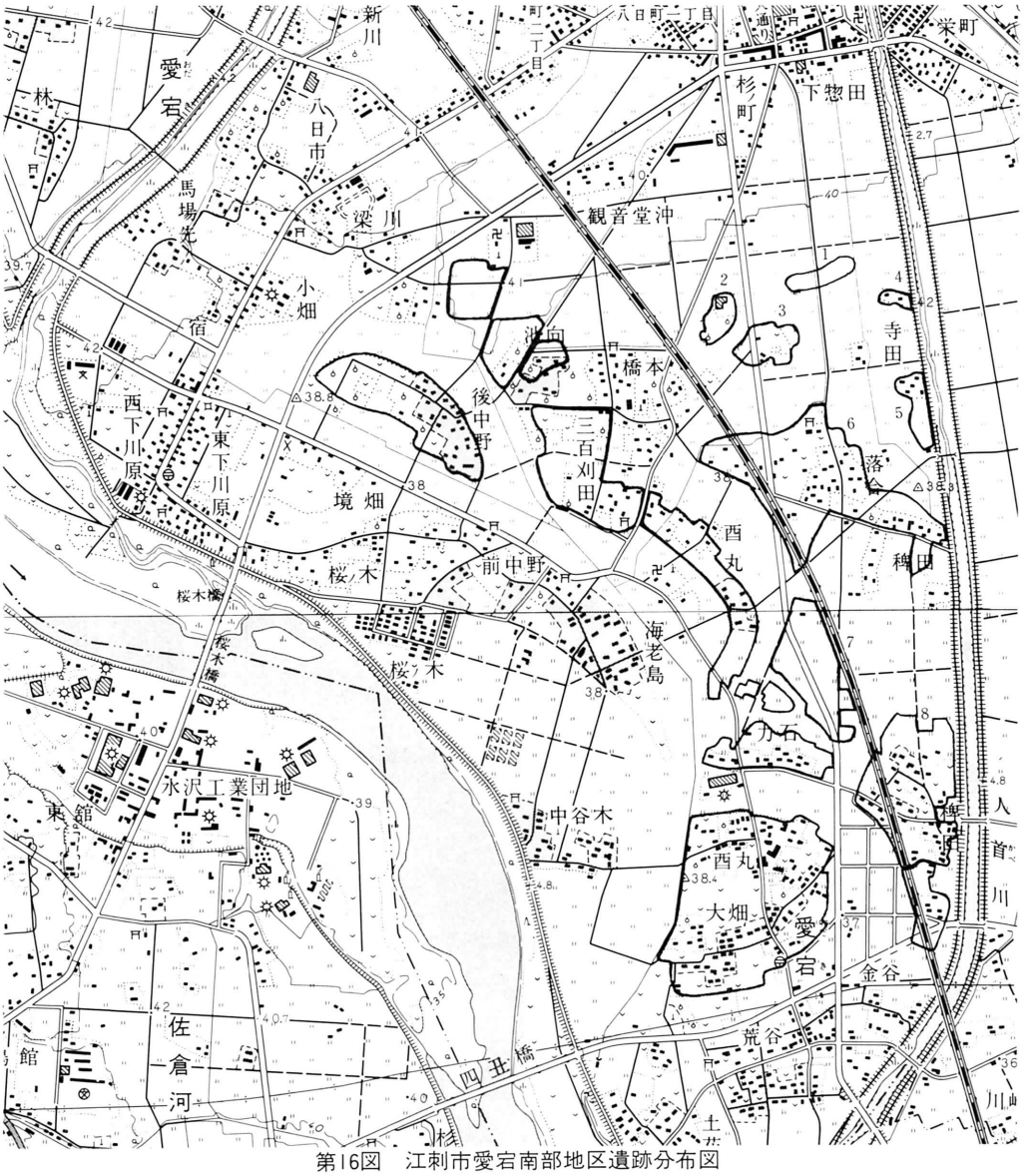
遺物は少なく、埋土１・２層からは、摩耗した土師器少片が出土する程度であった。

１は、高さ29.8cm、口径19.2cmの甕で、口縁部は外反し横位のナデ、胴部には器表面に縦位器内面に横位のハケメ調整がなされる。底部には木葉痕が見られる。２は、器高28.2cm、口径20.5cm、１と同様の調整が施されるが、肩部の段が強い。底部はやはり木葉痕である。

以上のことから、この住居跡は、奈良時代に属すると考えられる。

今回の調査では、前述のとおり、奈良時代２棟、平安時代１棟の住居を検出した。特に焼失住居であった１号住居で多くの遺物が出土している。昨年度の試掘で確認した円形周湟でも、大体同時期の遺物がみられ、墓と集落との位置関係を知る貴重な資料といえる。また、志波域造営以前・以後のこの地域の意味を考える上でも重要な知見が得られたといえよう。

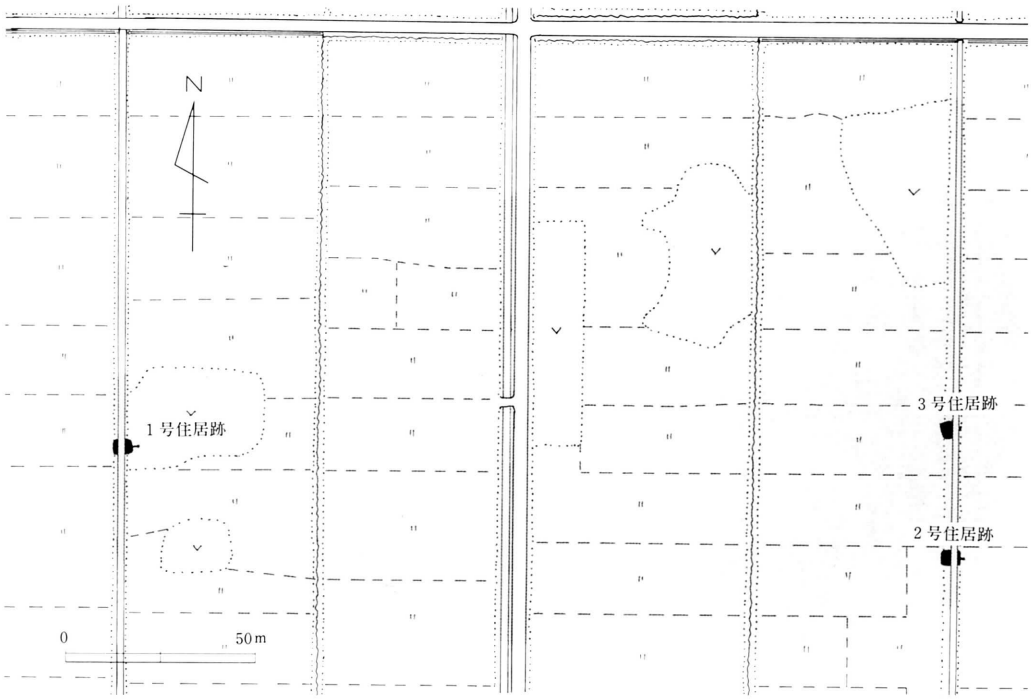
3．県営ほ場整備事業［愛宕南部地区］関連



第16図　江刺市愛宕南部地区遺跡分布図

番号	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	NE07—1232	下惣田	集落跡	竪穴住居・土師器・須恵器	平安	江刺市愛宕字下惣田		
2	〃 1148	橋本	散布地	土師器・須恵器	〃	江刺市愛宕字橋本		
3	〃 1158	朴ノ木	〃	〃 〃	〃	江刺市愛宕字朴ノ木		
4	〃 1244	寺田II	〃	土師器	〃	江刺市愛宕字寺田		
5	〃 1274	寺田	鋳造遺跡	鋳型・羽口	近世	江刺市愛宕字寺田		
6	〃 1118	落合	集落跡	竪穴住居・弥生・土師器・須恵器	弥生・平安	江刺市愛宕字落合		
7	〃 2273	力石・兎I	〃	〃 〃 〃 〃	〃 〃	江刺市愛宕字力石		
8	NE17—0215	鴻ノ巣館	〃	竪穴住居・土師器・須恵器	平安	江刺市愛宕字力石		

第Ｉ表　愛宕南部地区関連遺跡一覧



第17図　下惣田遺跡遺構配置図

(1)　**下惣田遺跡**　　所在地：江刺市岩谷堂字寺田　　調査期日：平成４年４月６日～８日

本遺跡は、沖積平野上の微高地に立地し、標高約38.3m～39.5mを測る。周囲の水田面との比高差はほとんどなく、20～30cm前後となっている。遺跡の範囲は、現状で畑部分の高まりをくくったものである。

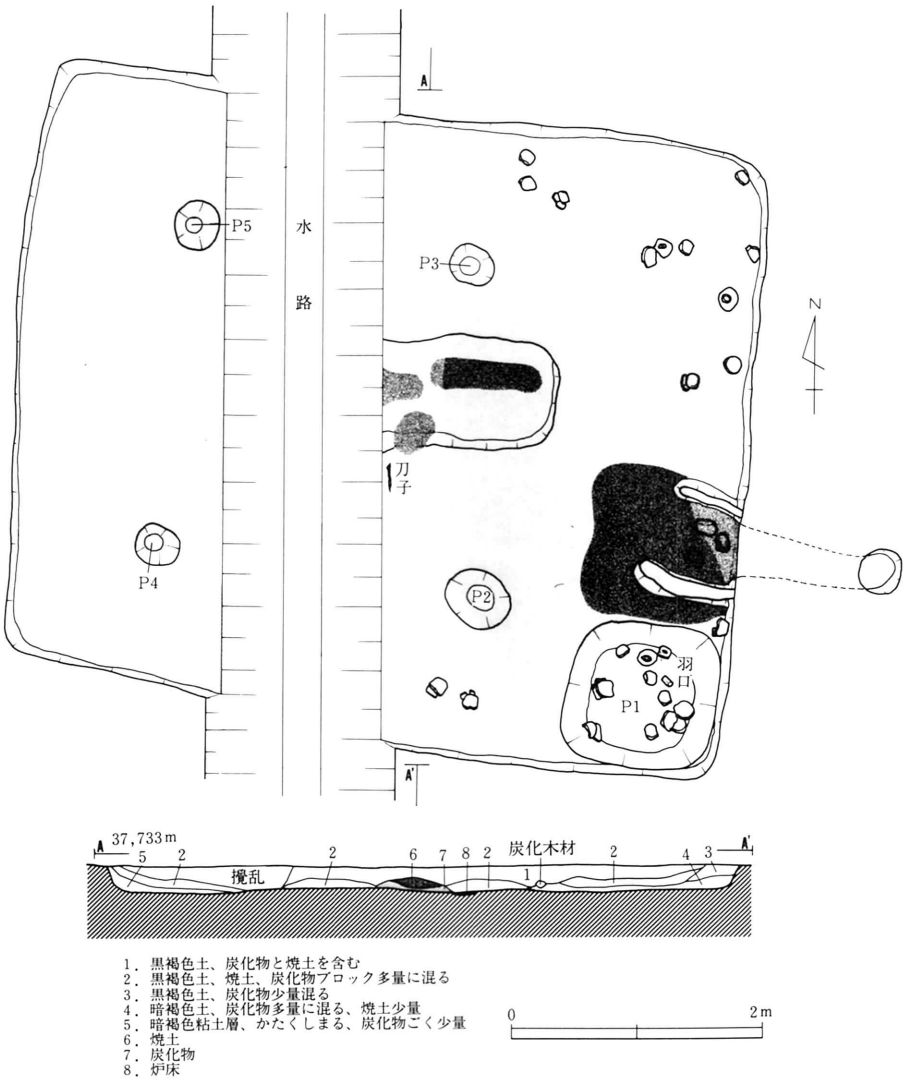
現水路により竪穴住居跡３棟が確認され、ほ場整備により水路がさらに拡大されるため調査を実施した。遺構周囲のほ場については盛土等により保存を図った。

①第１号住居跡

〔遺構〕（第17図参照）

１号住居跡は、本遺跡の西端にあり検出面の標高37.5mを測る。主軸を東西方向に持ち、一辺東西約5.7m南北約５mの隅丸方形の形を呈す焼失住居である。検出面から床までは約20cm内外を測り、埋土中には多量の炭化物・炭化材を含む。

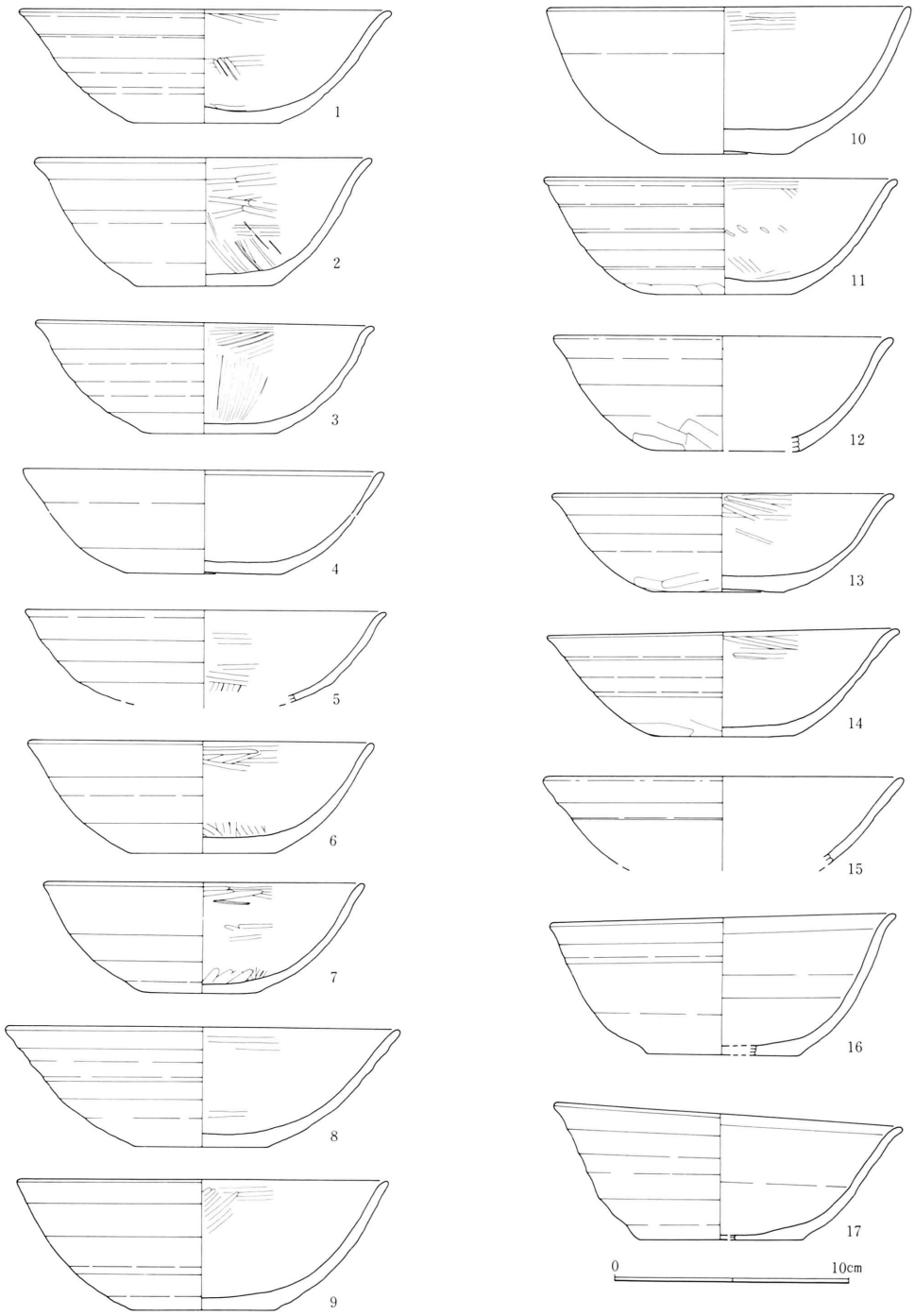
カマド跡は住居東壁やや南寄りに位置し、東側に約1.3mほど伸びる煙道を持つ。煙出し部は約10cmほど掘り込まれたピットになっている。焚口部には、一辺約1.2mの方形の範囲で焼土が広がる。



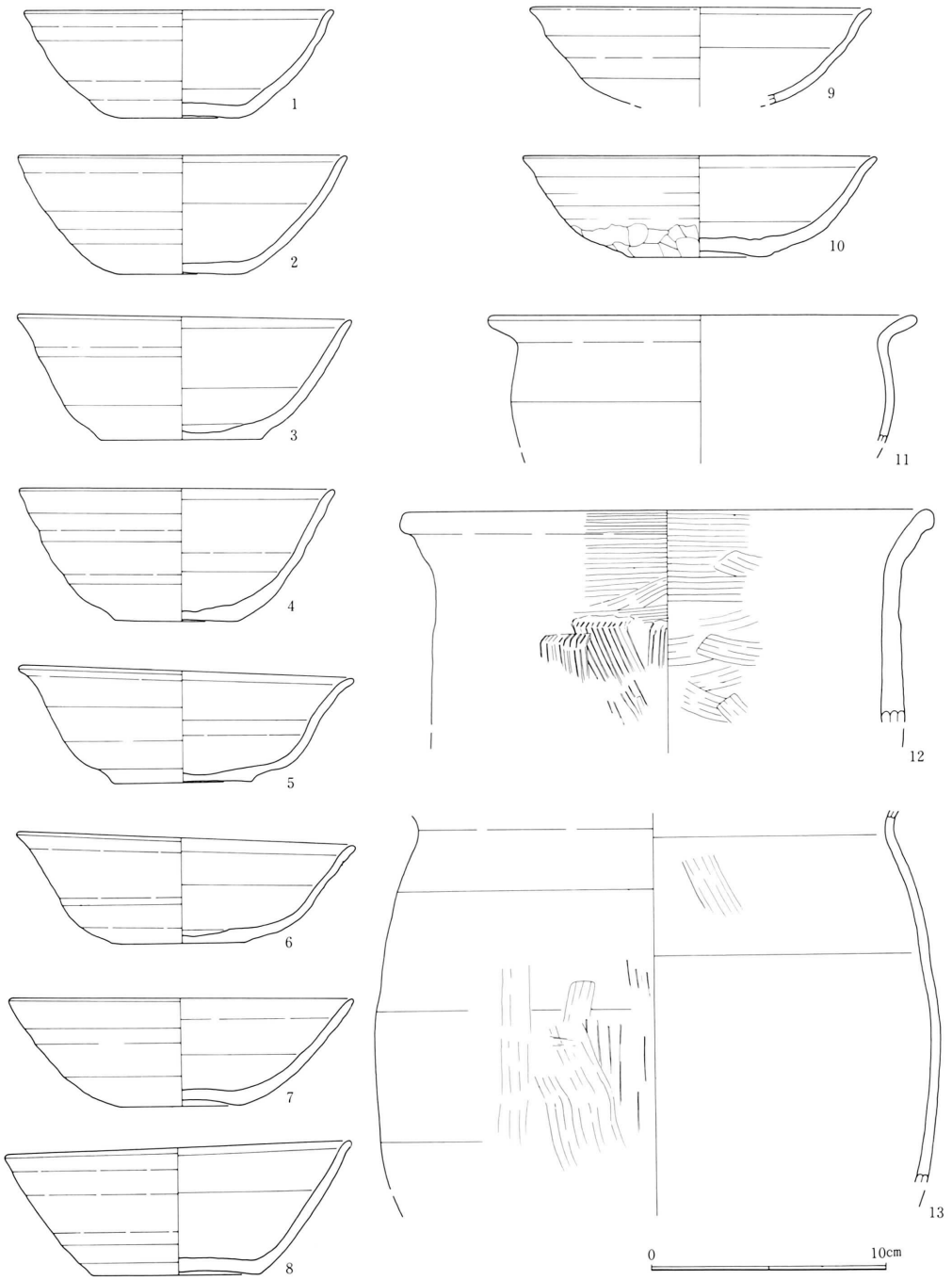
第18図　下惣田遺跡Ⅰ号住居跡平・断面図

ピットは大小５基検出された。P_1はカマド右袖の南寄り、住居の南東部にあり、一辺約1.1mのやや方形を呈し深さは約90cmを測る。埋土中には多量の遺物が含まれていた。P_2～P_4は住居に伴う柱穴と思われ、径約30～40cmを測る。深さはいずれも30cm内外である。

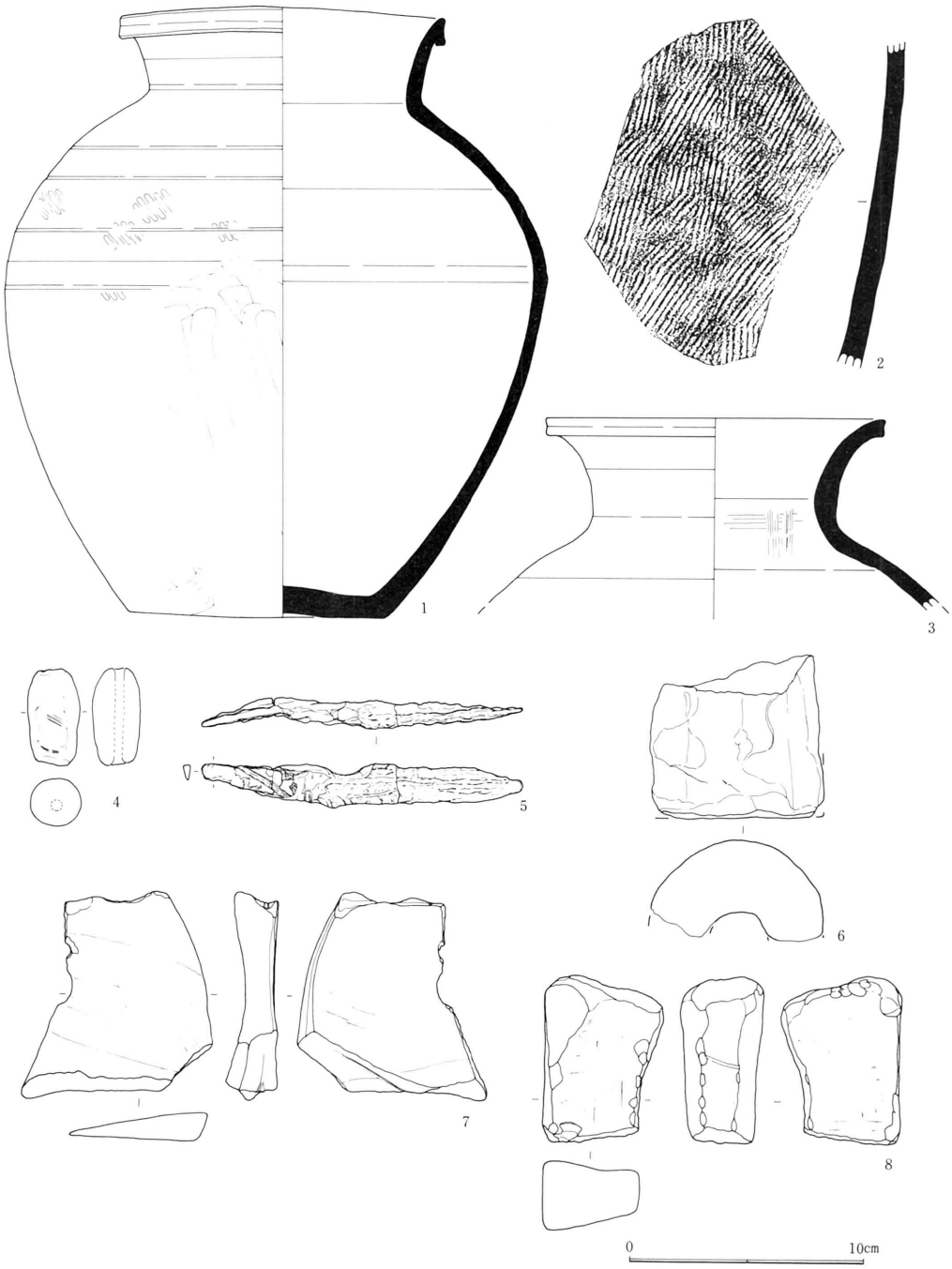
住居の中央部に一辺約1.5m×0.8mの掘り込みがあり、中央部はかたく焼きしめられた状態であるところから炉であったと思われる。



第19図　下惣田遺跡第１号住居跡出土遺物(1)



第20図　下惣田遺跡第１号住居跡出土遺物(2)



第21図　下惣田遺跡第１号住居跡出土遺物(3)

〔遺物〕（第19図～21図参照）

１号住居跡では、埋土中及び南隅のピット内から多量の遺物が出土している。その中で図化できたものは、第19図～第21図に示したとおり38点ある。以下その概略について述べてみたい。

第19図は全てロクロ成形の土師器坏である。１～15は内面に黒色処理が施されているものであるが、底部切り離しは回転糸切り無調整のもの(6)、回転糸切り後調整されているもの（１・11・13・14）、ヘラケズリのもの（２～５・７～10・12・15）がある。また、内面にヘラミガキされているもの（１・２・６・７・９・11・13）、底部にヘラケズリが施こされているもの（11～14）がある。16・17は回転糸切り無調整の坏であるが、図に示したとおり作り方が粗雑である。

第20図１～10はロクロ成形の土師器坏である。いずれも切り離しは回転糸切りで底部は無調整である。１点だけ（10）底部にヘラケズリが施こされているものがあるが、内黒土師器にくらべて作り方は雑であり、胎土も粗い。11はロクロ成形の内黒小形甕である。12・13は内外面にヘラケズリが施された長胴甕である。

第21図１は須恵器壺である。一部に自然釉がかかり体部下半には縦方向にヘラケズリが施されている。２は外面体部に斜行する平行タタキ目を持つ、須恵器甕の破片である。３は１と同様に自然釉のかかった須恵器壺である。１に比べ口縁部が大きく外反する。

以上の土器類の他では、土錘(4)・刀子(5)・羽口(6)・砥石（７・８）が出土している。特に土錘は周辺遺跡の過去の調査でも多数出土しており、かつての北上川及び支流での漁撈生活がうかがえる。

②第２号住居跡

〔遺構〕（第22図参照）

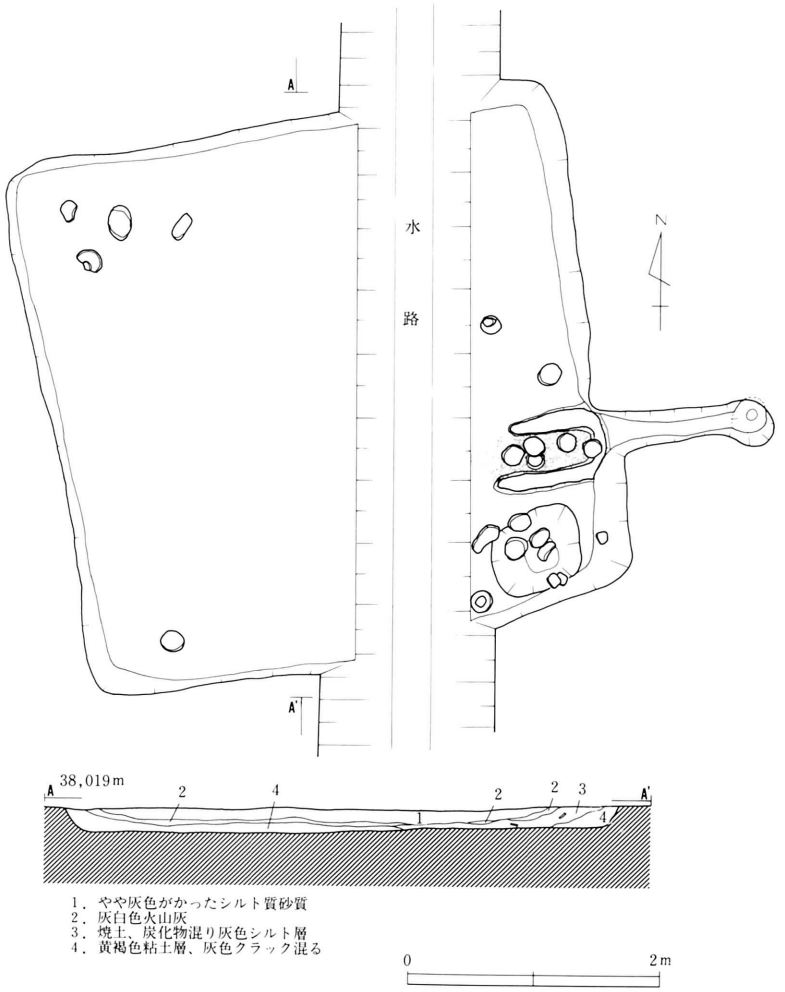
２号住居跡は、本遺跡の東端南寄りにあり検出面の標高は約38mを測る。主軸を東西方向に持ち、一辺東西約4.3m×南北約4.5mの隅丸方形の形を呈す。検出面から床面までは約20cm内外を測り、埋土中に灰白色火山灰層が見られた。

カマド跡は住居東壁やや南寄りに位置し、東側に約1.4mほど伸びる煙道を持つ。煙出し部は約５cm程の掘り込まれたピットになっている。焚口部では、カマド袖に囲まれた範囲に焼土が広がり、土器片が見られた。

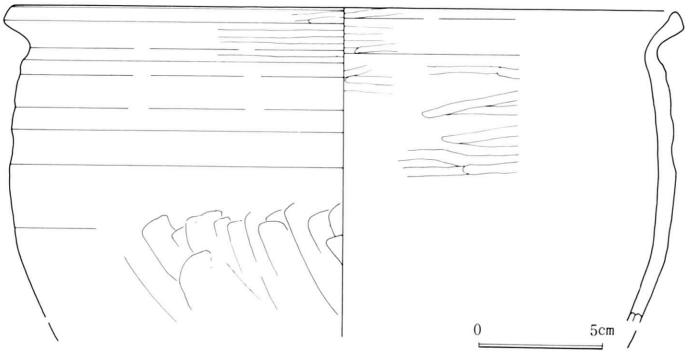
住居が水路に切られていることもあるが、ピットはカマド右袖の南寄りに１基検出されたのみである。一辺約70cmのやや方形に近い形であり、深さは約50cmを測る。埋土中には多量の遺物が含まれていた。住居に伴う柱穴は確認できなかった。

〔遺物〕（第23・24図参照）

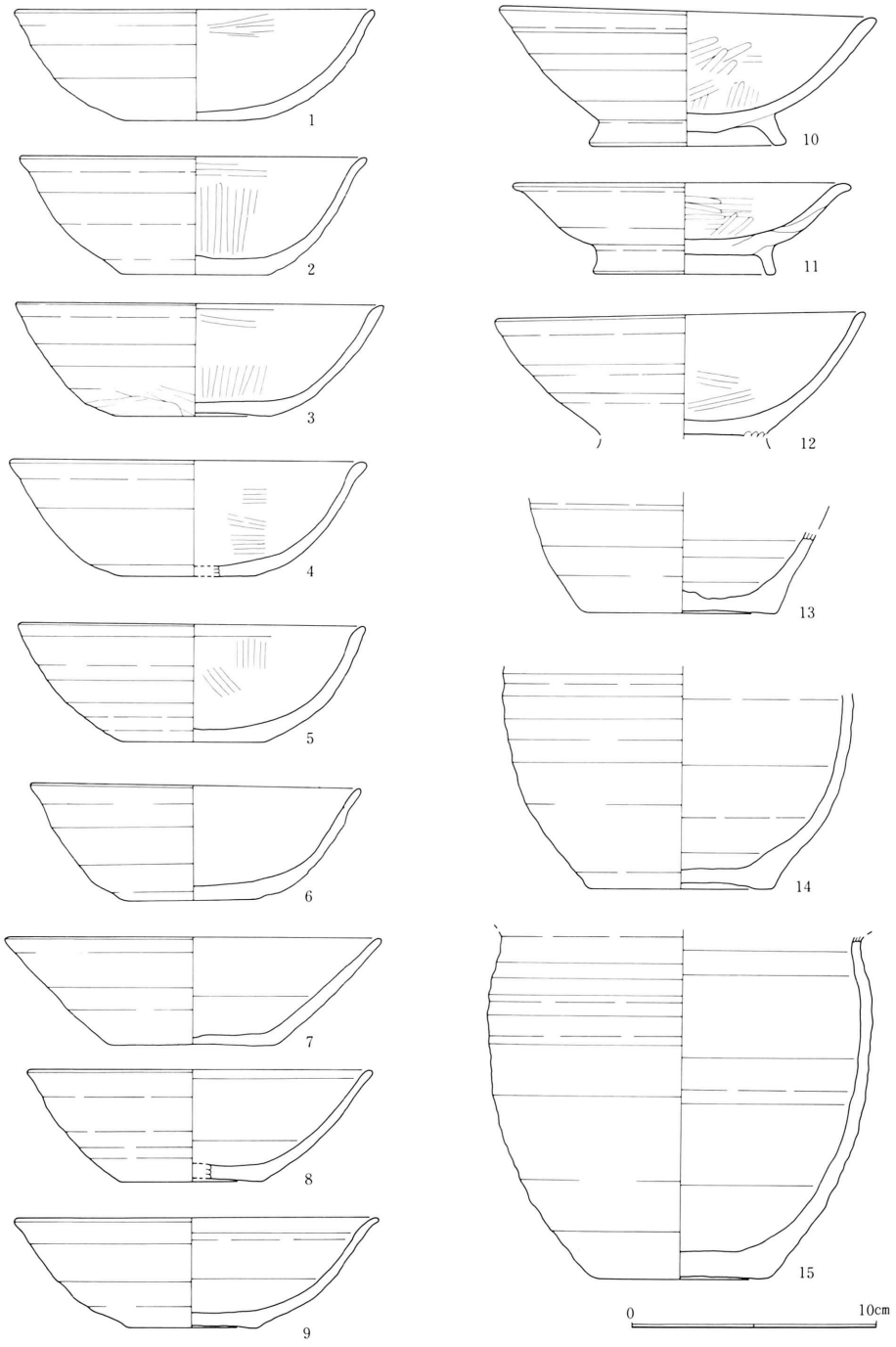
第23図はカマド内から出土した内黒甕である。外面体部下半は縦方向にヘラケズリされて



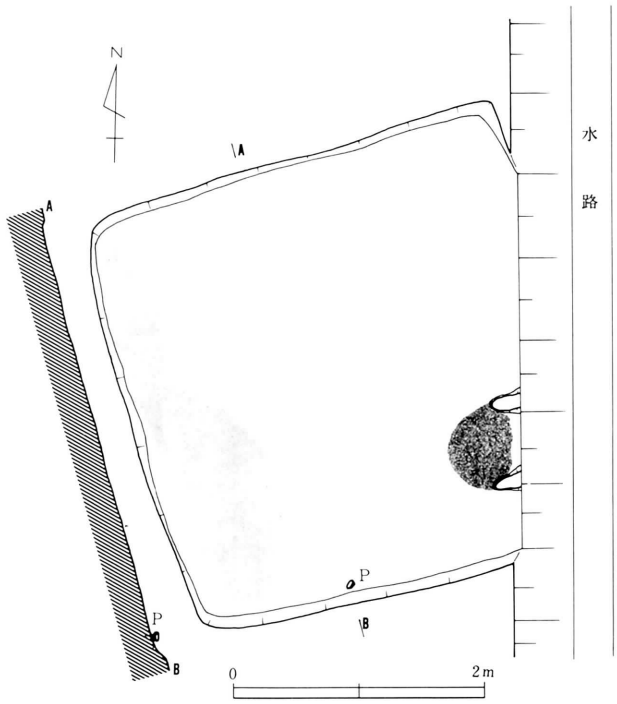
第22図　下惣田遺跡第２号住居跡平・断面図



第23図　下惣田遺跡第２号住居跡カマド内出土遺物(1)



第24図　下惣田遺跡第２号住居跡出土遺物(2)



第25図　下惣田遺跡第３号住居跡平・断面図

おり、内面は横方向にヘラミガキされている。

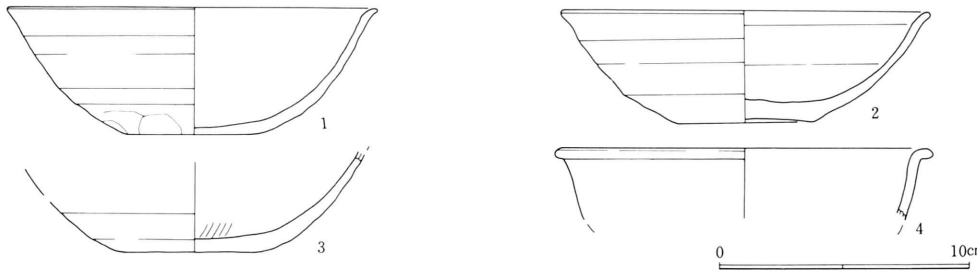
第24図には土師器坏及び甕を示した。坏はいずれもロクロ成形のものであり、切り離しはいずれも回転糸切りであるが、内黒の坏（１～６）は調整されている。しかし、高台付の10～12は糸切り痕をそのまま残す。13～15は小形甕であり、外面底部に糸切り痕を残す。

③第３号住居(第25図参照)

３号住居は、２号住居の真北約25mの位置にある。住居の一角を水路に切られており、カマドの両袖の先端を一部残すのみである。主軸方向は東西方向より約30度北へ向き、一辺約3.5mの隅丸方形の形を呈す。水田造成のためかなり削平されているが住居西壁沿いの床面の広い範囲に炭化材が見られ、焼失住居の可能性がある。

〔**遺物**〕(第26図参照)

先述したように削平されていたため、出土遺物も少なかったが、図化できたものは４点である。いずれも土師器坏であるが、切り離しは回転糸切りであり、内面に黒色処理が施されているものが３点である。（１・３・４）その内１には底部にヘラケズリが見られる。



第26図　下惣田遺跡第３号住居跡出土遺物

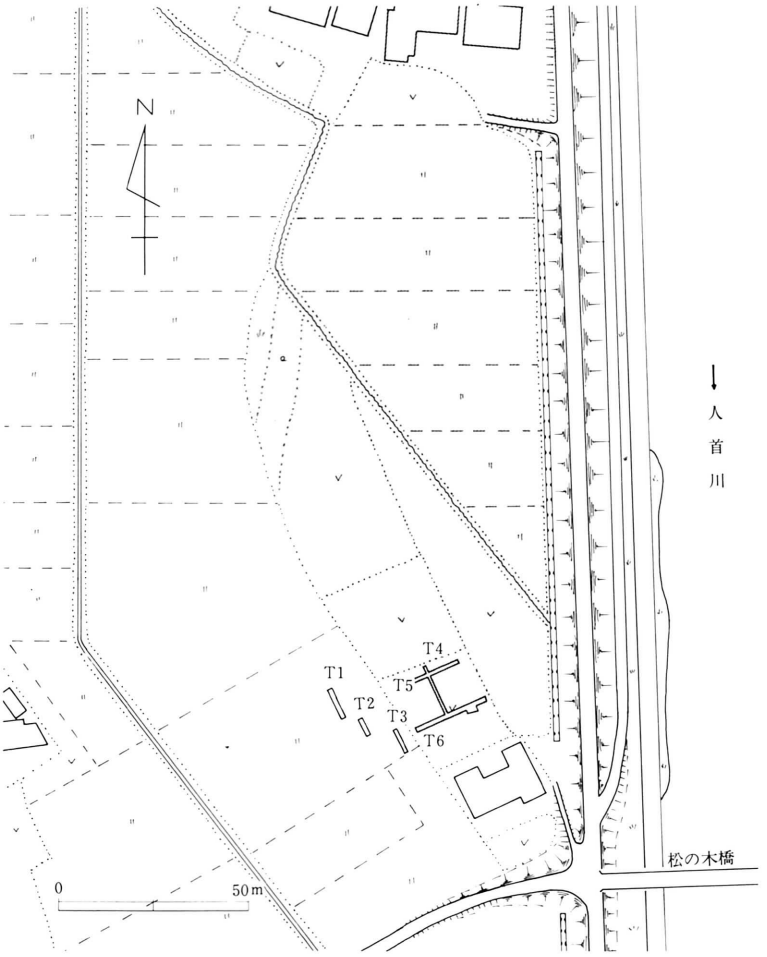
(2)　**寺田遺跡**(第16図)

所在地：江刺市岩谷堂字寺田207

調査期日：平成４年４月20日～23日

本遺跡は、主に人首川によって形成された沖積平野の微高地上に立地し、標高は37.5m～37.7mを測る。周囲の水田との比高差は約30cm内外である。以前より鋳型片が出土することで知られ、地元の鋳物関係者の注目を集めていた。

県営ほ場整備事業実施に伴い、遺跡の一部が事業予定地になったため遺跡の範囲・内容確認を目的にトレンチ調査を実施した。(第27図T_1～T_6)



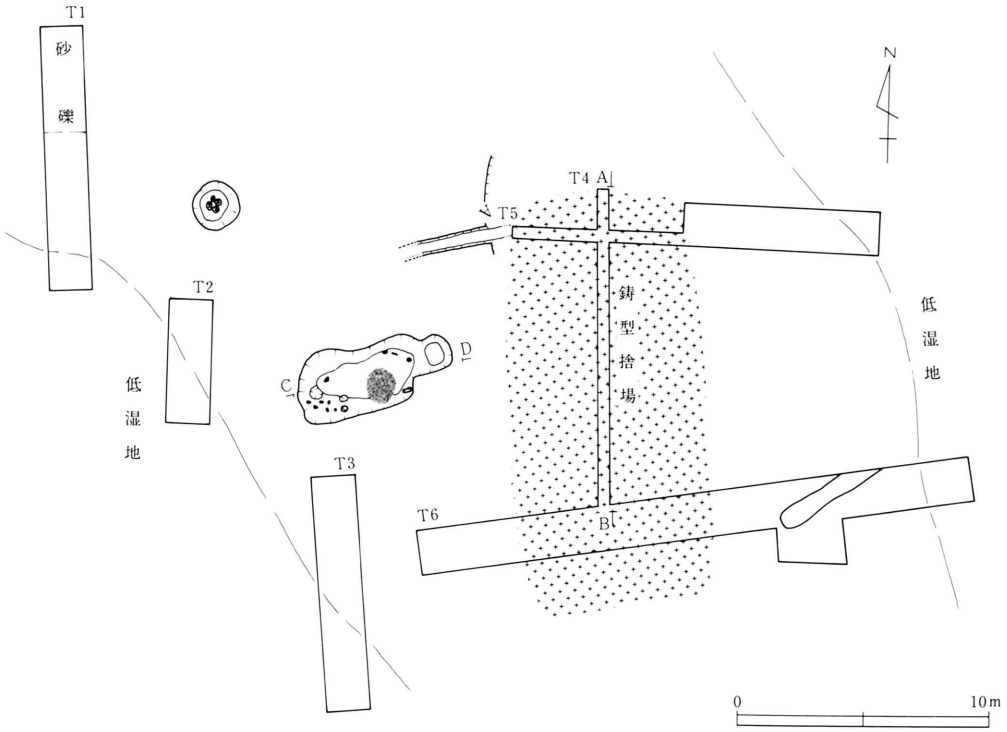
第27図　寺田遺跡トレンチ配置図

その結果、遺構・遺物が集中する東西約30m×南北約20mに調査区を設定し発掘調査を実施した。遺跡の範囲としては、東側及び西側を低湿地に挟まれており、南北の方向へのびることが判明した。

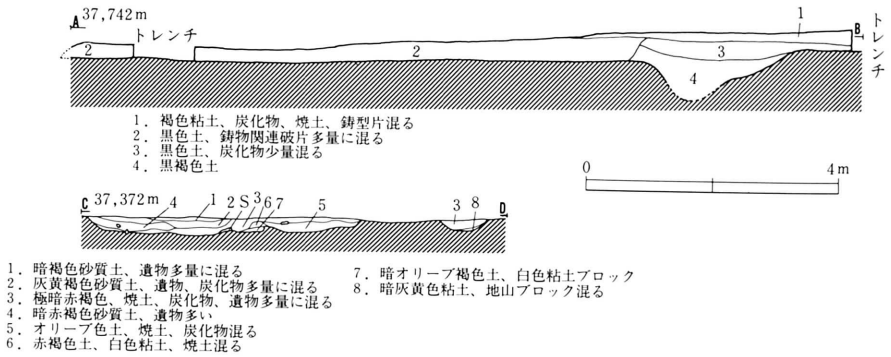
〔**遺構**〕(第28図・第29図)

調査区内から検出された遺構としては、作業場と思われる竪穴状遺構、コシキ片の捨て場及び鋳型片・鉄滓の捨て場がある。

作業場と思われる竪穴状遺構は、東西軸約５m×南北軸約３mの長方形状を呈し、東端に径約１mのピットを持つ。埋土は河川による自然堆積であるが、径約１m厚さ約20cmの焼土・炭化物層が見られることとコシキ片・鋳型片が見られること、また鋳型製作のためのものと



第28図　寺田遺跡遺構配置図



第29図　寺田遺跡鋳型捨場及び遺構断面図

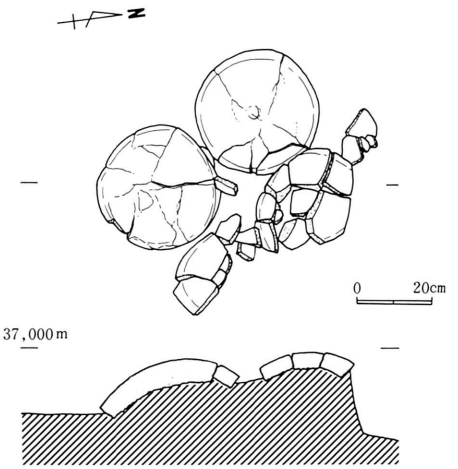
思われる白色粘土が見られることから作業場ではないかと考えられる。コシキ片の捨て場(第30図）は調査区の北西にあり、約１㎡の範囲に４固体ほどが一括廃棄されたものである。また、鋳型片及び鉄滓の捨て場は竪穴状遺構の東側に隣接し、東西約８ｍ×南北約16ｍの範囲に深さ約50cm～80cmで広がっている。

〔遺物〕（第31図）

多量に出土した鋳型片から鋳造製品が明らかなものは鍋である。2・3は耳部でありこの他にも数点出土している。5・6及び8～10はいずれも手捏ね製品であり中子の可能性もあるが、鋳造過程の道具の一部として使われていたものかもしれない。数点出土した羽口の一部(11)に銅が付着しており、銅製品も作られていたことがうかがえる。

竪穴状遺構床面から出土した唐津焼陶器(1)は16C末～17C初のものであり、この遺跡の年代決定資料である。

以上のことから、この遺跡は近世初めの鋳造遺跡と思われる。



第30図　寺田遺跡コシキ片出土状況

第31図　寺田遺跡出土遺物

(3) 落合遺跡第２地点（第16図）

所在地：江刺市愛宕字落合　　調査期日：平成４年７月20日～21日、12月７日～８日

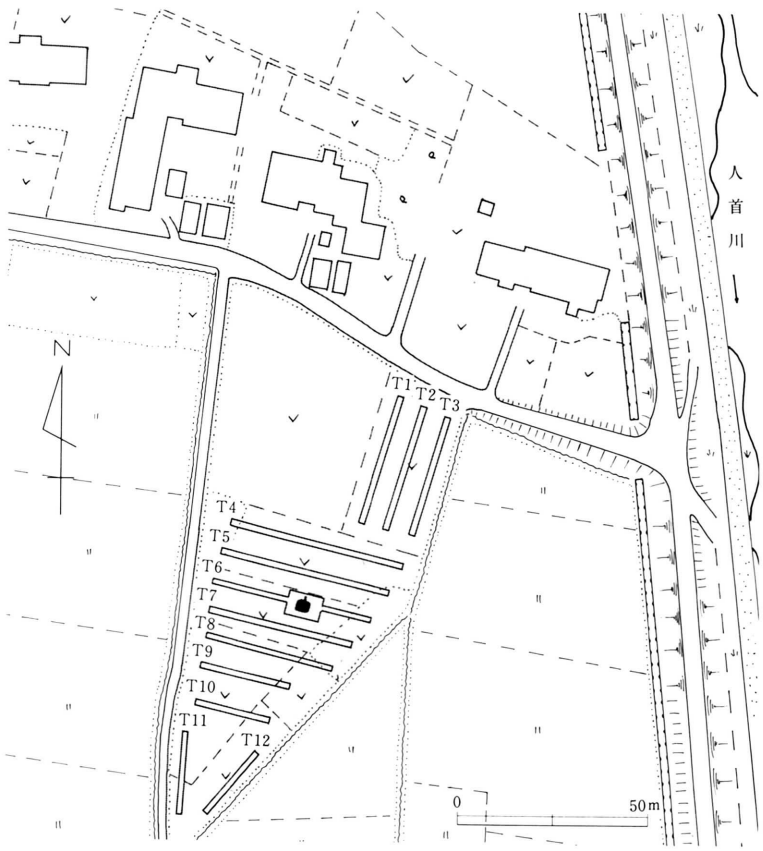
本遺跡は、沖積平野上の微高地に立地し標高は37.2m～37.6mを測る。周囲の水田面との比高差は１m内外である。本遺跡に対しては、東北新幹線及び主要地方道一関北上線により発掘調査が実施されている。県営ほ場整備事業実施に伴い、事業予定地でトレンチ調査を実施した結果、T_7で竪穴住居跡が検出され発掘調査を実施した。（第32図）

〔遺構〕（第33図）

竪穴住居は調査区のほぼ中央東寄りに位置し、１棟だけが独立した形で検出された。主軸を北東方向に持つ１辺約3.7mの隅丸方形であり、検出面からの深さ約20cm内外を測る。埋土は、炭化物層を間に挟む黄褐色砂質土が中心で自然堆積の様相を呈す。この住居跡に伴う遺構としては、カマド跡と大・小ピット６基がある。

カマド跡は北壁東寄りの位置に設けられており、北東方向に約１m煙道がのびる。煙出し部は約15cmほど掘り混まれたピットである。

ピットP_1は、カマド右袖東寄りの住居の隅にあり、約75cm×55cmの楕円形を呈す。埋土は多量の焼土・木炭片を含み、深さは70cmを測る。P_2は住居西壁に接し、約45cmの円形を呈す。埋土は暗褐色砂質土の単層であり、西壁に甕の破片が見られた。P_3～P_6は径約20cm～30cmの小ピットであるが、住居に伴う柱穴と思われる。



第32図　落合遺跡第２地点トレンチ配置図

〔遺物〕（第34・35図）

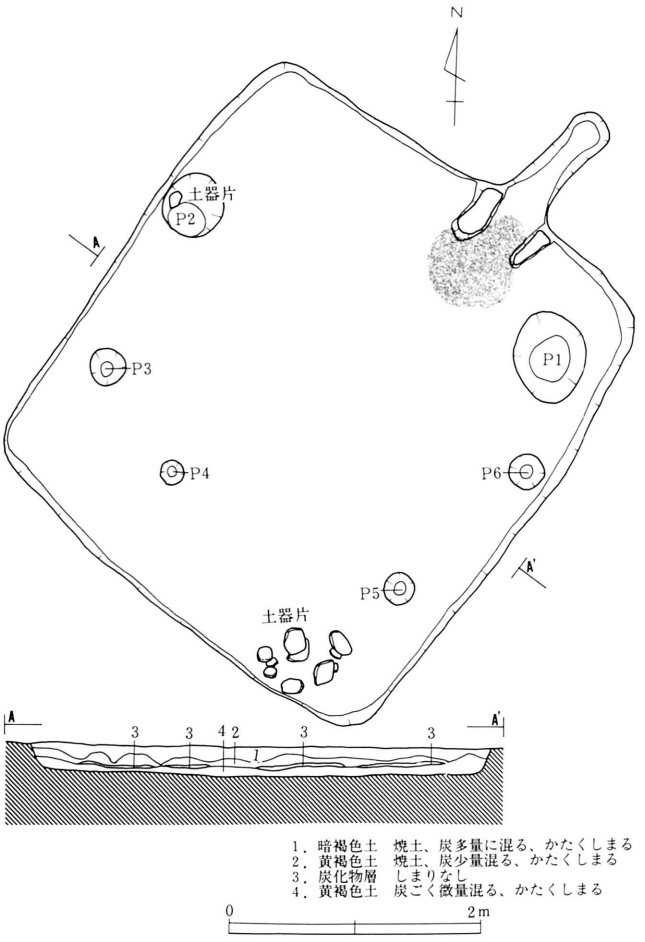
１～６及び７～12

は坏である。1～6及び8・11・12はロクロ成形で、切り離しは回転糸切りが中心であり内面には黒色処理が施こされている。

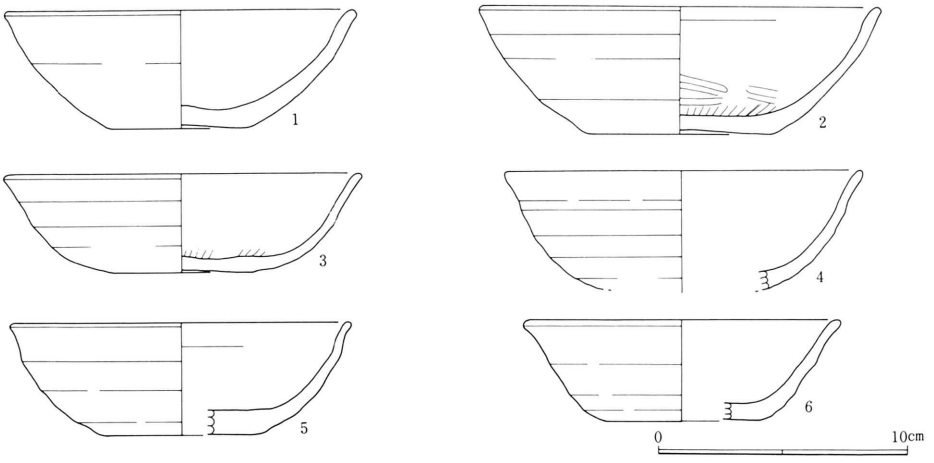
7は高台坏であり、ロクロ成形で内面には黒色処理が施こされている。体部は丸味を持って外傾し、高台部はわずかに裾が開く。

13は小型の壺であり、14・15はいずれも体部下半を欠く長胴甕である。

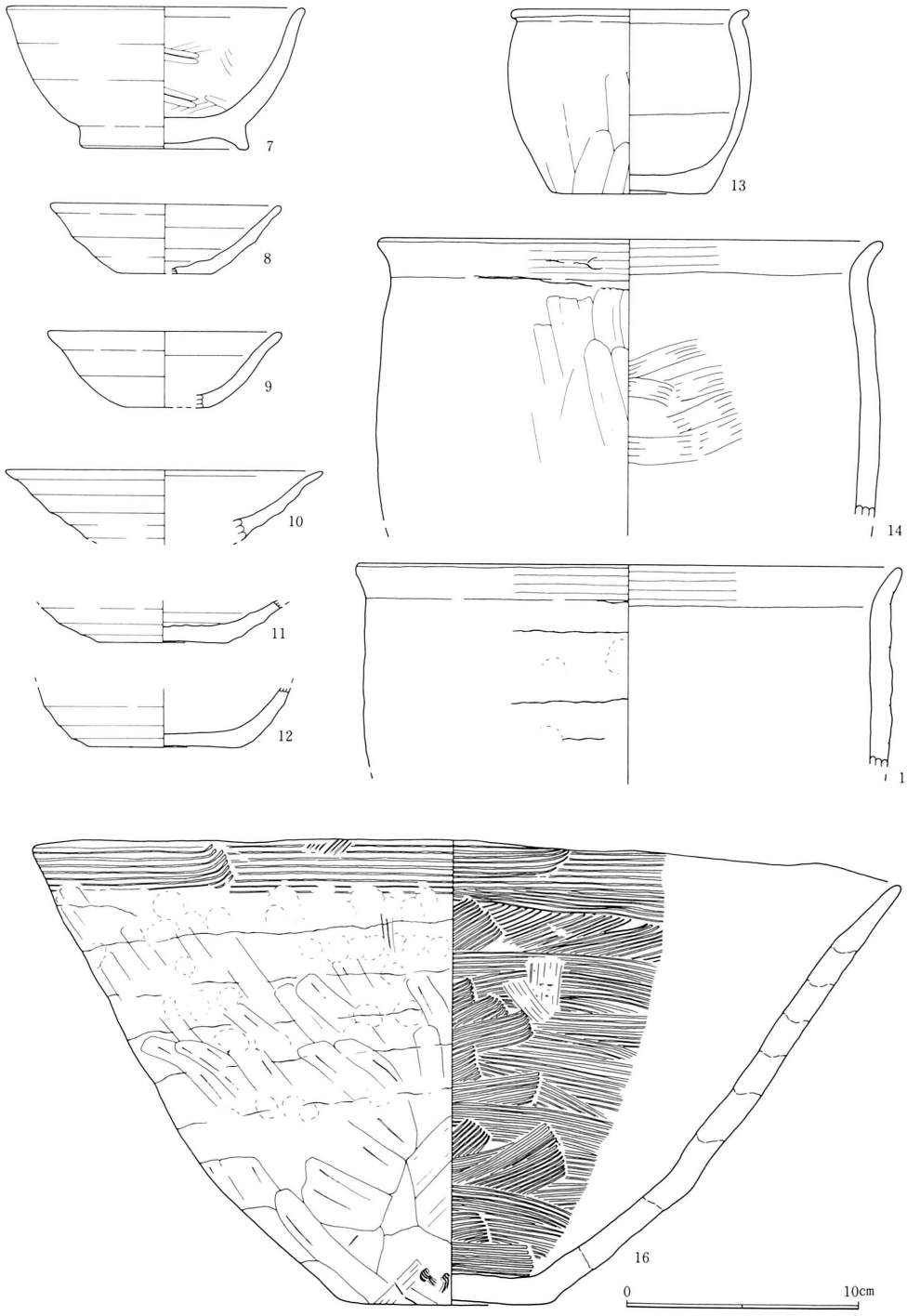
16は住居南東隅の床土から出土したものであり、埦に分類されるものと思われる。底部からわずかに膨らみを持って外傾し、口縁部にかけて器壁は薄くなる。体部下半にヘラケズリが見られる。



第33図　落合遺跡竪穴住居跡平断面図



第34図　落合遺跡第2地点竪穴住居跡出土遺物(1)



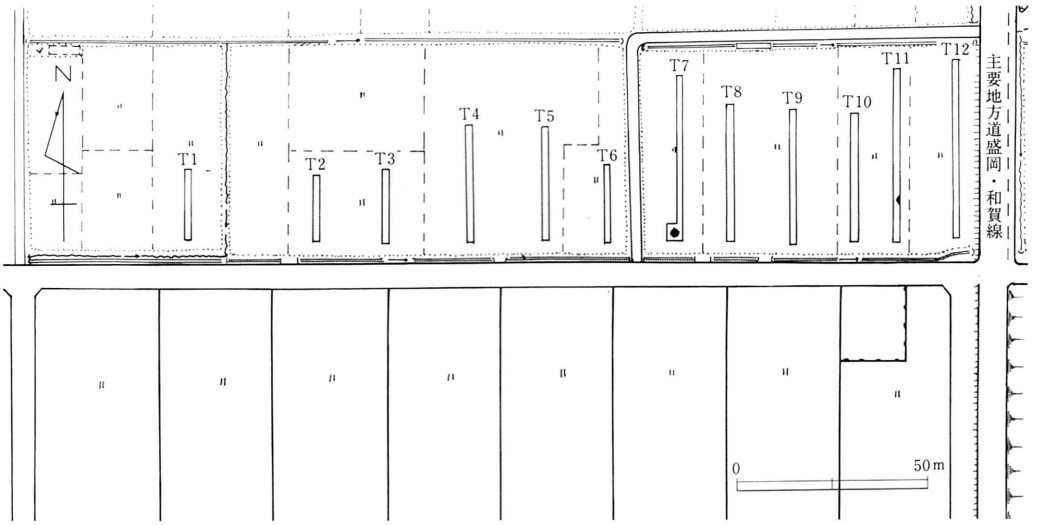
第35図　落合遺跡第２地点竪穴住居跡出土遺物(2)

II　試 掘 調 査

1．県営ほ場整備事業［飯岡第一地区］関連

(1) 林崎II遺跡（第７図）

所在地：盛岡市上飯岡林崎　　調査期日：平成４年７月27日～29日



第36図　林崎II遺跡トレンチ配置図

本遺跡は、県道盛岡和賀線を挟み、鹿妻本堰の北側の水田地帯に広がる。標高はおよそ125mで、西から東にかけて緩やかに傾斜するが、旧地形は失われている。今年度の調査区は、昨年度円面硯を出土した住居跡検出地点の北側にあたる。第36図に示したとおり、トレンチT_1～T_{12}を設定し試掘調査を実施した。

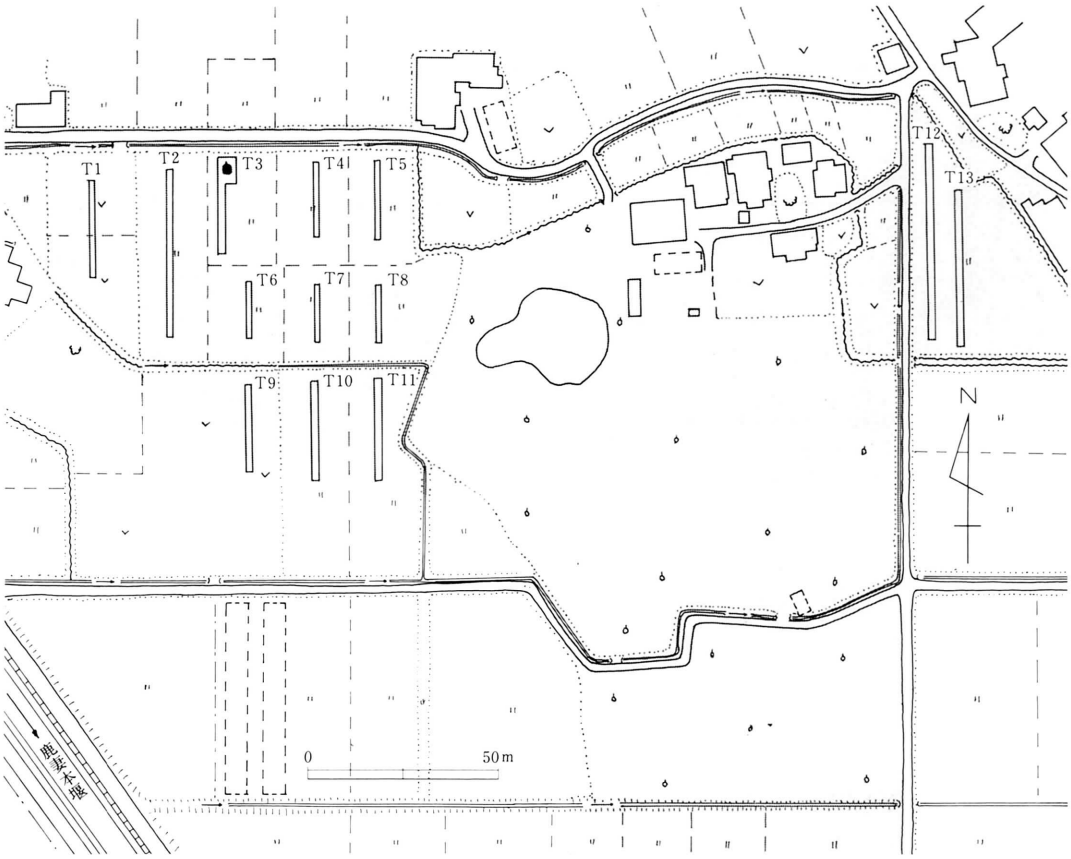
T_7で１辺約2.3mの竪穴住居跡１棟が検出され、須恵器片が出土したため、設計変更で盛土による遺構の保存を図った。

(2) 藤島遺跡（第７図）

所在地：盛岡市上飯岡藤島　　調査期日：平成４年７月27日～29日

本遺跡は、雫石川及び支流によって形成された沖積平野上の微高地に立地し、現在は集落となっている。今回調査区となった遺跡縁辺部の標高は、約126.6mを測る。県営ほ場整備事業に伴い事業予定地に、第37図に示したとおりトレンチT_1～T_{13}を設定し、試掘調査を実施した。

調査区が微高地上の縁辺部にあたるため、ほとんどのトレンチで河川堆積による砂礫層が見られたが、T_3北端部で一辺約3.2mの竪穴住居跡が検出され、土師器片・須恵器片が出土した。現耕作土から遺構検出面までは30cm内外であった。そのため事業者側と協議の結果、遺構検出面までに工事が及ばないような設計とすることとした。



第37図　藤島遺跡トレンチ配置図

(3)　**辻屋敷遺跡**（位置図：第７図４参照）

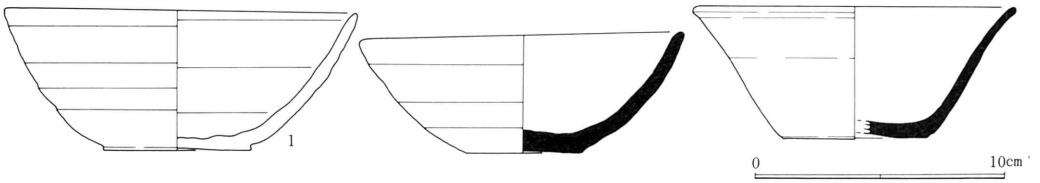
所在地：盛岡市下鹿妻辻屋敷　　調査期日：平成４年７月27～29日

本遺跡は、県道盛岡和賀線と東北自動車道に挟まれた標高約128mの微高地で、現在は、宅地・水田・果樹園・畑地となっている。調査は、事業予定地内に南北方向のトレンチを設定して行った(第38図)。その結果、T_4トレンチで、平安時代の竪穴住居２棟を確認した。このうち、北側で検出された住居跡は、東カマドを持ち、須恵器坏（第39図３）の形態等から、９世紀初頭に位置付けられる。

現地形は、水田・果樹園等の造成工事により改変されているが、微高地はT_8・T_9東側、その西側の宅地部分に広がっており、今回の調査で遺構は検出されなかったものの、遺跡の主体はこれら部分にあると予想される。また、T_{12}～T_{15}以南は沖積地であった。

なお、遺構が検出された部分については、盛土し保存を図ることとした。

第38図　辻屋敷遺跡トレンチ配置図



第39図　辻屋敷遺跡出土遺物

2．県営ほ場整備事業［愛宕南部地区］関連

(1)　力石・兎Ⅰ遺跡（位置図：第16図参照）

所在地：江刺市愛宕字力石　　調査期日：平成４年６月８日～９日、７月20日～21日

本遺跡は、北上山地から流れ出る人首川をはじめ小河川によって形成された沖積平野上の微高地に立地し、標高は約36m～37mを測る。周囲の水田面との比高差は50cm～１m内外である。本遺跡の東端を走る東北新幹線は、昭和49年岩手県教育委員会により発掘調査が行われており、遺跡の西寄りを走る県道一関北上線についても、昭和53年に㈶岩手県埋蔵文化財センターによ

り発掘調査が実施されている。今年度、本遺跡中の東北新幹線と県道に挟まれた地域がほ場整備事業の予定地となったため、第40図に示したとおりトレンチT_1～T_9を設定し、試掘調査を実施した。

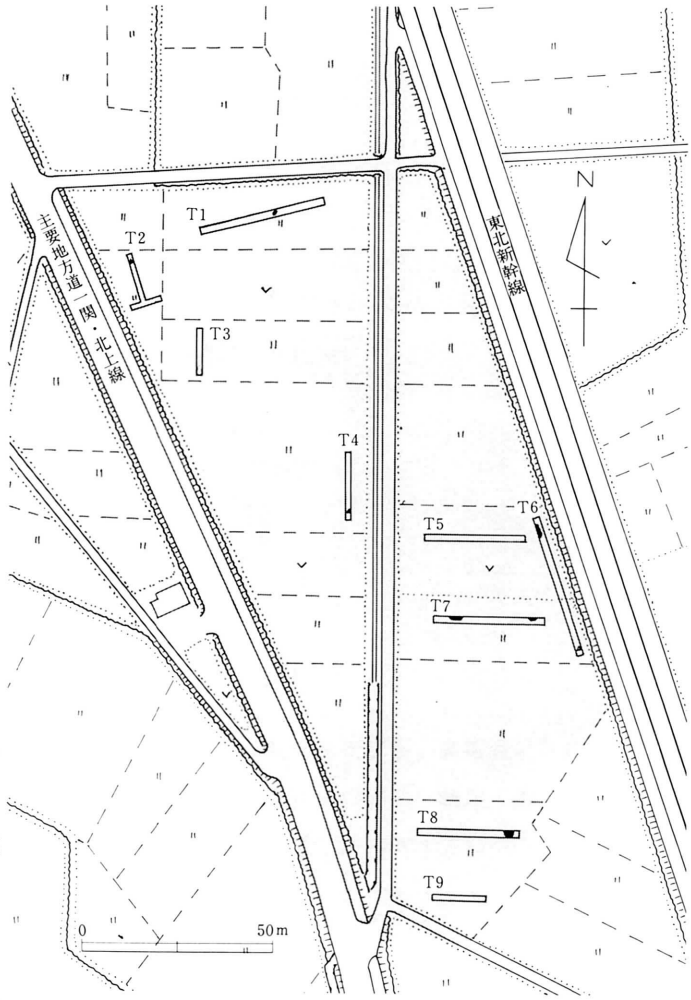
遺構については、T_1で南西－北東方向に伸びる溝跡１状、T_2北端で焼土遺構が検出された。いずれも、表土下約45cmからの検出であり、田面造成の影響を受けない深さであったため、性格及び範囲については追跡調査しなかった。また、T_4で焼土遺構１基、T_6で竪穴住居跡１棟及び焼土遺構１基、T_7で竪穴住居跡１棟及び焼土遺構１基、T_8で竪穴住居跡１棟が検出された。これらの遺構については、盛土等の設計変更により遺構の保存を図ることとした。

遺構検出までの調査であったにもかかわらず、多量の土師器片・須恵器片が出土した。そのうち図化できたものは、第41図に示したとおり11点である。以下概略について述べる。

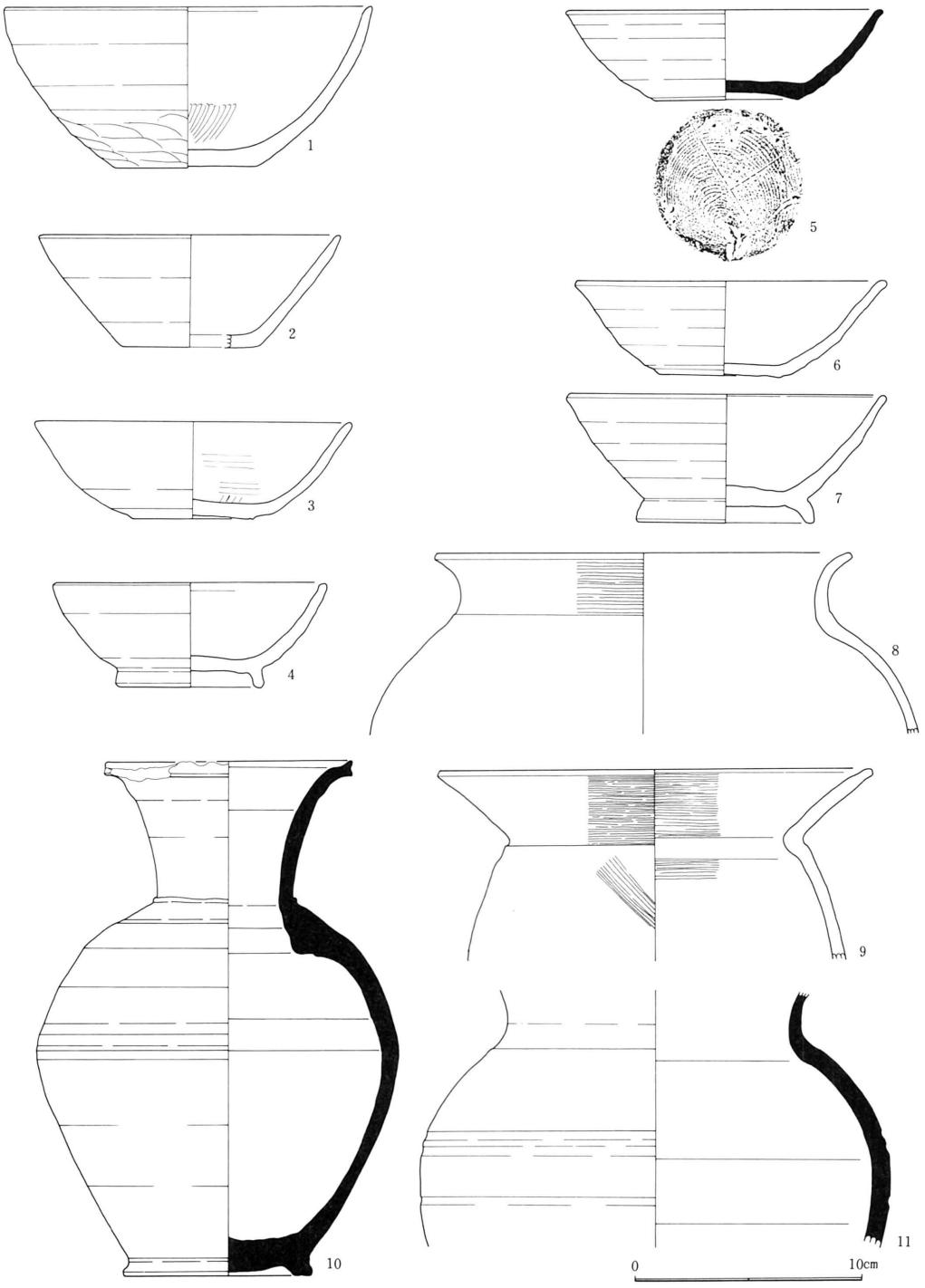
１～３及び５・６は、いずれもロクロ成形の坏である。１～３は器高の高低、体部のつくりに違いはあるが、いずれも内面に黒色処理が施こされており、切り離しは回転糸切りである。５は須恵器の坏である。器高は低く体部はわずかに膨らみを持って外傾する。底部は回転糸切り後、十字に印が付けられている。６は器高の低い土師器の坏である。

４・７は高台付の坏であり、４は内面に黒色処理が施こされている。８・９は長胴甕の破片であるが、口縁部のつくりに違いがある。

10はT_1の溝周辺から出土した長頸瓶であり、ほぼ完形に復元されたものである。



第40図　力石・兎Ⅰ遺跡トレンチ配置図



第41図　力石・兎Ⅰ遺跡出土遺物

(2) **落合遺跡第１地点**（位置図：第16図）

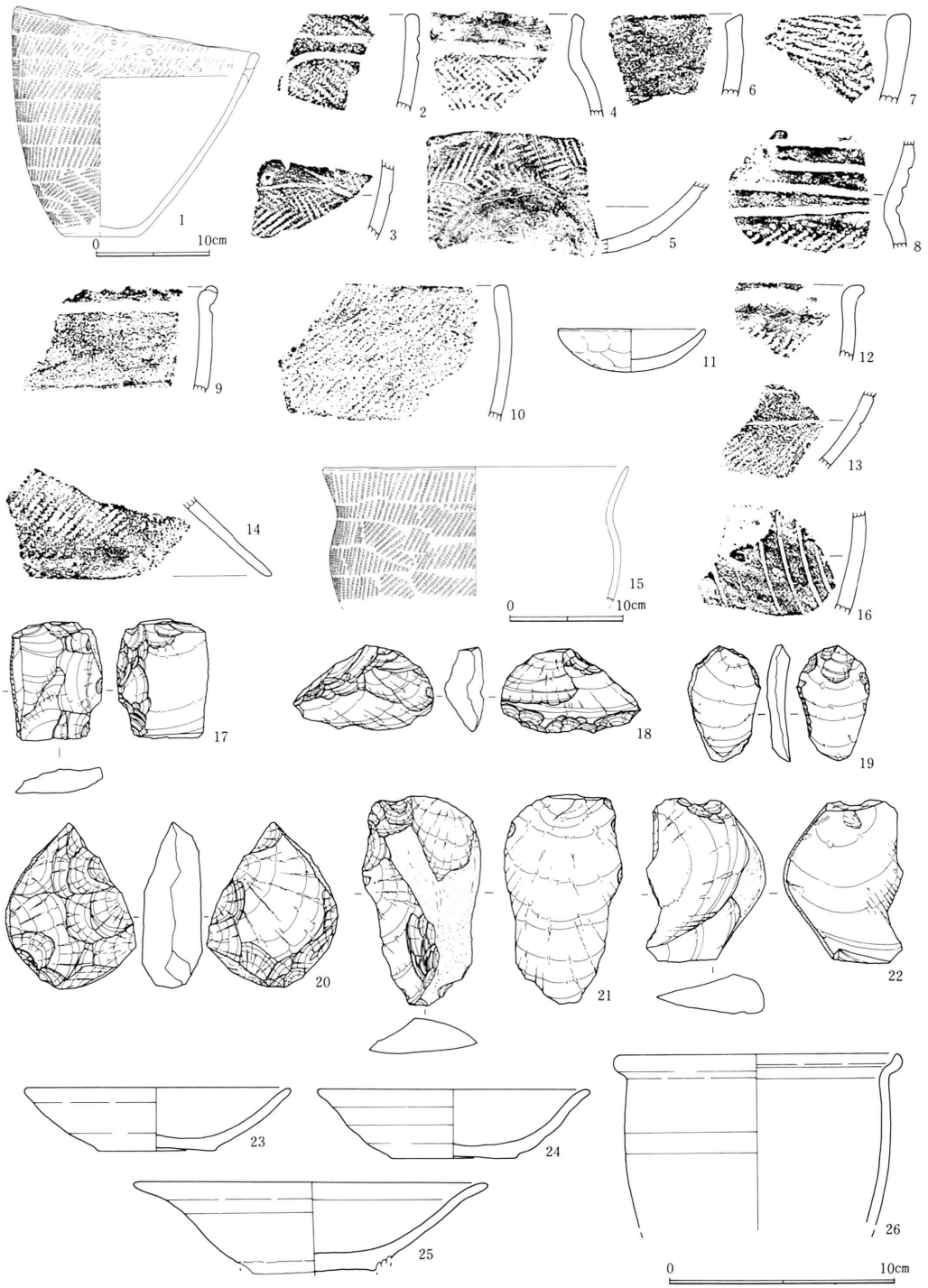
所在地：江刺市愛宕字落合49　　調査期日：平成４年３月16日～18日、７月20～21日

本遺跡は、北上川及び支流によって形成された沖積平野上の微高地に立地し、現在は集落となっているところであり、標高は約38.2mである。周囲の水田面との比高差は１m内外を測る。今回の調査区の西側を走る県道建設に際し、㈶岩手県埋蔵文化財センターにより発掘調査が実施されており、平安時代の多数の遺構・遺物が確認されている。県営ほ場整備事業実施に伴い、第42図に示したとおりトレンチT_1～T_6を設定し、試掘調査を実施した。

T_1において竪穴住居跡２棟、T_2において竪穴住居跡４棟、T_6において竪穴住居跡３棟が検出された。いずれも水路予定線に入れたトレンチから検出され、水路の路線を変更してもらったため遺構精査は実施していない。そのため出土遺物は多くはないが、その中で縄文時代・弥生時代の遺物が目を引く。（第43図）

いずれもT_6南端の竪穴住居及び周辺からの出土であるが、１～７は縄文後期、８～11は縄文晩期、12～16は弥生時代の土器片である。

第42図　落合遺跡第１地点トレンチ配置図



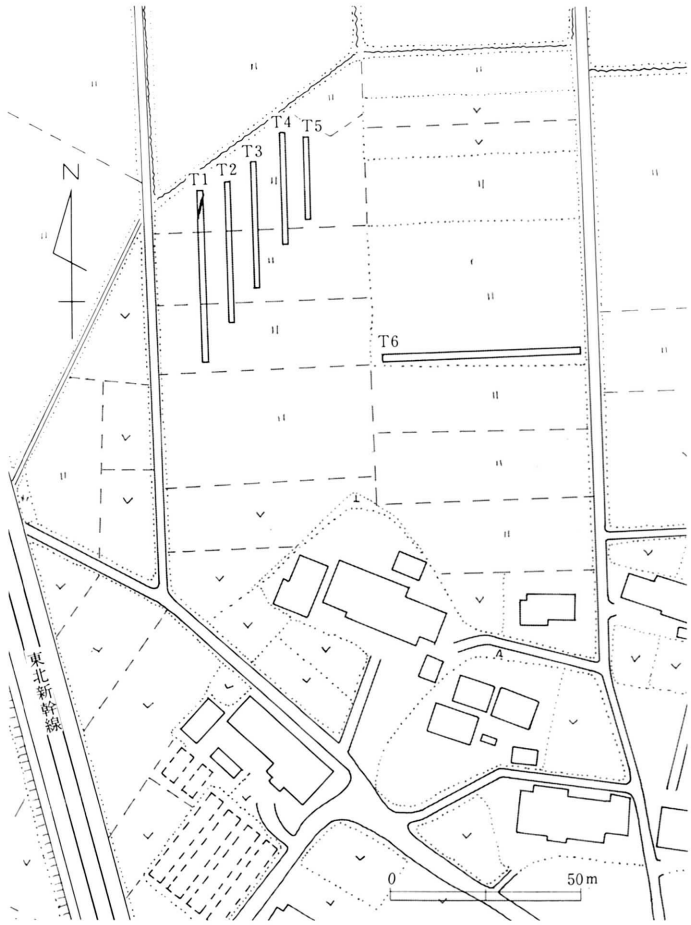
第43図　落合遺跡第Ⅰ地点出土遺物

(3) 鴻之巣館遺跡（第16図）

所在地：江刺市愛宕字稗田　　調査期日：平成４年６月８日～９日、７月20日～21日、12月８日

本遺跡は、北上川及び人首川などの小河川により形成された沖積平野上の微高地に立地し、標高は約36m～37mを測る。周囲の水田面との比高差はほとんどなく、50cm前後となっている。遺跡西端部を東北新幹線が走るが、昭和49年岩手県教育委員会により緊急発掘調査が実施されており、平安時代（９C～10C）の竪穴住居跡10棟が検出されている。また、多量の遺物も出土している。

今年度の試掘調査は、県道ほ場整備事業実施に伴い、水路となる部分及び切土となる部分について、第44図に示したとおりトレンチT_1～T_6を設定した。

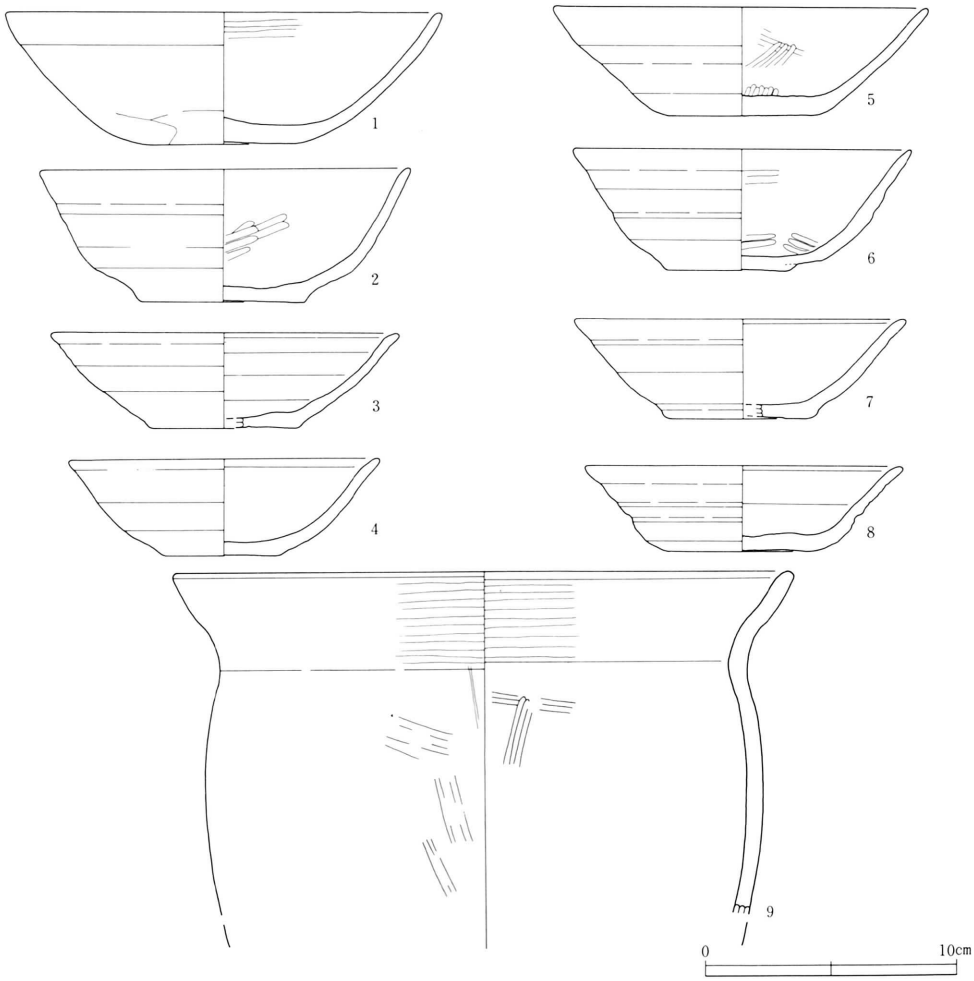


第44図　鴻之巣館遺跡トレンチ配置図

調査の結果、T_2～T_6では耕作土中から土師器小片が出土したものの、遺構は検出されなかった。T_1において、南西－北東方向に走る上巾約45cm下巾約30cm深さ約25cmの溝跡一条が検出され、多量の遺物が出土した。（第45図参照）

１～８は土師器坏であるが、いずれもロクロ成形である。内面黒色処理されているものが４点（１・２・５・６）、うち２・５・６には内面ヘラミガキが施こされている。１は体部下半から底部にかけてヘラケズリされており、口径も19,4cmと最大である。底部調整は、回転糸切り無調整のものが７点（２～８）。１のみがヘラケズリ後再調整されている。

９は長胴甕であるが、内外面口縁部に横ハケメ調整が施こされている。



第45図　鴻ノ巣館遺跡出土遺物

(4)　朴の木遺跡（第16図）

所在地：江刺市愛宕字朴の木93　　調査期日：平成４年３月24日～26日

本遺跡は、北上川及び人首川により形成された沖積平野上の微高地に立地し、標高約37m～39mを測る。現地形は微高地としてのまとまりを持っているため、遺跡範囲としてつくっているが、遺跡中央部を東西に旧河道が走り砂礫層が見られる。主要地方道一関北上線建設に際し、昭和53年に㈶岩手県埋蔵文化財センターによる緊急発掘調査が実施されており、平安時代前半の竪穴住居跡等が検出され、土器及び鉄器が出土している。

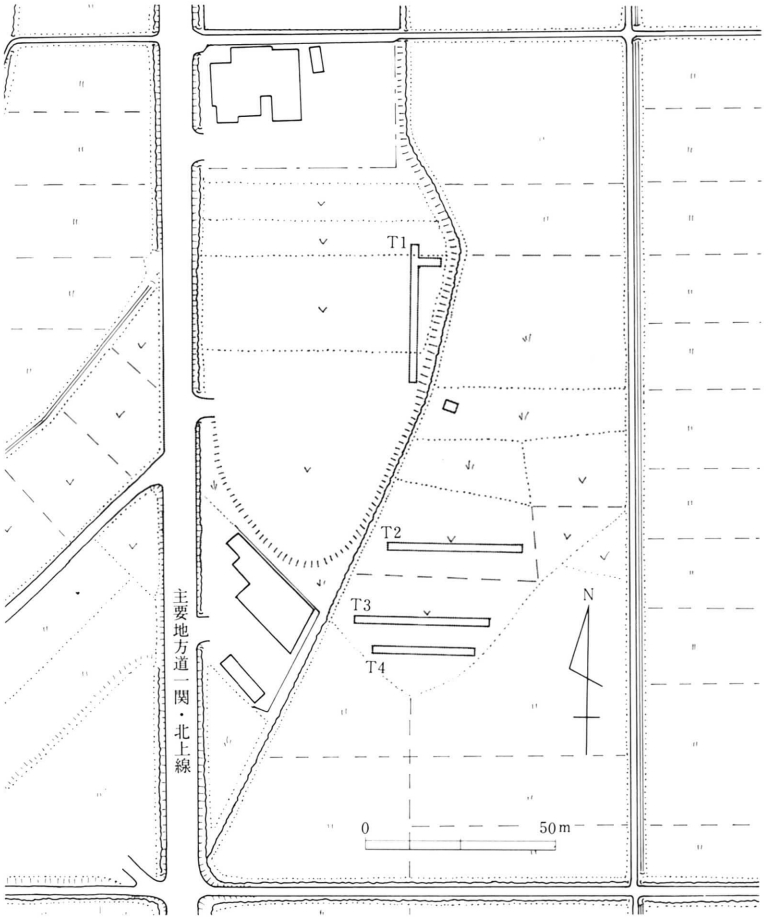
今年度の試掘調査は、県営ほ場整備事業実施に伴い切土となるほ場部について、第46図に示

したとおりトレンチT_1～T_4を設定した。

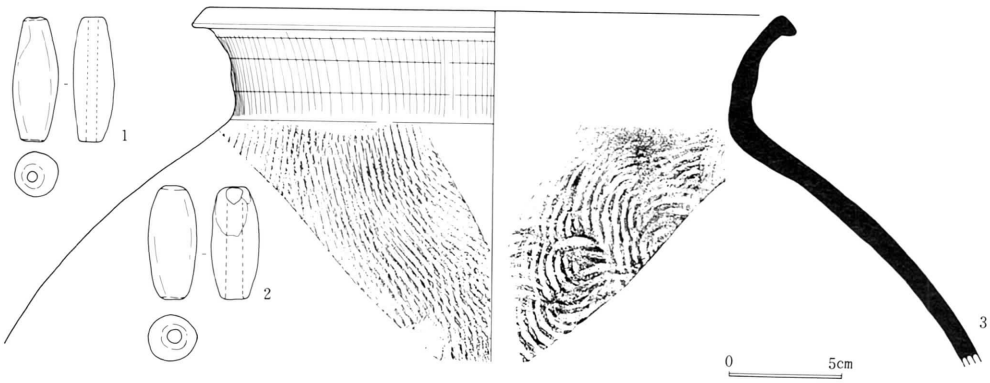
調査の結果、T_1の南側は厚く攪乱層が堆積し、その下位からピット2基が検出された。そのうち1基は焼土を持つが、いずれも浅く性格を把握するまでには至らなかった。T_2では、竪穴住居跡の南隅部分が検出された。

T_3・T_4では遺構は確認されなかったものの、土器片・土錘等（第47図参照）が出土し、周辺に遺構の存在が予想された。

上記の調査結果から、切土予定地については設計変更の上、遺構の保存を図った。



第46図　朴ノ木遺跡トレンチ配置図



第47図　朴ノ木遺跡出土遺物

3．県営農村活性化住環境整備事業［大桜地区］関連

(1) 目呂木本杉遺跡（第48図）

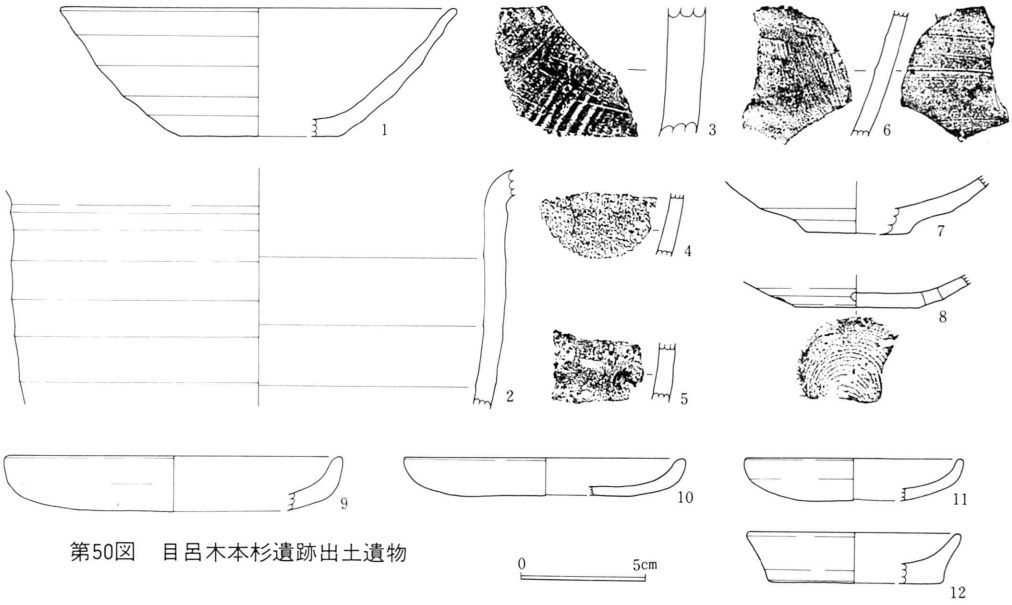
所在地：胆沢郡前沢町高畑

調査期日：平成５年１月14日

本遺跡は、前沢町市街地の東南、国道４号の東に近接して所在する。ここは、開折が進み微高地状に取り残された低位段丘上に位置し、周囲の水田面とは約１ｍの比高差がある。

第48図

第49図　目呂木本杉遺跡トレンチ配置図



第50図　目呂木本杉遺跡出土遺物

今回の調査は、遺跡の南端にT_1～T_5トレンチを設定した。その結果、T_1～T_3には、第50図13に示した平安時代の遺物が出土し、焼土等も検出したことから再調査を実施することとした。T_4は、遺物は見られず、近年の水路による攪乱部と判断された。T_5では、かわらけ・陶器が出土し、12世紀後半の平泉藤原氏と関係する遺跡であることが判明した。このトレンチで遺構は確認できなかったが、東側部分へ遺跡の主体が広がるものと推定できた。

4．かんがい排水整備・南都田地区関連

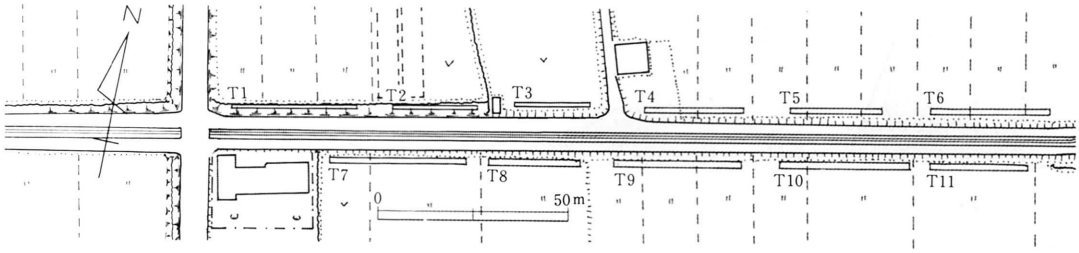
(1)　清水下遺跡（第51図）

所在地：胆沢町南都田清水下

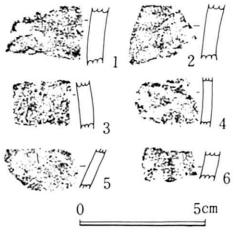
調査期日：平成４年11月10日

本遺跡は、胆沢扇状地の中央部に位置し、角塚古墳へは東に500mほどを計る標高約90

第51図



第52図　清水下遺跡トレンチ配置図



第53図　清水下遺跡出土遺物

mの水田地帯に所在する。かっての水路工事の際、２本の石庖丁が発見され、注目された遺跡でもある。

今回の調査区は、現水路に沿う部分であるため、黄褐色粘土層の堆積は確認できたが、遺構はなく、出土土器片も摩耗が著しいものであった。遺跡の主体は、北側の微高地付近にあると推定される。

ただし、出土土器（第53図）は、弥生時代初頭に位置付けられ、石庖丁の年代を追認する資料となる。

５．三陸国道山田道路関連調査

⑴　大畑Ⅰ遺跡（第54図）

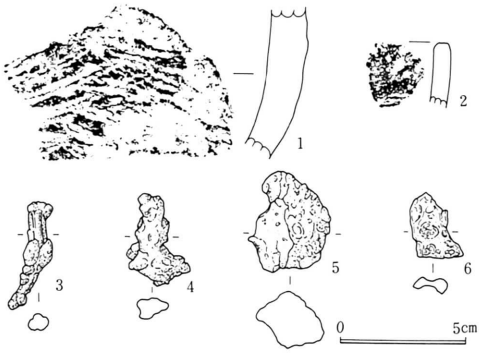
所在地：下閉伊郡山田町飯岡第６地割

調査期日：平成４年９月25日

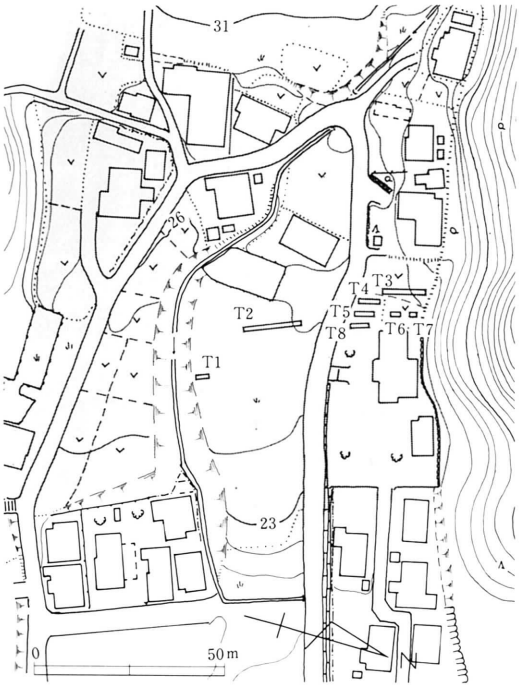
本遺跡は、本年度発掘調査を実施した大畑Ⅱ遺跡が立地する丘陵の南側裾部に広がる平坦地に位置し、標高は約23m～31mを測る。

第56図に示したとおり、事業計画予定地内にトレンチT_1～T_7を設定し調査を実施した。T_1・T_2及びT_4・T_5・T_8は宅地造成のため削平を受けており、表土直下に地山が見られたが、T_3及びT_6・T_7は漸移層が残っており、縄文土器片及び鉄滓（第55図参照）が出土した。大畑Ⅱ遺跡からの流れ込みの可能性もあるが、来年度大畑Ⅱ遺跡とともに本調査実施とした。

第54図



第55図　大畑Ⅰ遺跡出土遺物



第56図　大畑Ⅰ遺跡トレンチ配置図

(2)　山ノ内Ⅲ遺跡（第57図）

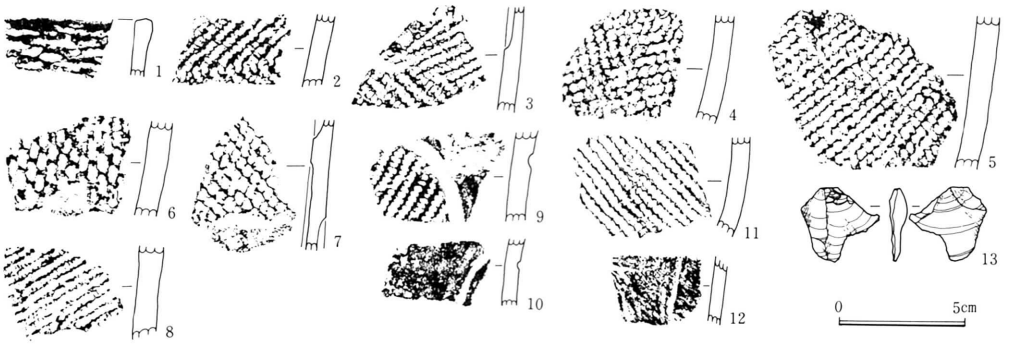
所在地：下閉伊郡山田町船越字山ノ内

調査期日：平成４年11月16日

本遺跡は、丘陵に挟まれ扇状地状に広がる東向きの緩斜面に立地し、標高は約20m～70mを測る。事業予定路線内にトレンチT_1～T_{17}を設定し、試掘調査を実施した。

第57図

第58図　山ノ内Ⅲ遺跡トレンチ配置図



第59図　山ノ内Ⅲ遺跡出土遺物

T_1～T_5の範囲では、黒色土の厚い堆積が見られT_2で鉄滓が出土した。しかし、T_6～T_9は崖錐性の小角礫が全面に見られ遺構は存在せず、鉄滓に伴う遺構の範囲が確定できないため、来年度再度試掘調査を実施することとした。

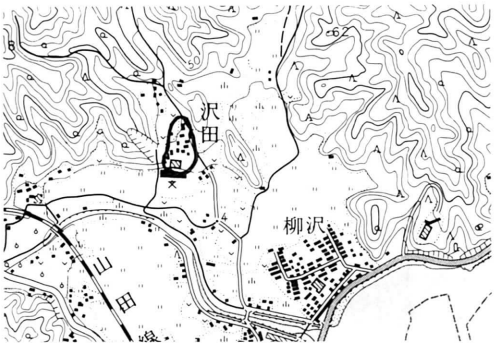
T_{10}～T_{14}の範囲では、いずれのトレンチからも表土下約50cmの黒褐色土中で縄文時代前・中期（第59図参照）の遺物包含層が検出され、住居跡の存在が予想された。T_{15}～T_{17}は地山直上まで削平されているが、遺物は出土しており若干遺構の残存部も見られた。そのため、遺跡中央部を通る道路より西側の斜面全体を来年度発掘調査することとした。

(3)　沢田Ⅰ遺跡（第60図）

所在地：下閉伊郡山田町山田第14地割

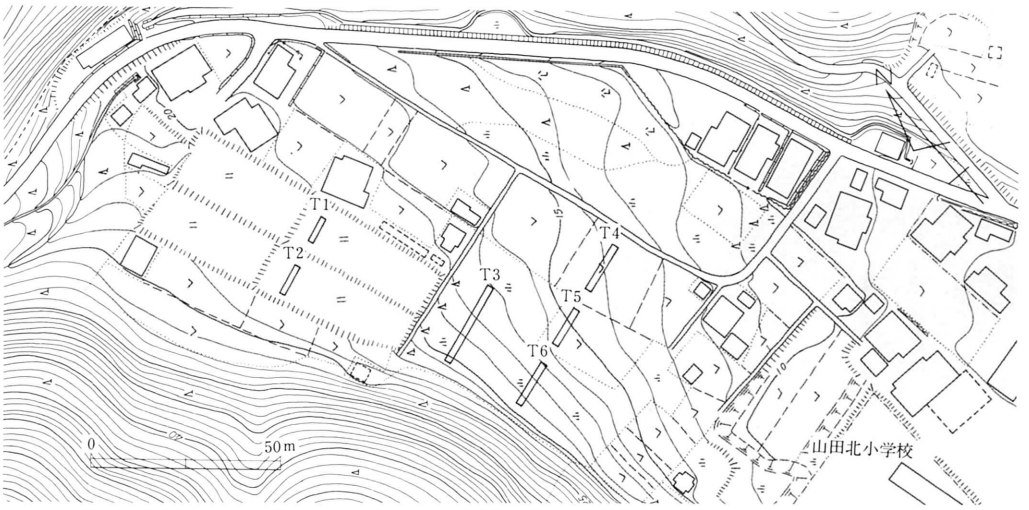
調査期日：平成４年11月17日

本遺跡は、丘陵に挟まれ扇状地状に広がる東向きの緩斜面の扇頂部に立地し、標高は約10m～25mを測る。また、遺跡南側の山田北小学校のプール造成の際多量の縄文土器片が出土したことでも知られている。事業予定地内にトレンチT_1～T_6を設定し試掘調査を実施したが、作物を避けて設定したものである。

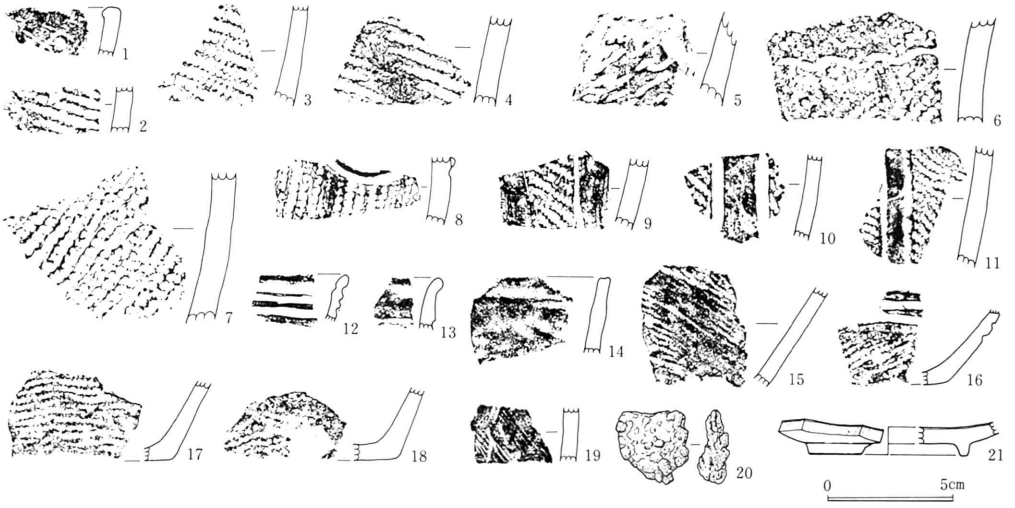


第60図

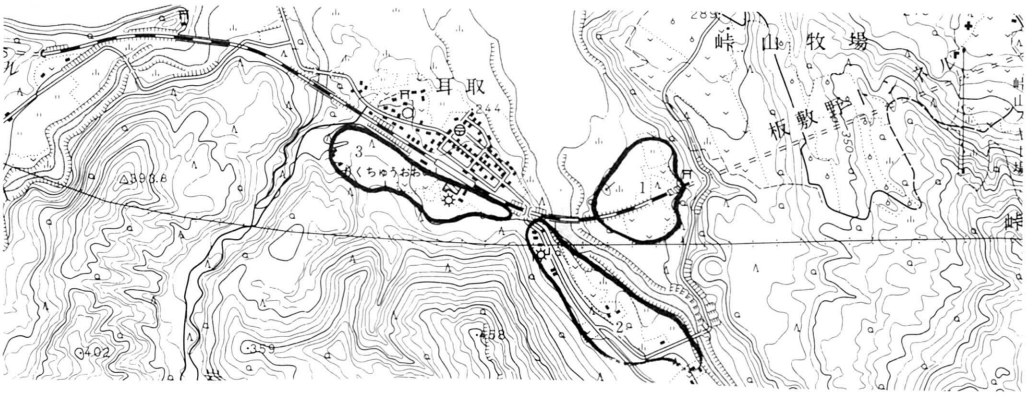
T_1・T_2は開田のため削平されていたが、耕作土下に漸移層が残っており、縄文土器片が出土した。また、T_3～T_6は旧地形が残っており、いずれのトレンチからも縄文前・中期（第62図参照）の遺物包含層が検出された。そのため発掘調査対象遺跡としたが、事業者側の都合で再来年度の調査実施とした。



第61図　沢田Ⅰ遺跡トレンチ配置図



第62図　沢田Ⅰ遺跡出土遺物



第63図

6．東北横断自動車道秋田線関連

(1) 本内Ⅰ遺跡（第63図１）

所在地：湯田町峠山　調査期日：平成４年11月11日

本遺跡は、和賀川とその支流南本内川の合流点の東側にあり、標高約240mの段丘平坦部に位置する。遺跡の中央部をJR北上線が東西に走り、西に緩く傾斜する。

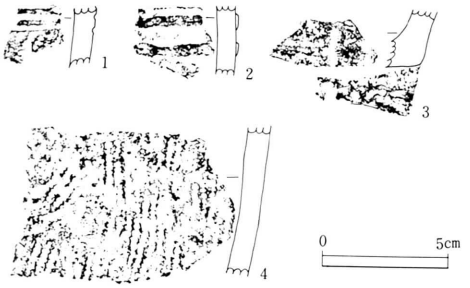
調査は、遺跡の西側を中心に、T_1～T_8のトレンチを設定して実施した。その結果T_5～T_8部分は、段丘礫層が表土下に分布し、特段の遺構等は検出できなかった。T_1～T_4では、表土直下より、縄文時代中～後期の土器が出土し、周辺に遺構等の存在が予想できた。中央部に東西に沢があり、崖錐性の地形と思われるが、遺物出土地点を中心に、平成５年度に発掘調査を実施することとした。

(2) 本内Ⅱ遺跡（第63図２）

所在地：湯田町大石

調査期日：平成４年11月12・13日

本遺跡は、南本内川の西岸、標高約240mの段丘上に位置する。遺跡はこの段丘に沿い東西に広がっている。



第64図　本内Ⅱ遺跡出土遺物

調査は、東側の本内橋周辺にT_1～T_9、西側の段丘崖下位にT_{10}～T_{17}のトレンチを設定した。

調査の結果、T_1～T_3で、縄文中期の土器（第64図）が、またT_{13}付近で、縄文晩期の土器が出土した。

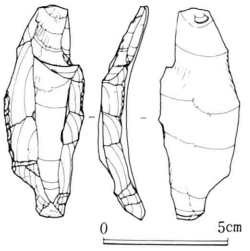
T_4～T_7付近は、低湿地であり、遺構・遺物とも検出できなかった。T_{10}には、段丘礫層を覆う形で、巨礫からなる崖錐起源の堆積がみられ、また沢も入り込むなど土層は安定していない。

従って、遺物出土地点周辺について、平成５年度に発掘調査を実施することとした。

(3) 耳取Ⅰ遺跡（第63図３）

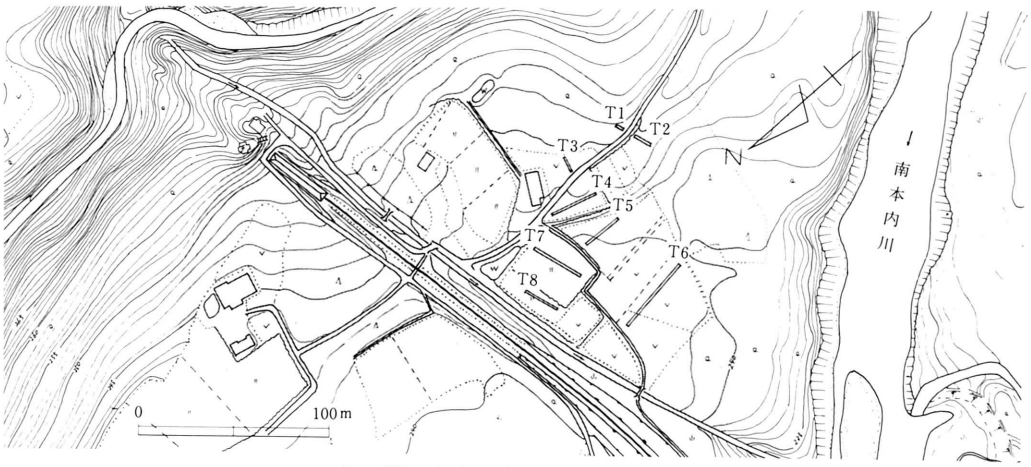
所在地：湯田町大石　　調査期日：平成４年11月13日

本遺跡は、JR北上線大石駅の裏手、標高245～255mの緩斜面に位置する。遺跡の東には大きな低湿地があり、その西に畑地・雑木林となる。調査では遺跡中央部の畑地にT_1～T_9のトレンチを設定した。

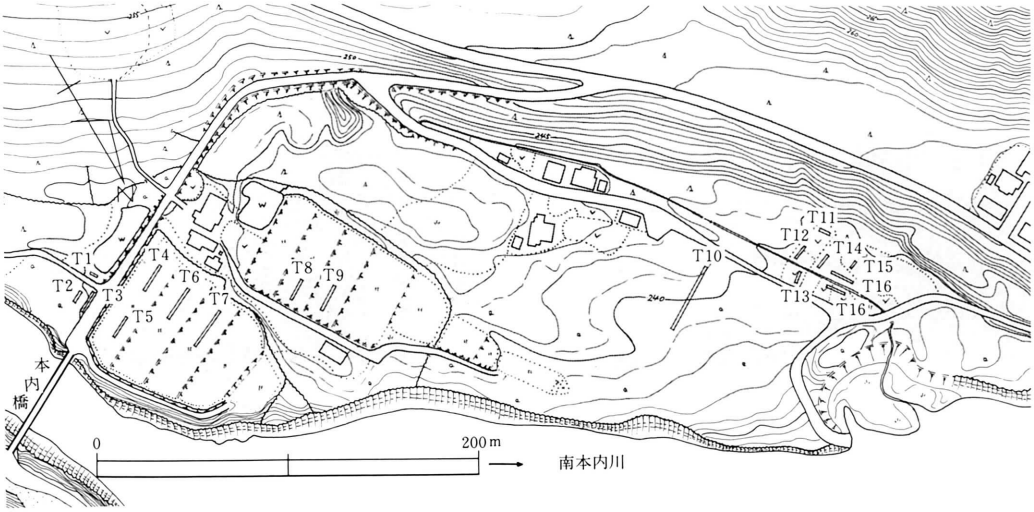


第65図　耳取Ⅰ遺跡出土遺物

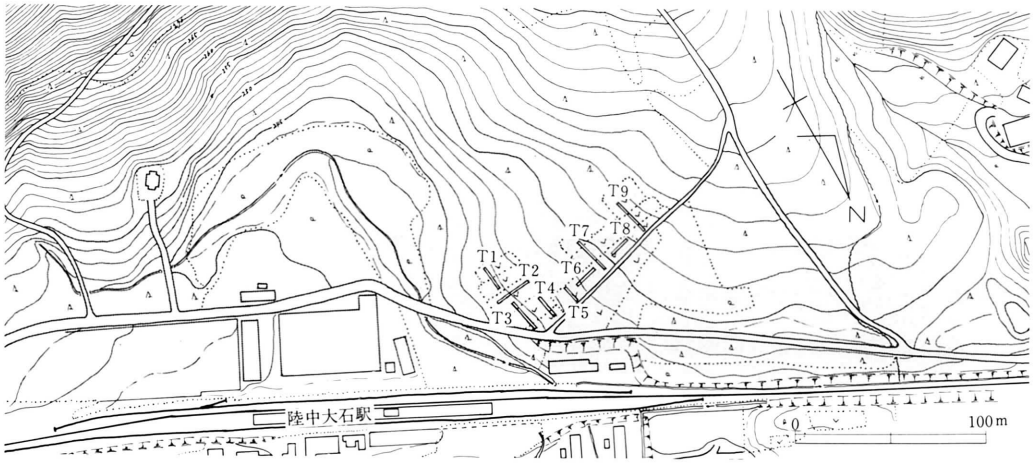
その結果、T_2南側で剝片（第65図）、T_8で縄文土器片が出土したことにより、南側のより高い部分に遺跡の広がることが予想され、平成５



第66図　本内Ⅰ遺跡トレンチ配置図



第67図　本内Ⅱ遺跡トレンチ配置図



第68図　耳取Ⅰ遺跡トレンチ配置図

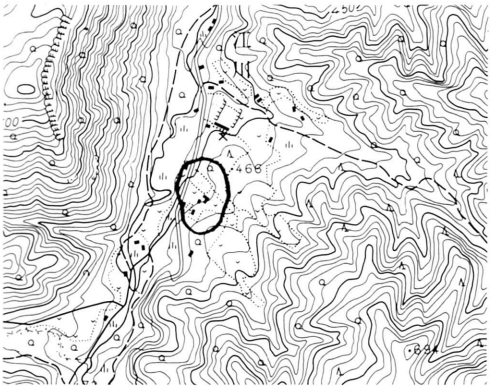
7．交流ネットワーク道路整備事業・主要地方道久慈岩泉線

(1) 江川鉄山跡（第69図）

所在地：岩泉町安家江川

調査期日：平成４年11月19・20日

江川鉄山跡は、岩泉町中心部から北へ直線距離で約10km、石灰岩地帯特有の深い谷底の崖錘地に位置する近世の製鉄遺跡である。



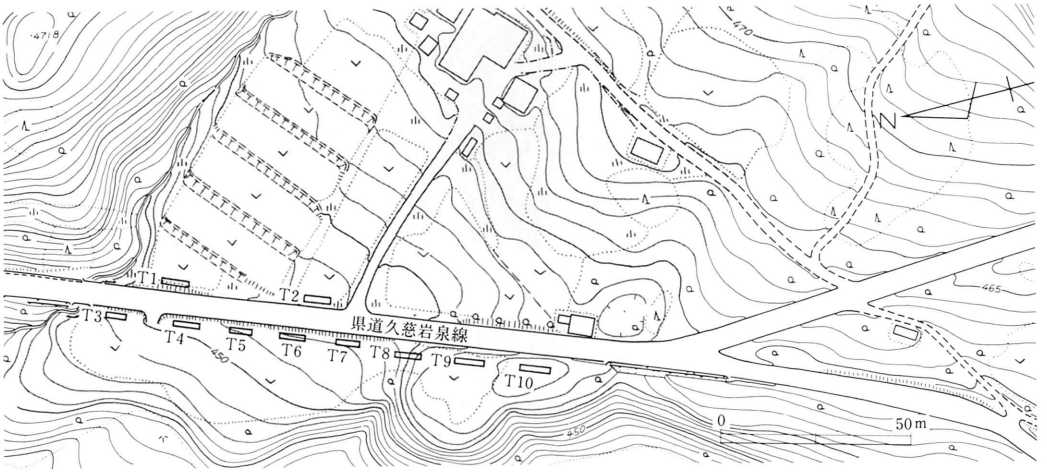
第69図

遺跡は、西と北が沢で区切られるが、東と南は判然としない。北側の一部は水田造成により旧地形が変更されているが、周辺の全面にわたって鉄滓が散布している。

本鉄山跡は、盛岡藩政期における岩泉地方で最大規模のものと言われ、今回の調査地点以外にも、いくつかの製鉄跡が存在する。操業開始年代は、慶安年間との伝承があるが、古文書類から推定すると、18世紀中葉が確実なところであろう。

今回の調査は、県道に沿いT_1～T_{10}のトレンチを設定して実施した。このうち、T_1・T_2・T_4・T_7～T_9で鉄滓捨て場が確認できた。特にT_4では、炉体の大形破片がまとまりをもって出土し、フイゴ台座の粘土貼施設も確認できたことから、高殿の存在も予想できる。T_8～T_{10}の西に張り出す丘陵は、その全体が鉄滓の廃棄の場であろう。また、T_{10}では製鉄炉の基礎工事である「舟」と呼ぶ木炭を充填した遺構を検出した。その長軸方向は、磁北より約40度西に傾く。陶磁器など年代を検討できる資料は出土しなかった。

以上の調査結果から、本遺跡については、平成５年度に発掘調査を実施することとした。



第70図　江川鉄山跡トレンチ配置図

8．県道下斗米田子線下斗米地区改修事業

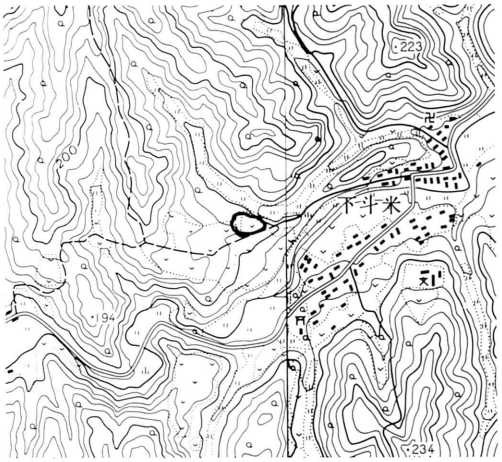
(1) 寺久保遺跡

所在地：二戸市下斗米寺久保

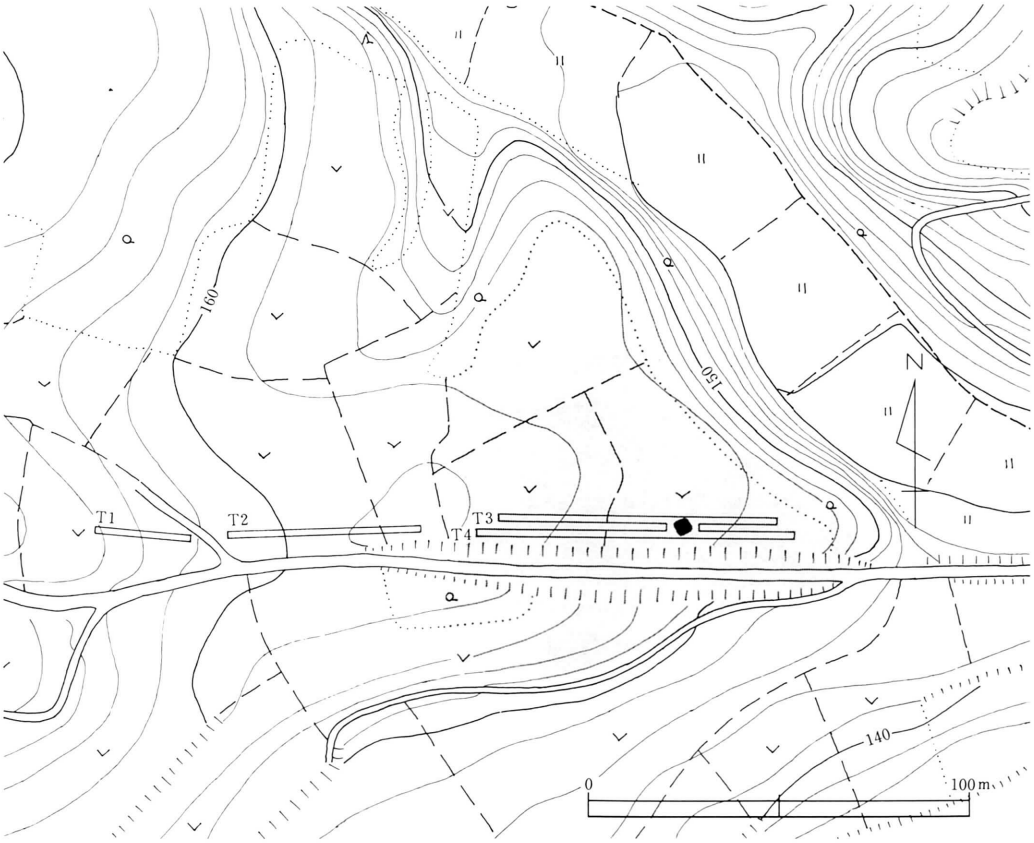
調査期日：平成４年12月10日

本遺跡は、下斗米集落の西約500m、下斗米川の右岸の標高約155mの丘陵上に位置する。遺跡の北東には谷地に入り込み、南は緩斜面を呈するため、東に張り出す丘陵と見える。

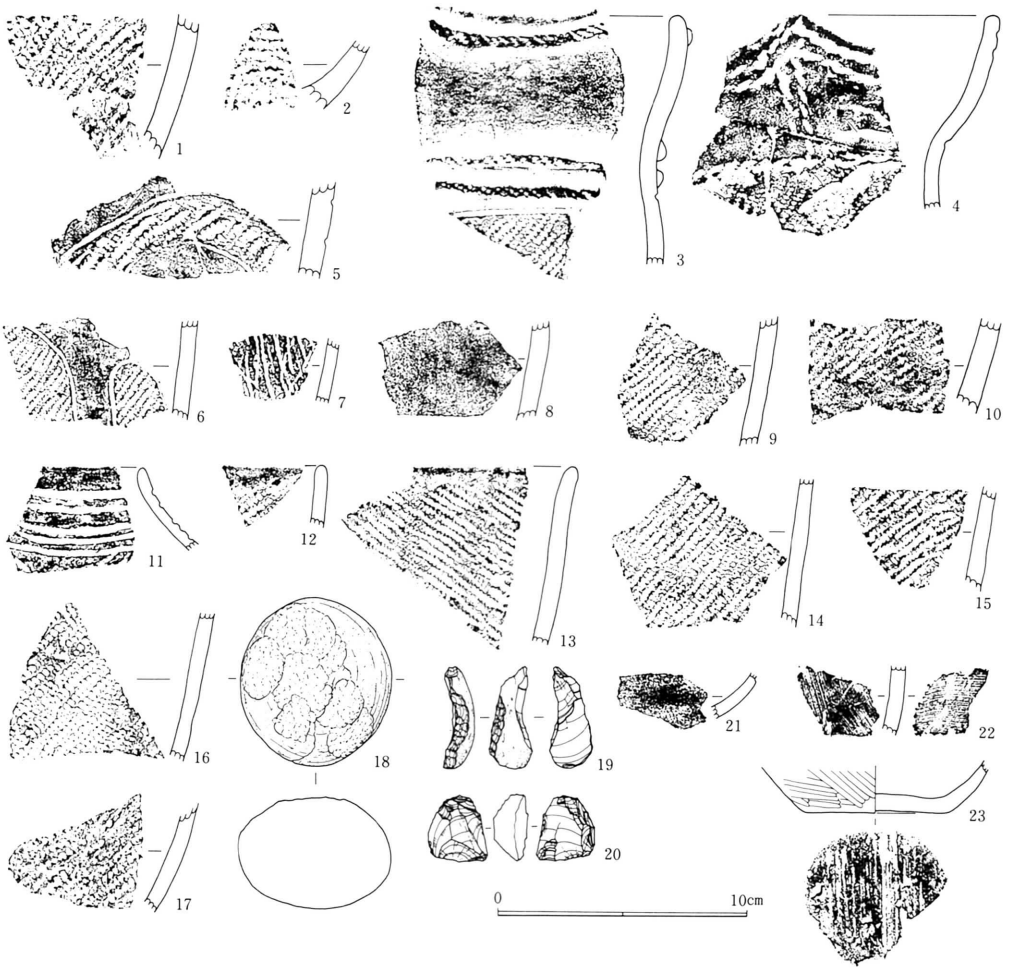
基本層序は、Ⅰ層（耕作土）、Ⅱ層（黒色土）、Ⅲ層（暗黒褐色土・中掘浮石を一部含む）、Ⅳ層（茶褐色土）、Ⅴ層（明黄褐色浮石・南部浮石）、Ⅵ層（黒色土）、Ⅶ層（黄褐色砂質粘土）、Ⅷ層（白色凝灰岩風化層）である。



第71図



第72図　寺久保遺跡トレンチ配置図



第73図　寺久保遺跡出土遺物

事業予定地に沿い、T_1～T_4のトレンチを設定した（第72図）。T_1・T_2では、大半がⅦ・Ⅷ層まで削平され、遺構・遺物は確認できなかった。T_3・T_4では、Ⅲ層から縄文時代後期初頭の土器（第73図３～７）が、Ⅳ層で前期前半の胎土に繊維を含んだ土器（１・２）が出土した。場所によっては、焼けた角礫も数点まとまって出土するなど、遺物包含層の存在を確認できた。珪岩小円礫を素材とする掻器（19）・楔形石器（20）は、Ⅲ層の時期のものであろう。

遺構は両トレンチ中央部で、白色火山灰を埋土に持つ一辺約５ｍの方形の竪穴住居跡を検出した。直接的な遺物は得ていないが、周辺から有段の土師器坏(21)、底部静止糸切りでミガキを施す坏（23）等が出土している。また、出土層位は不祥だが、無頸壺状の資料（11）もあり、弥生時代の遺構等の存在も予想できる。なお、Ⅴ層以下では、遺構・遺物は確認していない。

本遺跡については、平成６年度以降に発掘調査を実施することとした。

9．主要地方道一戸山形線改良事業

(1) 小井田Ⅰ遺跡（第74図）

所在地：一戸町小井田

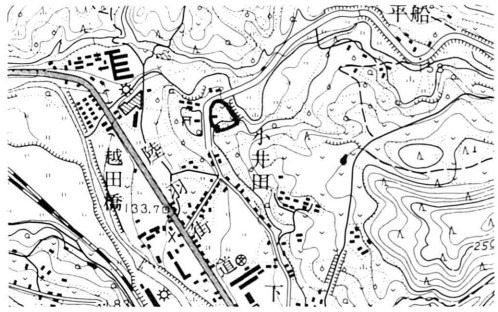
調査期日：平成４年12月10日

小井田Ⅰ遺跡は、一戸町市街地の北東部、馬渕川とその支流楢山川によって形成された段丘上に位置する。遺跡中央部での標高は約160mを計る。

調査は、昨年度家屋等があったため調査できかねた部分を中心にT_1～T_4のトレンチを設定した（第75図）。T_1・T_2は、いずれも家屋建設の際の工事により、Ⅳ層とした黄褐色粘土層まで削平され、その上は攪乱層が堆積し、遺構・遺物は出土しなかった。

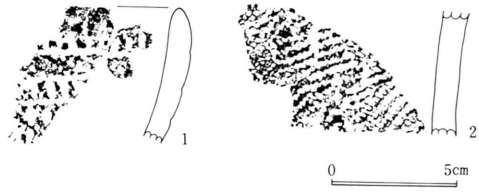
T_3は、昨年度の調査所見と同様に、現代のゴミ捨て場のため、大規模に攪乱されていた。

T_4は、層的には比較的安定していたが、遺構は確認できず、僅かに土器片が出土したのみであった。遺跡の主体は、おそらく東側の畑地に広がるものと推定される。第76図に示した土器のうち１は、絡条体圧痕を持つ口縁部で、縄文中期前葉に位置付けられよう。２も、縦位回転の特徴から同時期と考えたい。



第74図

第75図　小井田Ⅰ遺跡トレンチ配置図



第76図　小井田Ⅰ遺跡出土遺物

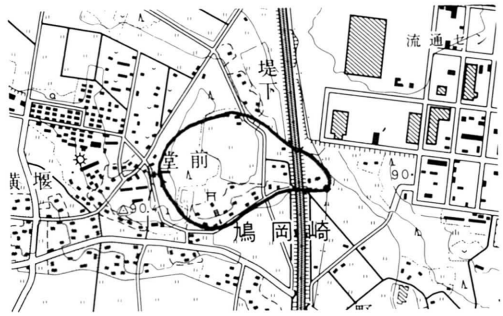
10．広域農道整備事業・北上地区

(1) 鳩岡崎上の台遺跡（第77図）

所在地：北上市上江釣子鳩岡崎第２地割

調査期日：平成４年10月15・16日

本遺跡は、東北自動車道北上江釣子インターの北約２kmの中位段丘上に位置する。かって東北自動車道の建設に際し、発掘調査が行われ、またその後も数次にわたる調査によって

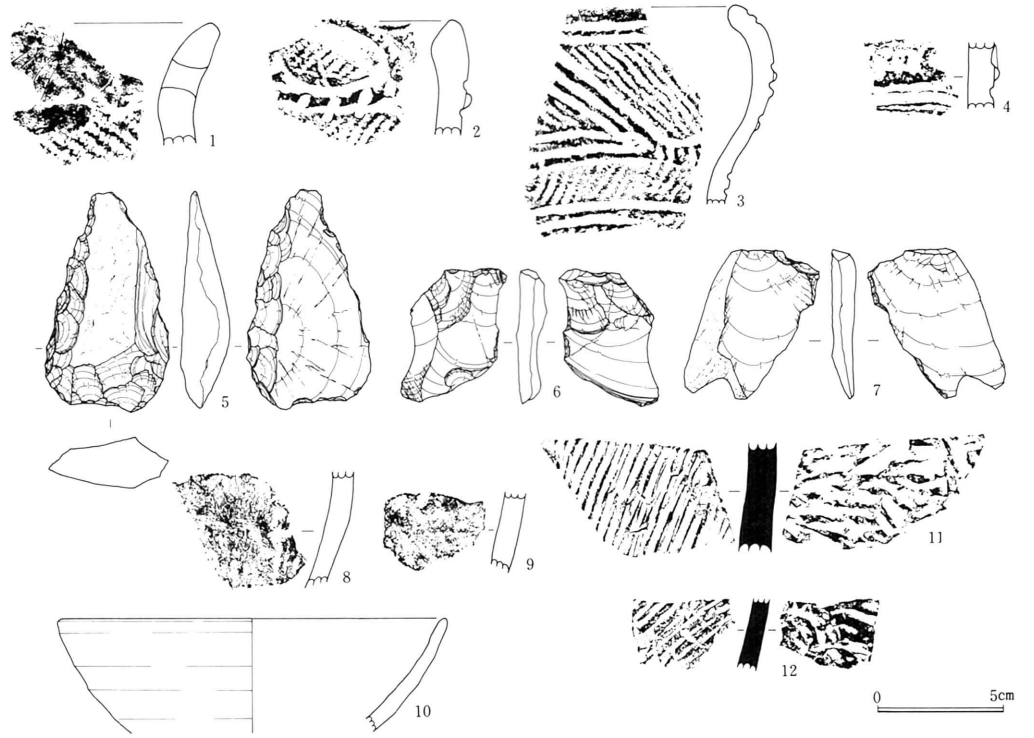


第77図

第78図　鳩岡崎上の台遺跡トレンチ配置図

縄文時代から古代・中世にわたる大規模な遺跡として知られていた。現状は、畑・水田である。

今回の調査では、道路計画路線に沿い、T_1～T_6のトレンチを設定した(第78図)。T_1ではかっての水田造成のため、V層とした村崎野パミスの堆積層まで削平されており、上位の盛土に若干の遺物は含むが、遺構等は確認できなかった。T_2では、一部削平されているものの、褐色土を埋土とする住居跡状の遺構が検出された。時期は、縄文中期と思われる。



第79図　鳩岡崎上の台遺跡出土遺物

T_4は、最も遺構が集中する。中央部付近で、埋土に白色火山灰を含む方形プランの住居跡を検出した。この東西にも焼土・カマド状の遺構がみられ、おそらく住居跡と思われる。これらからは、平安時代の土師器・須恵器（第79図10～12）が出土している。T_5～T_7は、水田のため表土直下に黄褐色粘土がみられるなど、削平されているが、数基の土坑・溝状遺構等を検出している。

縄文時代に属する確実な遺構は今回の調査では確認していないが、第79図１～４に示した大木８a式土器は、これまでの調査による出土資料と矛盾なく、かなりの遺構・遺物の存在が推定できる。また、かっての調査では、出土層位は不確実ながらナイフ形石器も出土しており、旧石器の出土等も予想されることから、平成５年度に発掘調査を実施することとした。

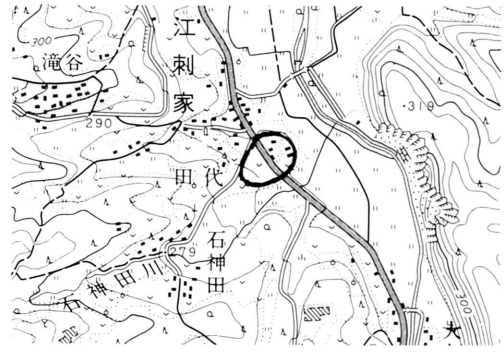
11．農免農道整備事業・江刺家地区

(1) 田代遺跡（第80図）

所在地：九戸村江刺家第３地割

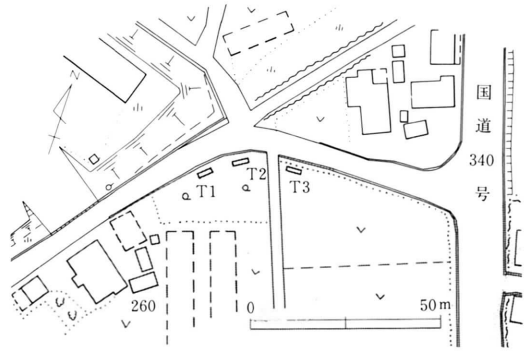
調査期日：平成４年５月26日

本遺跡は、瀬月内川の西岸、国道340号を挟んで広がる低位段丘上に位置する。標高は約260mを測る。



第80図

昭和40年代以降、数次にわたる調査が行われており、縄文時代前期末から中期後半に至る大規模な遺跡として著名である。今回の調査は、道路拡幅に係る僅かな部分であったが、T_1～T_3のいずれのトレンチからも多量の遺物が出土した。遺物包含層は、最下層までは確認していないが、厚さ50cmを越すと推測できる。

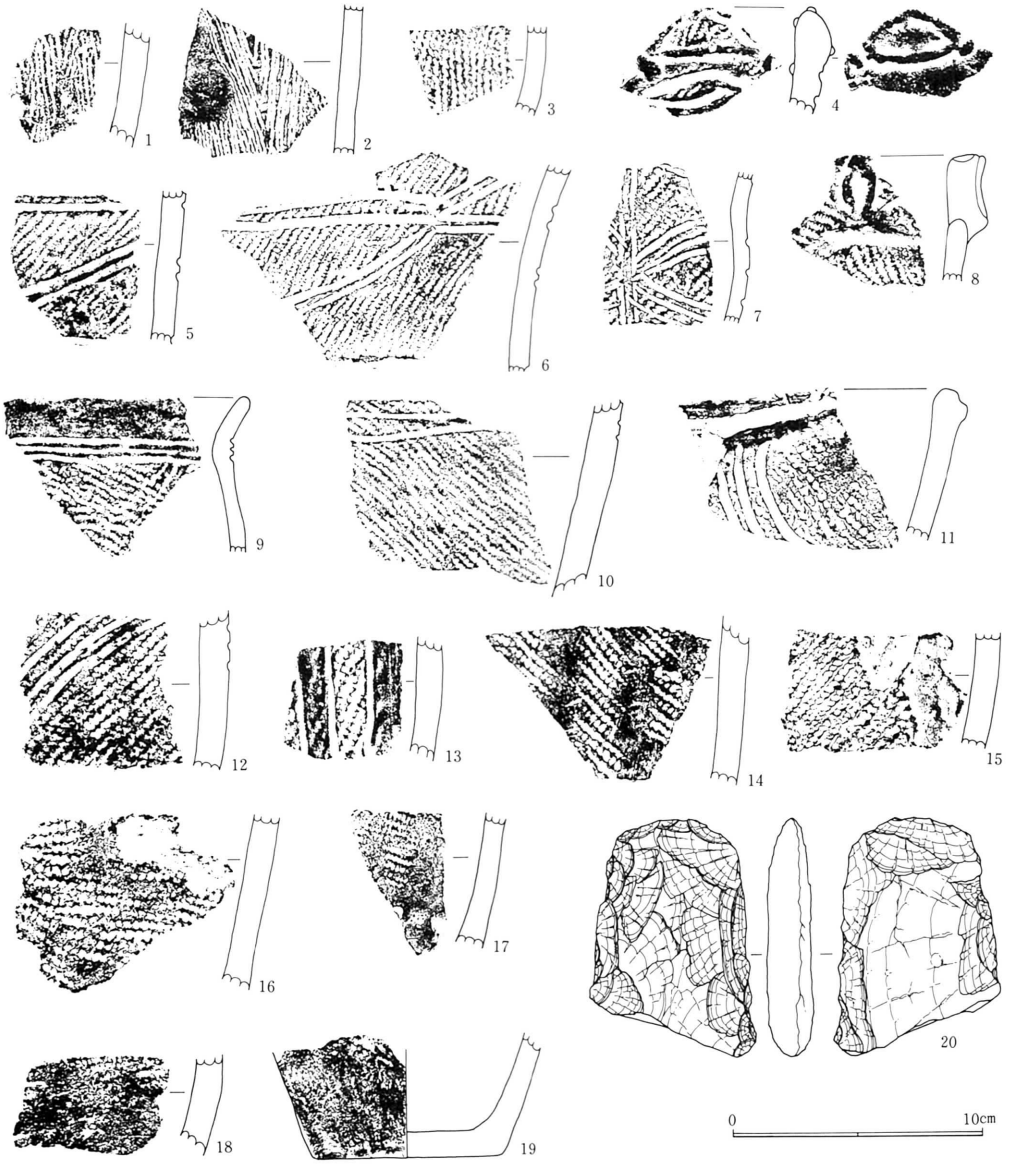


第81図　田代遺跡トレンチ配置図

T_2では、下層に湧水があり、旧地形を考慮すると、小規模な沢地形に遺物が廃棄され、包含層を形成した可能性がある。この湿潤な土層中には、骨片・炭化物も確認できた。

また、T_1・T_3では焼土ブロックもみられた。周辺の状況から原位置にあるものではなく、やはり廃棄の所産にかかるものと判断された。

出土遺物を第82図に示した。木目状撚糸文（１・２）、縦走撚糸文（３）は、円筒下層d式に比



第82図　田代遺跡出土遺物

定できる。4は円筒上層d式の口縁突起、5～7は上層e式で、5・6は同一個体である。大木8b式（11）、大木9式（13）もあるが、胴部の縄文は縦回転を基本とする（14）など、主体となるのは縄文中期中葉と考えられる。石器類は、硅岩製の打製石斧（20）などのほか、剥片が数点出土している。

以上の調査結果から、本地区については、平成5年度に発掘調査を実施することとした。

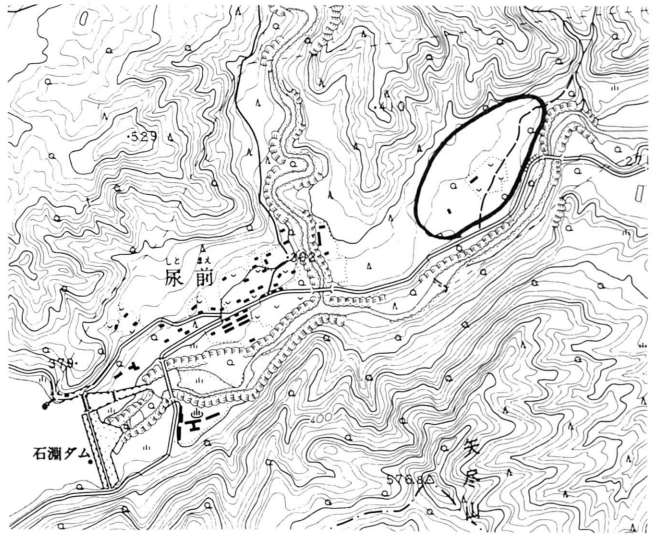
12. 胆沢ダム建設関連調査

(1) 下尿前II遺跡（第83図）

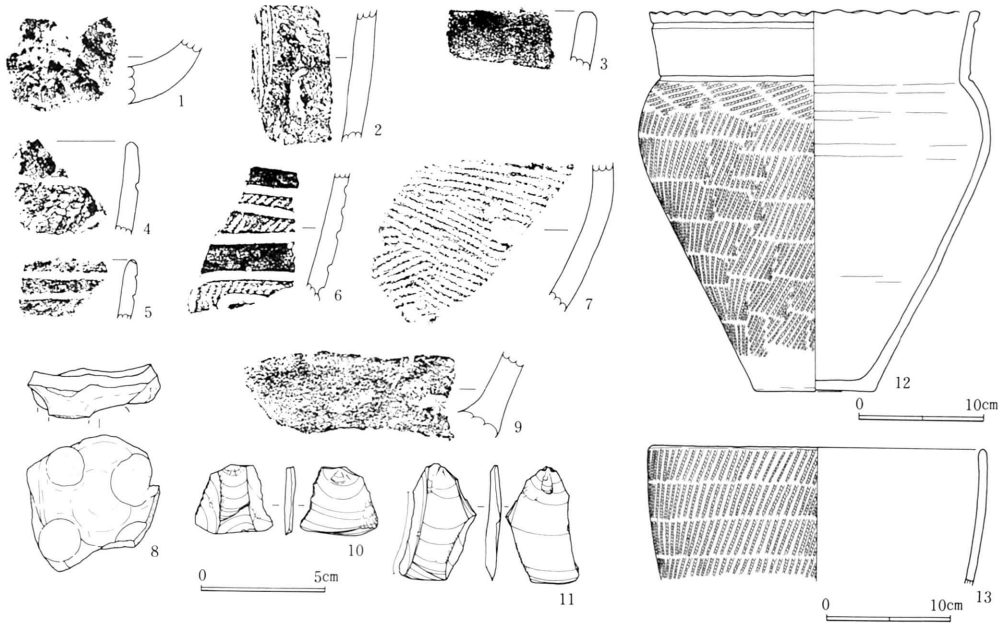
所在地：胆沢郡胆沢町大字若柳字尿前

調査期日：平成4年10月19日～21日、11月12日～13日

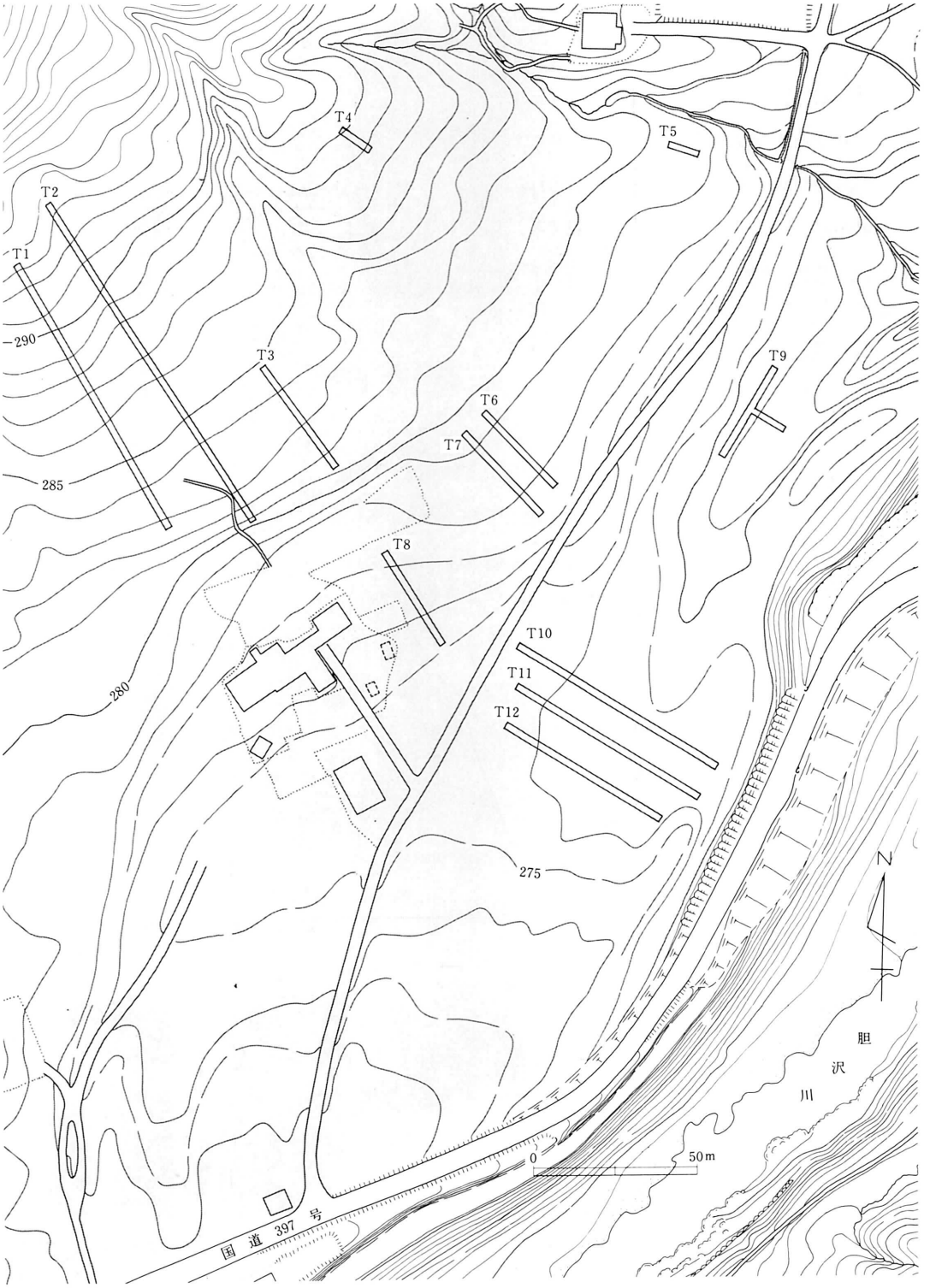
本遺跡は、胆沢川と尿前川に挟まれた丘陵裾部の南側緩斜面に位置し、標高は約275m～295mを測る。昨年度は工事用道路のために、本遺跡西側に隣接する下尿前IV遺跡の調査を実施したが、縄文晩期土器片及びピットが確認された。今年度は、ダムサイト本体にかかる部分について、第85図に示したとおりT_1～T_{12}のトレンチを設定し調査を実施した。T_9～T_{12}は崖錐性の大礫等が見られ遺構・遺物ともに発見されなかったが、T_2南端・T_4・T_5において縄文時代前期～晩期（第84図参照）の遺物包含層が検出された。そのため、かなり広い範囲にわたり遺構の存在が予想されることから、来年度以降本調査を実施することとした。



第83図



第84図　下尿前II遺跡出土遺物



第85図　下尿前II遺跡トレンチ配置図

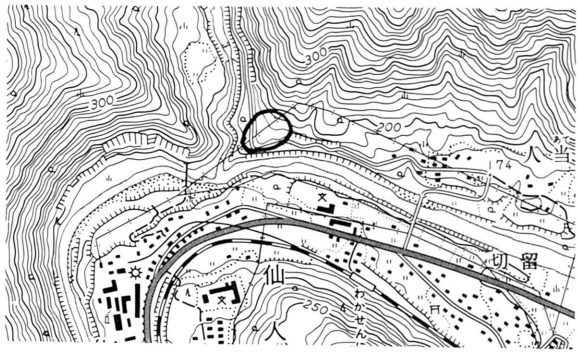
13. 北本内ダム建設事業

(1) 土場遺跡（第86図）

所在地：北上市和賀町和賀仙人

調査期日：平成４年12月７日

本遺跡は和賀川と北本内川との合流点の東側、標高約170mの段丘上に位置する。現河床とは、約30mの比高差があり急峻な崖となっている。

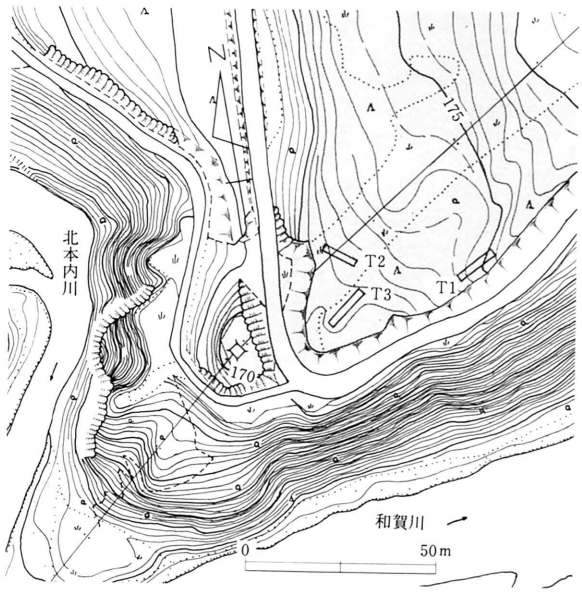


第86図

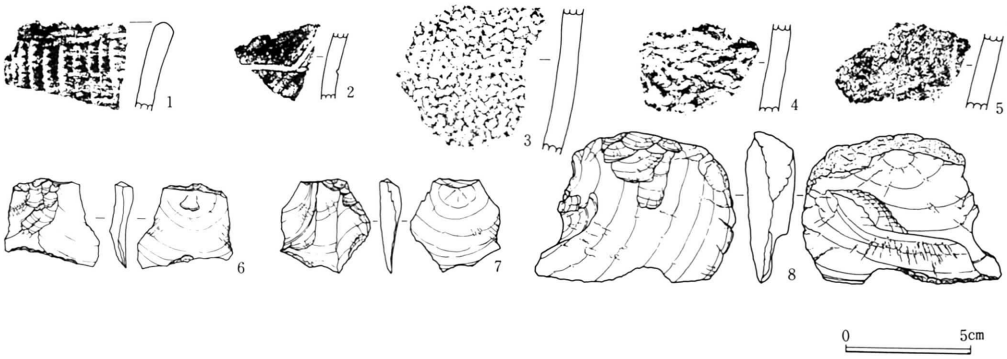
第87図に示したように、T_1～T_3トレンチを設定し、調査した。基本層序は、腐蝕土からなる表土（Ⅰ層）、黒色土（Ⅱ層）、黒褐色土（Ⅲ層）、暗赤褐色土（Ⅳ層）、淡黄褐色粘土（Ⅴ層）、黄褐色粘土（Ⅵ層）であり、その下位に礫層が形成される。

遺物は、T_2のⅢ層下位から縄文前期前半の土器（第88図３・４）、Ⅴ層上位から、縄文早期中葉の貝殻沈線文土器（同図１・２）が出土した。またⅢ・Ⅳ層にかけ、焼土のまとまりも検出した。

従って、本遺跡については、T_1以東を除外し、平成５年度に発掘調査を実施することとした。



第87図　土場遺跡トレンチ配置図



第88図　土場遺跡出土遺物

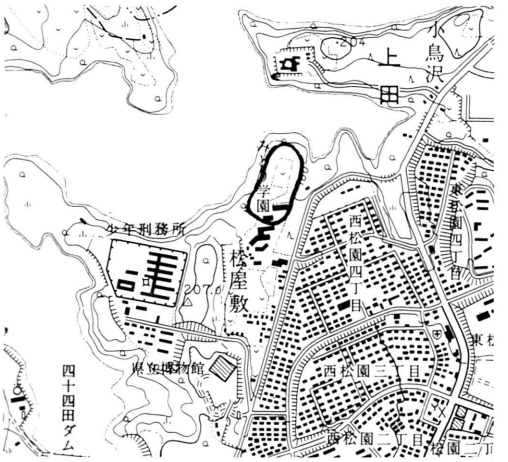
14. 県立松岡養護学校増築関連調査

(1) 松屋敷遺跡（第89図）

所在地：盛岡市上田字松屋敷11－18

調査期日：平成４年10月８日

本遺跡は、北上川に向かい張り出した舌状台地上の平坦部に立地し、標高は約170m～178mを測る。遺跡付近の現状は、畑地・山林などになっているが、台地先端部の畑では以前から縄文土器片が表採されており、盛岡市の周知の遺跡として登録されているところである。

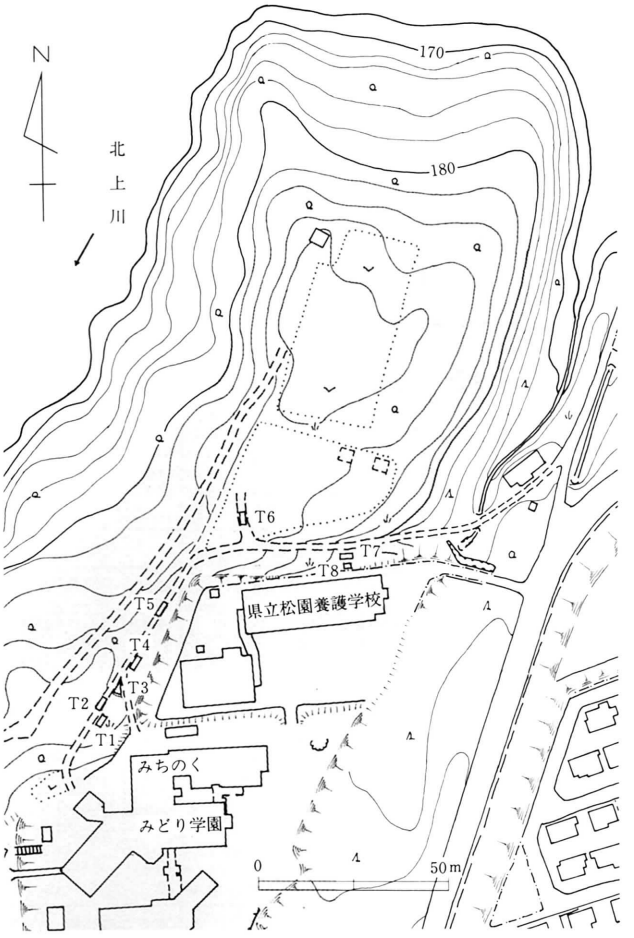


第89図

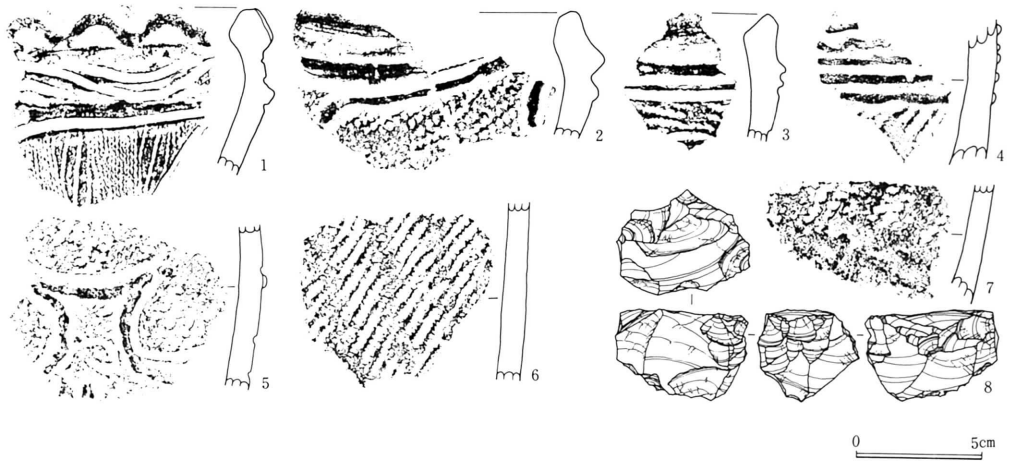
来年度、県立松岡養護学校増築に伴い校舎西側に駐車場を造成し、北側に進入路を新設することになったため、事業予定地内に第90図に示したとおり、トレンチT_1～T_8を設定し重機により試掘調査を実施した。

T_1・T_3～T_4では、表土直下から縄文中期土器片（第91図参照）が出土したため遺物包含層としてとらえ、重機による掘り下げをやめた。T_2・T_5は、道路造成による削平を受け砂利が盛られていたが、地山直上に漸移層が残っており、縄文土器片も出土した。T_6はキャンプ場として使用されていたため、全面的に削平されていたが、表土直下約10cmで多量の縄文中期土器片（第91図参照）が出土した。また、T_7・T_8は沢地形のため２mを越す盛土が見られたが、流れ込みと思われる包含層が検出された。

上記の調査結果から、駐車場及び進入路について本調査実施とした。



第90図　松屋敷遺跡トレンチ配置図



第91図　松屋敷遺跡出土遺物

15. その他の試掘調査

番号	事業名	事業者(依頼者)	遺跡名	所在地	調査日	遺構・遺物	備考
1	県営ほ場整備事業愛宕南部地区	岩手県	寺田II	江刺市	3/19		
2	〃	〃	中屋敷	〃	7/21	竪穴2	設計変更(盛土保存)
3	〃	〃	橋本	〃	2/15		
4	〃	〃	三百刈田	〃	2/15～16	竪穴2、土師器、須恵器	設計変更(盛土保存)
5	〃	〃	池向	〃	12/7,2/15	竪穴1、溝跡1、土師器	設計変更(盛土保存)
6	〃	〃	観音堂沖	〃	2/15～16	竪穴4、土師器	設計変更(盛土保存)
7	県営ほ場整備事業飯岡第一地区	〃	林崎III	盛岡市	7/27		
8	〃	〃	藤島	〃	7/28	竪穴1、土師器、須恵器	設計変更(盛土保存)
9	〃	〃	二又	〃	7/28	土師器	
10	〃	〃	内村	〃	7/29		
11	県営ほ場整備事業北方地区	〃	上平沢I	胆沢郡金ヶ崎町	7/22		
12	〃	〃	改断	〃	7/22	土師器、陶器	
13	〃	〃	改断II	〃	7/22	竪穴2、土坑1、土師器、須恵器	設計変更(盛土保存)
14	農免農道整備事業前沢2期地区	〃	明後沢	胆沢郡前沢町	2/18		
15	広域農道整備事業東磐井地区	〃	尖ノ森	東磐井郡千厩町	9/16～18		
16	〃	〃	又ヶ沢	〃	9/16～18		
17	〃	〃	松倉I	〃	9/16～18	縄文土器	
18	〃	〃	入山II	〃	9/16～18		
19	〃	〃	入山I	〃	9/16～18		
20	広域農道整備事業吉ヶ沢地区	〃	椛木	岩手郡葛巻町	11/25		
21	〃	〃	宇別	〃	11/25		
22	県道上米内停車場線道路改良	〃	米内沢C	盛岡市	9/14		
23	緊急地方道整備事業小倉地区	〃	尤部	稗貫郡東和町	7/9	縄文土器	
24	県道和賀金ヶ崎胆沢線道路改良	〃	田中館	北上市	10/27	土師器	

番号	事業名	事業者(依頼者)	遺跡名	所在地	調査日	遺構・遺物	備考
25	県道和賀金ヶ崎胆沢線道路改良	岩手県	八幡野	北上市	9/10		
26	県立千厩病院建設	〃	草井沢	東磐井郡千厩町	2/19		
27	国道397号道路特殊改良	〃	土橋	胆沢郡胆沢町	1/13,14		
28	県立一関工業高校実習棟建設	〃	釜ヶ淵	一関市	9/16		
29	県営開拓地整備滝の里地区	〃	相川II	陸前高田市	10/23		
30	鷹生ダム建設事業	〃	上代	大船渡市	10/22		
31	〃	〃	大野林	〃	10/22		
32	県道大船渡三陸線道路改良	〃	槻館城	気仙郡三陸町	9/21,11/30	縄文土器	
33	県営災害復旧事業	〃	二日市館	陸前高田市	11/14		
34	砂鉄川河川改修事業	建設省	如来地	東磐井郡川崎村	2/18,19	竪穴状遺構2、土師器	記録保存調査済
35	三陸国道山田道路建設事業	〃	山ノ内II	下閉伊郡山田町	9/25		
36	三陸国道大船渡道路建設事業	〃	丸森I	大船渡市	9/24		
37	国道45号稲荷前バイパス建設	〃	仁沢瀬I	岩手郡滝沢村	7/13	陥し穴1	記録保存調査済
38	県営ほ場整備事業湯本第一地区	岩手県	湯本	花巻市	3/25		
39	国道397号道路改良事業	〃	羽黒堂	水沢市	12/19		
40	町道種市漁港線道路改良	〃	ゴッソウ	九戸郡種市町	3/18	竪穴1、縄文土器	再来年度発掘調査
41	県道盛岡環状線道路改良	〃	蝦夷森古墳群	盛岡市	12/4	縄文土器	
42	国道397号線道路改良	〃	箸塚	胆沢郡胆沢町	8/6		
43	土地改良総合整備事業	〃	久田I	北上市	11/16	土師器	
44	〃	〃	寺村	〃	11/17	土師器	

III　分 布 調 査

1、県営ほ場整備（赤石第一地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第３表　県営ほ場整備（赤石第一地区）関連遺跡一覧　　平成４年４月13日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＬＥ77－0077	北日詰東坊Ⅰ	散布地	かわらけ	古代～中世	筑波町北日本東ノ坊		
2	－0078	〃　Ⅳ	〃	〃	古代～中世	〃　〃		
3	－0087	比爪館	居館跡	土師器・かわらけ・堀	古代～中世	〃　〃　字箱清水		町指定史跡
4	－1007	五郎沼	散布地	縄文土器	縄文・古代中世	〃　南日詰　〃		
5	－1037	伝蛇塚	〃			〃　〃　〃		
6	－1049	南日詰宮崎	〃	土師器	古代	〃　〃　字宮崎		

2、県営ほ場整備（上平沢地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第４表　県営ほ場整備（上平沢地区）関連遺跡一覧　　平成４年４月13・14日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＬＥ66－0037	宮手	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代	筑波町宮手字朴田		
2	－0075	土館浦田	〃	縄文土器	縄文	〃　土浦字浦田		
3	－0043	上戸	〃	土師器	古代	〃　下松本字上戸		
4	－0083		〃	〃　・須恵器	〃	〃　宮手字谷地館	新規	
5	－0071		〃	〃	〃	〃　下松本上戸	〃	
6	－0070		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
7	－0081		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
8	－0091	栃花	〃	〃	〃	〃　宮手字谷地館		範囲拡大

3、県営ほ場整備（飯岡第一地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第５表　県営ほ場整備（飯岡第一地区）関連遺跡一覧　　平成４年４月14～16日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＬＥ26－1003	林崎Ⅱ	集落跡	土師器・須恵器	平安	盛岡市上飯岡林崎		
2	－0051		散布地	〃　・　〃	〃	〃　〃　〃	新規	
3	－0060	藤島	集落跡	〃　・　〃	〃	〃　〃　藤島		範囲拡大
4	－0098	深渕Ⅰ	散布地	〃　・縄文土器	〃・縄文	〃　〃　深渕		
5	－0020	辻屋敷	集落跡	〃	〃	〃　下鹿妻辻屋敷		
6	－0034	二又	〃	〃	〃	〃　下飯岡二又		
7	－0046	内村	〃	〃	〃	〃　〃　内村・石橋		
8	－0027	西田Ａ	〃	〃	〃	〃　下鹿妻西田		
9	－0034	上越場Ｂ	〃	〃	〃	〃　本宮上越場		
10	－0069	中屋敷	散布地	〃	〃	〃　下飯岡中屋敷		

4、低コスト化水田農業大区画ほ場整備（宮手・稲藤地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第６表　低コスト化水田農業大区画ほ場整備（宮手・稲藤地区）関連遺跡一覧

平成４年10月12～14日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＬＥ66－0037	宮手	散布地	土師器	平安・中世	筑波町宮手字朴田		
2	－1052		〃	〃	〃	〃　〃　字野中	新規	
3	－1047		〃	〃	〃	〃　〃　字北田	〃	
4	－1005	上平沢新田	集落跡	〃	〃	〃　〃　上平沢新田		
5	－1251	六本松	散布地	〃	〃	〃　平沢字六本松		範囲拡大
6	－2104	稲藤館	城館跡		中世	〃　稲藤字田屋		
7	－2156		散布地	土師器	平安	〃　〃　字南七合	新規	
8	－2166		〃	〃	〃	〃　〃　字廿木	〃	
9	－2177		〃	〃	〃	〃　〃	〃	

5、県営ほ場整備事業（綾織地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第７表　県営ほ場整備事業（綾織地区）関連遺跡一覧　　平成４年５月11・12日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＭＦ43－2321		散布地	縄文土器・土師器	縄文・平安	遠野市綾織町上大久保	新規	
2	52－0226	巫子塚	〃			〃　〃　二日町		
3	－0139	谷地(上の)館	城館跡		中世？	〃　〃　館川原		石碑あり
4	43－2236		散布地	土師器・須恵器	平安	〃　〃　大久保		
5	－2241		〃	〃	平安	〃　〃　〃		事業地外
6	－2149		〃	縄文土器	縄文	〃　〃　大畑		〃
7	－2157		〃	〃	縄文	〃　〃　〃		〃

6、県営農村活性化住環境整備事業（北方地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第８表　県営農村活性化住環境整備事業（北方地区）関連遺跡一覧　平成４年４月27・28日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＭＥ85－2060		散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代	金ケ崎町西根上平沢	新規	
2	95－0060		〃	〃　・石器	〃	〃　〃　改断	〃	
3	85－2097	改断	〃	土師器	古代	〃　〃　〃		
4	－2019		〃	〃	〃	〃　〃　上平沢	新規	

7、県営農村活性化住環境整備事業（大桜地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第９表　県営農村活性化住環境整備事業（大桜地区）関連遺跡一覧　平成４年４月27・28日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＮＥ56－1201	日呂木本杉	散布地	土師器	古代	前沢町本杉		範囲拡大
2	－2180		〃	〃　・須恵器	〃	〃　大桜	新規	

8、県営水環境整備事業（新堰地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第10表　県営水環境整備事業（新堰地区）関連遺跡一覧　平成４年５月12・13日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＭＥ66－0238		散布地	縄文土器	縄文	北上市黒沢尻町小鳥崎	新規	
2	－1222	牡丹畑	〃	〃　・須恵器	〃　・平安	〃　〃　里分		

9、広域農道整備事業（東磐井地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第11表　広域農道整備事業（東磐井地区）関連遺跡一覧　平成４年７月14・15日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＯＦ12－0137		屋敷跡		近世	千厩町小梨尖ノ森		
2	－0141	松倉Ｉ	散布地	土器・堀跡	縄文・中近世	〃　〃　松倉		範囲拡大
3	－0170	又ケ沢	〃		縄文	〃　〃　又ケ沢		〃
4	－1121		〃		〃	〃　〃　入山	新規	
5	－1038	入山	〃		〃	〃　〃　〃		事業地外
6	－1057	本和廃寺跡	寺院跡		近世	〃　〃　〃		

10、一般農道整備事業（太田地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第12表　一般農道整備事業（太田地区）関連遺跡一覧　平成４年５月25・26日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＪＥ35－1338		散布地	土器・石器	縄文	浄法寺町太田		
2	－1367	長袖	〃	〃	〃	〃　〃		
3	－1377	長袖南Ｉ	〃	〃	〃	〃　〃		
4	－1398		〃	〃	〃	〃　〃	新規	
5	－2014		〃	〃	〃	〃　〃		
6	ＪＥ36－2130		〃城館	郭状の平場	中世（？）	〃　大清水		
7	－2151		〃	土器・郭・堀	縄文・中世	〃　〃		範囲拡大

11、県営農免農道整備事業（鳥長根地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第13表　県営農免農道整備事業（鳥長根地区）関連遺跡一覧　　平成４年５月24・25日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＪＥ36－0300		散布地	土器	縄文	浄法寺町浄法寺鳥長根	新規	

12、県営農免農道整備事業（晴山地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第14表　県営農免農道整備事業（晴山地区）関連遺跡一覧　　平成４年５月28・29日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＩＦ71－2388	沼III	散布地	土器	縄文	軽米町晴山字沼		
2	ＩＦ72－2070		〃	〃	〃	〃　〃　〃	新規	
3	－2008	染ケ沢III	〃	〃	〃	〃　〃染ケ沢		事業地外
4	－2110	染ケ沢IV	〃	〃	〃	〃　〃　〃		
5	－1281		〃	〃	〃	〃　高家長者森	新規	事業地外
6	－1299		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
7	－2341	京仏Ｉ	〃	〃	〃	〃　〃　京仏		
8	－2364	外川目IX	〃	〃	〃	〃　軽米外川目		範囲拡大

13、県営農免農道整備事業（上野地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第14表　県営農免農道整備事業（上野地区）関連遺跡一覧　　平成４年５月14・15日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＪＦ01－1008		散布地	土器	縄文	一戸町一戸小井田	新規	
2	－2098	北館Ｆ	〃	〃・陶器	縄文・弥生近世	〃　〃　北館		
3	ＪＦ02－0029	北館Ｇ	〃	〃・土師器	縄文・平安	〃　〃　〃		
4	－0131	上野Ｉ	〃	〃・〃	縄文・弥生平安	〃　〃　上野		
5	－0152	上野Ｊ	〃	〃	縄文	〃　〃　〃		範囲拡大
6	－1185	上地切	〃	〃・土師器	縄文・奈良	〃　岩館上地切		
7	－2117	御所野III	〃	〃	縄文	〃　〃　御所野		
8	－2154		〃	〃	〃	〃　根反中瀬	新規	

14、広域農道整備事業（盛岡西部地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第16表　広域農道整備事業（盛岡西部地区）関連遺跡一覧　　平成４年６月４～６日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＫＥ57－0201	芋田II	集落地	土器・土師器	縄文・平安	玉山村芋田字芋田		範囲拡大
2	－0205	芋田沢	散布地	〃　・　〃	縄文～古代	〃　〃　〃		
3	－0208		〃	土師器	古代	〃　〃　田沢	新規	
4	ＫＥ58－1003	田の沢	〃	土器	縄文	〃　渋民田の沢		事業地外
5	－1025	田の沢Ｂ	〃	〃	〃	〃　〃　〃		
6	－1037		〃	〃	〃	〃　〃　〃	新規	
7	－1098		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
8	ＫＥ68－1126		〃	〃	〃	〃　玉山城内第四	〃	事業地外
9	－2290	間洞	〃	〃	〃	〃　〃　大平	〃	
10	ＫＥ78－0169		〃	〃	〃	〃　日戸間洞		
11	－0188		〃	〃	〃	〃　〃　弓打沢	新規	
12	－0196		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
13	－1217		〃	〃	〃	〃　〃	〃	
14	－2109		〃	〃	〃	〃　川又	〃	
15	－2157	宇登	〃	〃	〃	〃　〃　宇登		
16	－2115		〃	〃	〃	〃　〃　上釘の平	新規	
17	－2106		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	事業地外
18	－2137		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
19	－2192		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	事業地外
20	－2184		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
21	－2168		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	事業地外

15、一般県道上斗米金田一線改良整備事業関連調査

事業者：二戸土木事務所

第17表　一般県道上斗米金田一線改良整備事業関連遺跡一覧　　平成４年５月14・15日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＩＥ79－1126	舌崎Ａ	散布地	土器	縄文	二戸市金田一舌崎		
2	－1121	舌崎Ｂ	〃	〃	〃	〃　〃		
3	－1177		〃	〃	〃	〃　〃	新規	
4	－1188		〃	〃・石器	〃・弥生	〃　〃	〃	
5	－1272		〃	〃	〃	〃　〃	〃	

16、県道二戸田子線改良整備事業関連調査

事業者：二戸土木事務所

第18表　県道二戸田子線改良整備事業関連遺跡一覧　　平成４年９月３日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＩＥ99－0081		散布地	土器	縄文	二戸市下斗米字米田平	新規	
2	ＩＥ98－0397	下斗米館	城館跡	堀・郭	中近世	〃　〃　〃		
3	－1332		散布地	土器	縄文	〃　〃　〃	新規	
4	－1321	寺久保	〃	〃・石器	〃	〃　〃　〃	〃	
5	－1241		〃	須恵器	古代	〃　〃　字門松	〃	城館跡？
6	－1271	門松	〃	土器	縄文	〃　〃　〃	〃	

17、一般国道283号仙人道路改築計画関連調査

事業者：建設省三陸国道工事事務所

第19表　一般国道283号仙人道路改築計画関連遺跡一覧　　平成４年６月18日・19日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＭＦ76－0005	平野原	散布地	土器・石器	縄文	遠野市上郷町平野原		
2	－0027		〃	〃	〃	〃　〃　〃	新規	
3	－0029		〃			〃　〃　〃		可能性あり
4	－0185		〃			〃　〃　赤羽根		〃
5	－0298	篠館	城館跡	郭・土塁・堀・土器	縄文・中世	〃　〃　小原田		
6	－1306	滝沢	散布地			〃　〃　滝沢		
7	ＭＦ77－2155		〃	土器	縄文	住田町上有住秋丸	新規	
8	ＭＦ88－0141		〃	〃・石器	〃	〃　〃　大洞	〃	
9	－0151		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	

18、一般県道川目津志田線改良工事関連調査

事業者：盛岡土木事務所

第20表　一般県道川目津志田線改良工事関連遺跡一覧　　平成４年８月28日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＬＥ28－1021	田の沢	散布地	土器	縄文	盛岡市手代森字金堀沢		
2	－0084	下田の沢	〃	〃	〃	〃　川目第８地割		
3	－0044	田の沢	〃	〃	〃	〃　〃　〃		

19、一般県道永沢水沢線松本館地区道路改良工事関連調査

事業者：水沢土木事務所

第21表　一般県道永沢水沢線松本館地区道路改良工事関連遺跡一覧　　平成４年８月７日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＮＥ05－0196	清水	散布地	土器	弥生	金ケ崎町永沢清水		
2	－1134	春慶	〃	石器	縄文	〃　〃　春慶		
3	－1147		〃	土器	〃	〃　〃　踊子	新規	
4	－1263	大林城	城館跡	堀・平場	中近世	〃　〃　松本館		範囲拡大

20、一般県道和賀金ケ崎胆沢線鹿合地区道路改良工事関連調査

事業者：水沢土木事務所

第22表　一般県道和賀金ケ崎胆沢線鹿合地区道路改良工事関連遺跡一覧　平成４年８月６日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＮＥ23－0184	下鹿合東	散布地	土器	縄文	胆沢町若柳字鹿合		
2	－0177		〃	〃	〃	〃　〃　〃	新規	
3	－0189		〃	〃・土師器	〃・古代	〃　〃　愛宕	〃	

21、県道相去飯豊線新九年橋橋梁整備事業関連調査

事業者：北上土木事務所

第23表　県道相去飯豊線新九年橋橋梁整備事業関連遺跡一覧　　平成４年９月28日・29日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＭＥ66－1089	九年橋	集落跡	土器・石器	縄文	北上市九年橋三丁目		
2	ＭＥ65－2366		散布地			〃　鬼柳荒堰		可能性あり

22、県道相去飯豊線（北上南ＩＣアクセス道路）建設事業関連調査

事業者：北上土木事務所

第24表　県道相去飯豊線（北上南ＩＣアクセス道路）建設事業関連遺跡一覧

平成４年11月26日・27日

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＭＥ85－0188	前稗沢	集落地		平安	北上市相去町前稗沢		草地造成後
2	－1229	和田尻	散布地	土器	縄文	〃　〃　和田尻		
3	－0362		城館跡	空堀	中世？	〃　〃　往還西	新規	

23、一般県道長坂束稲前沢線・瀬原地区道路改良工事関連調査

事業者：一関土木事務所

第25表　一般県道長坂東稲前沢線・瀬原地区道路改良工事関連遺跡一覧

平成４年11月26日・27日

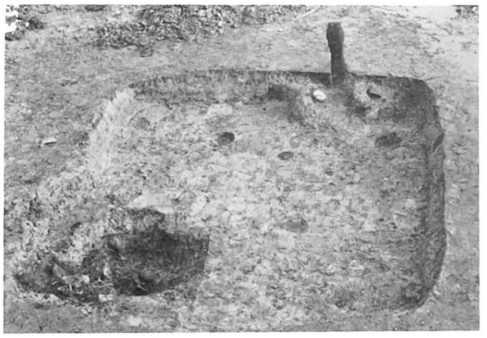
番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　跡・遺　物	時　代	所　在　地	新規の有　無	備　考
1	ＮＥ66－1066	瀬原	散布地	土師器	平安	平泉町平泉瀬原		
2	－1039		〃	〃	〃	〃　〃　〃	新規	

24、その他の分布調査

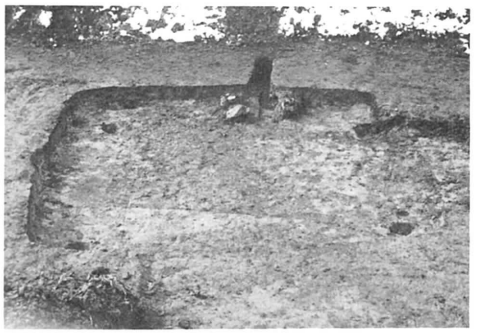
第26表

番号	事　業　名	事　業　者	市町村名	調査期日	周知	新規	可能性	計
1	工業団地関連	県商工労働部	久慈市	4、5、29	1			1
2	〃	〃	二戸市	4、6、1		4		4
3	開拓地整備事業（山井地区）	二戸土地改良事務所	一戸市	4、4、7・8				0
4	農免農道整備（奥中山地区）	〃	〃	4、4、7				0
5	産業教育振興事業（一関工）	県教委財務課	一関市	4、7、15	1			1
6	広域農道整備事業（北上）	花巻土地改良事業所	北上市	4、7、13	1			1
7	北上川流域下水道事業	北上川上流域下水道事務所	水沢市	4、7、13	2			2
8	開拓地整備（小繁地区）	二戸土地改良事業所	一戸町	4、7、7・8				0
9	盛岡環状線交通安全施設整備	盛岡土木事務所	盛岡市	4、4、16	1	1		2
10	東和病院建設	県医療局	東和町	4、5、12				0
11	県営ほ場整備（区沢地区）	県農政部	花巻市	4、5、13				0
12	一般農道整備（平館地区）	〃	西根町	4、5、26				0
13	開拓地整備（滝の里地区）	大船渡振興局農林部	陸前高田市	4、7、17、18	1			1
14	道路災害防止工事	大船渡土木事務所	〃	4、7、27・28	1			1
15	県営ほ場整備（湯本第２）	県農政部	花巻市	7、31.8、27・28	1		3	4
16	国道107号凍雪害対策工事	北上土木事務所	湯田町	4、9、11				0
17	県道東和薄衣線改良工事	千厩土木事務所	川崎村	4、9、9				0
18	集積促進団地整備	地域振興整備公団	滝沢村				1	1
19	(仮)農業研究センター計画	県農政部	北上・花巻市				2	2
20	日形築堤工事	岩手工事事務所	花泉町	4、12、1				0
21	一関遊水地	〃	平泉町	4、12、16・17	7	1		8

Ⅳ　写 真 図 版

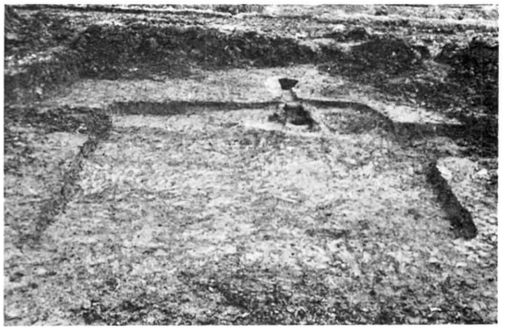


盛岡市・深渕Ｉ遺跡（２号住居）

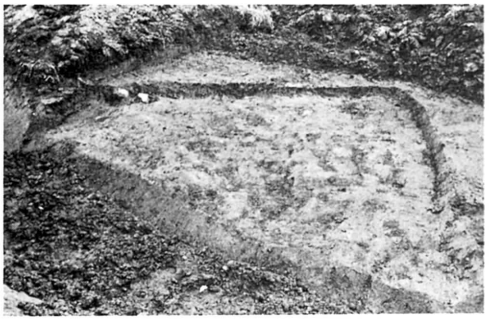


盛岡市・深渕Ｉ遺跡（３号住居）

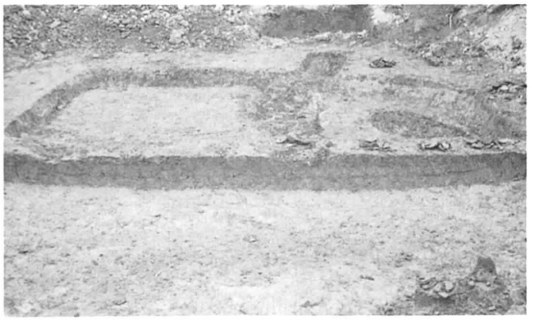
江刺市・下惣田遺跡（１号住居）



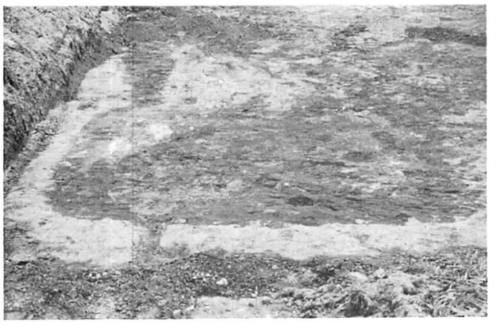
江刺市・下惣田遺跡（２号住居）



江刺市・下惣田遺跡（３号住居）

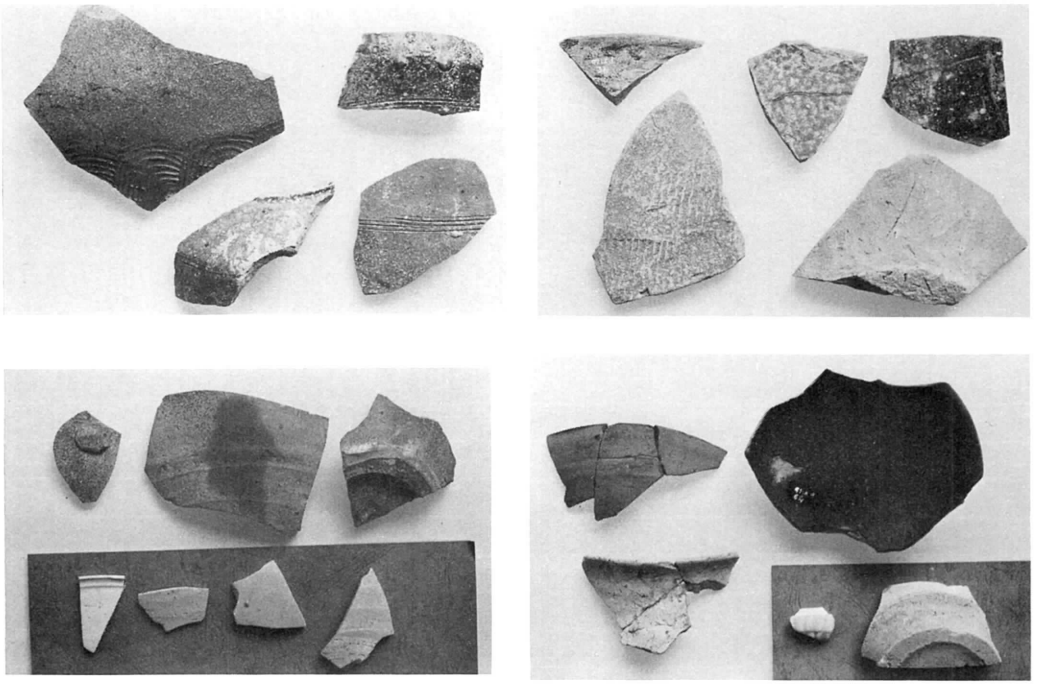


江刺市・落合遺跡第２地点



盛岡市・藤島遺跡竪穴住居検出状況

胆沢町・下尿前II遺跡試掘調査状況



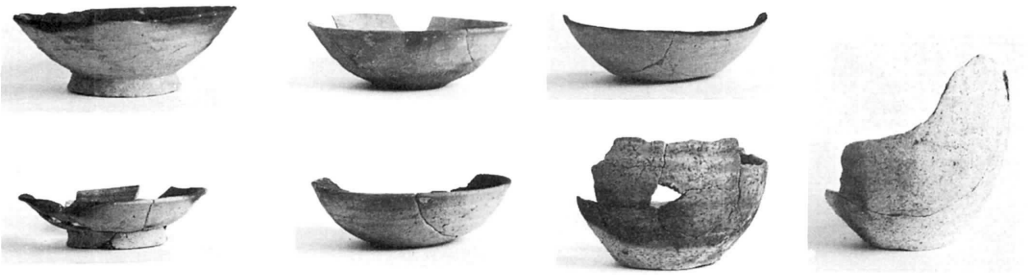
平泉町・泉屋遺跡出土遺物

盛岡市・深渕Ⅰ遺跡１号住居跡出土遺物

盛岡市・深渕Ⅰ遺跡
2号住居跡出土遺物

盛岡市・深渕Ⅰ遺跡3号住居出土遺物

江刺市・下惣田遺跡1号住居跡出土遺物

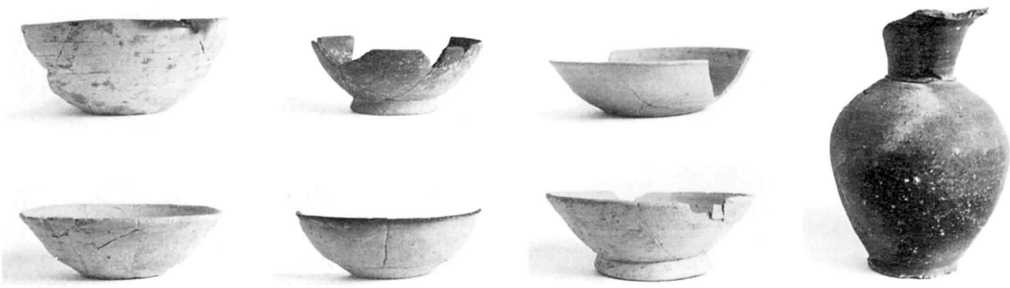


江刺市・下惣田遺跡・2号住居跡出土遺物

江刺市・落合遺跡
第１地点出土遺物

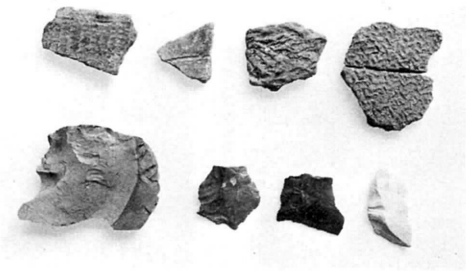
江刺市・落合遺跡
第２地点住居跡出
土遺物

江刺市・寺田遺跡出土遺物

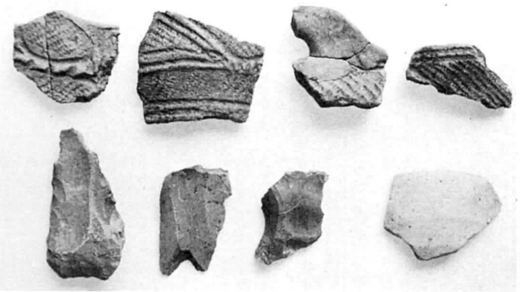


江刺市・力石・免遺跡出土遺物

江刺市・鴻ノ巣館出土遺物



◀北上市・土場遺跡出土遺物



北上市鳩岡崎・上の台遺跡▶
出土遺物

◀二戸市・寺久保遺跡出土遺物

九戸村・田代遺跡出土遺物▶

◀前沢町・目呂木本杉遺跡出土遺物

岩手県文化財調査報告第93集

岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成４年度)

発行日　平成５年３月

発　行　岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10－１

編　集　岩手県教育委員会事務局文化財

印　刷　杜陵印刷
盛岡市みたけ二丁目22番50号